

2025(令和 7)年度 リハビリテーション学部 シラバス

リハビリテーション学部 目次

学修成果（到達目標）、カリキュラムマップ	4
カリキュラムツリー	8

<1年生>

年間予定表	14
理学療法学専攻、作業療法学専攻 共通科目シラバス	16

開講科目	頁
日本語表現法	16
英語Ⅰ	17
英語Ⅱ	18
情報処理Ⅰ	19
情報処理Ⅱ	20
哲学	21
心理学	22
宗教と民族	23
人間関係論	24
法学入門	25
日本国憲法	26
経済と政策	27
社会学	28
社会保障論	29
物理学	30

開講科目	頁
生物学	31
健康スポーツⅠ	32
解剖学Ⅰ	33
解剖学Ⅱ	34
解剖学演習	35
解剖学実習	36
生理学Ⅰ	38
運動学総論	39
運動学演習Ⅰ	40
運動学演習Ⅱ	41
人間発達学	42
栄養学	43
救急救命学	44
リハビリテーション概論	45

理学療法学専攻 専門科目シラバス

開講科目	頁
理学療法学概論	48
トランスレーショナルセミナーⅠ	49

.....	48
-------	----

開講科目	頁
臨床実習Ⅰ（体験実習）	50

作業療法学専攻 専門科目シラバス

開講科目	頁
作業療法学概論	52
基礎作業学	53
トランスレーショナルセミナーⅠ	54

.....	52
-------	----

開講科目	頁
臨床実習Ⅰ（体験実習）	55
地域生活支援論	56

<2年生>

年間予定表	58
理学療法学専攻、作業療法学専攻 共通科目シラバス	60

開講科目	頁
ICT活用技術	60
教育心理学	61
教育学概論	62
自然環境と災害	63
統計学入門	64
健康スポーツⅡ	65
生理学Ⅱ	66
生理学実習	67
運動学実習	69
機能解剖学実習	71
臨床運動学	73

開講科目	頁
薬理学	74
病理学	75
小児科学	76
内科学	77
神経学	78
整形外科学	79
精神医学	80
臨床心理学	81
言語聴覚療法概論	82
チームアプローチ入門	83

理学療法学専攻 専門科目シラバス

開講科目	頁
トランスレーショナルセミナーⅡ	86
理学療法評価学	87
基礎理学療法評価学実習	88
運動器障害理学療法評価学実習	90

..... 86

開講科目	頁
物理療法学	92
物理療法学演習	93
日常生活活動学	94
日常生活活動学実習	95

作業療法学専攻 専門科目シラバス

開講科目	頁
精神医学演習	98
トランスレーショナルセミナーⅡ	99
作業療法評価学	100
身体障害作業療法評価学演習Ⅰ	101

..... 98

開講科目	頁
身体障害作業療法評価学演習Ⅱ	102
精神障害作業療法評価学演習	103
高次脳機能障害作業療法評価学演習	104
生活環境論	105

ナンバリング		108
教員一覧		111
実務経験を有する教員一覧		112
オフィスアワー・成績評価		113

リハビリテーション学部リハビリテーション学科 理学療法学専攻 カリキュラムマップ

学修成果（到達目標）

1 【人間基盤力】

人間愛の精神を根底とする豊かな教養と生命の尊厳に基づく高い倫理観を身につけ、物事を多角的に理解し思考する力

2 【連携協働力】

多職種連携の重要性を理解し、保健・医療・福祉チームの一員として他者と連携、協働する力

3 【専門実践力】

理学療法に関する幅広い知識・技術を身につけ、対象者の多様な病態に対して科学的根拠に基づく理学療法を実践できる力

4 【学術探究力】

学修課題や目標に主体的に取り組み、理学療法学を学術的に探究できる力

5 【課題解決力】

地域の課題及び対象者の状況やニーズを正しく捉え、リハビリテーションに関する問題を適切に解決できる力

学修成果とは、学生がその授業科目で身に付けるべき資質・能力（何ができるようになるのか）を表すものです。

●は、各授業科目が、学修成果の1～5のどれを身に付けることを目指すものかを表しています。

科目区分	授業科目の名称	単位数		授業回数	学修成果					履修年次								
		必修	選択		1	2	3	4	5	1年		2年		3年		4年		
										前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
教養科目 選択科目から2単位以上を修得	言語・情報系	日本語表現法	1		15	●					○							
		英語Ⅰ	1		8	●					○							
		英語Ⅱ	1		15	●						○						
		英語Ⅲ		1	15	●			●									○
		情報処理Ⅰ	1		15	●					○							
		情報処理Ⅱ	1		15	●						○						
		ICT活用技術		1	15	●			●				○					
	人文科学系	哲学	1		8	●			●		○							
		生命倫理学	1		8	●	●		●						○			
		心理学	1		8	●	●		●			○						
		教育心理学	1		8	●			●				○					
		宗教と民族		1	8	●						○						
		人間関係論	1		8	●	●		●		○							
	社会科学系	法学入門	1		8	●						○						
		日本国憲法		1	8	●						○						
		経済と政策	1		8	●						○						
		教育学概論	2		15	●			●					○				
		社会学		1	8	●			●			○						
		社会保障論		1	8	●			●			○						
	自然科学系	物理学	1		8	●		●	●		○							
		生物学	1		8	●		●	●		○							
		自然環境と災害	1		8	●				●				○				
統計学入門		1		8	●			●				○						
健康スポーツⅠ			1	8	●					○								
健康スポーツⅡ			1	15	●								○					
専門基礎科目	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	2		15	●		●			○							
		解剖学Ⅱ	2		15	●		●				○						
		解剖学演習	1		15	●		●			○							
		解剖学実習	1		20	●		●				○						
		生理学Ⅰ	2		15			●				○						
		生理学Ⅱ	2		15			●					○					
		生理学実習	1		20			●						○				
		運動学総論	1		8			●			○							
		運動学演習Ⅰ	1		15			●				○						
		運動学演習Ⅱ	1		15			●				○						
		運動学実習	1		20			●					○					
		機能解剖学実習	1		20			●							○			
		臨床運動学	2		15			●						○				
		人間発達学	1		8			●				○						

科目区分		授業科目の名称	単位数		授業回数	学修成果					履修年次								
			必修	選択		1	2	3	4	5	1年		2年		3年		4年		
											前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門基礎科目	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	薬理学	1		8			●						○					
		病理学	1		8			●						○					
		小児科学	1		8			●						○					
		老年学	1		8			●							○				
		内科学	2		15			●					○						
		神経学	2		15			●						○					
		整形外科学	2		15			●					○						
		精神医学	2		15			●					○						
		臨床心理学	1		8			●						○					
		栄養学	1		8			●				○							
		救急救命学	1		8		●					○							
		公衆衛生学	1		8			●			●					○			
		言語聴覚療法概論	1		8		●	●						○					
		臨床検査・画像診断学	1		8			●								○			
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	2		15		●	●		●		○								
	チームアプローチ入門	1		15		●	●		●				○						
	保健医療福祉連携論	1		15		●	●		●									○	
基礎理学療法学	理学療法学概論	2		15	●		●	●		○									
	トランスレーショナルセミナーⅠ	1		15	●	●	●	●			○								
	トランスレーショナルセミナーⅡ	1		15	●	●	●	●				○							
	トランスレーショナルセミナーⅢ	1		15	●	●	●	●	●						○				
	トランスレーショナルセミナーⅣ	1	15	●	●	●	●	●									○		
	理学療法研究法Ⅰ	1	8				●	●	●								○		
	理学療法研究法Ⅱ		2	30				●	●	●								○	
理学療法管理学	理学療法管理学	2		15	●	●	●		●								○		
理学療法評価学	理学療法評価学	1		8			●					○							
	基礎理学療法評価学実習	1		20			●					○							
	運動器障害理学療法評価学実習	1		20			●						○						
	神経障害理学療法評価学実習	1		20			●							○					
	内部障害理学療法評価学演習	1		15			●								○				
	理学療法評価学総合実習	1		20			●									○			
理学療法治療学	運動器障害理学療法学	2		15			●								○				
	運動器障害理学療法学演習	2		30			●	●								○			
	神経障害理学療法学	2		15			●								○				
	神経障害理学療法学演習	2		30			●	●								○			
	高次脳機能障害学	1		8			●									○			
	内部障害理学療法学	2		15			●								○				
	内部障害理学療法演習	2		30			●	●								○			
	神経筋疾患理学療法学	2		15			●									○			
	小児理学療法学	1		8			●								○				
	物理療法学	2		15			●					○							
	物理療法演習	1		15			●	●					○						
	義肢装具学	2		15			●								○				
	義肢装具学演習	1		15			●	●								○			
	日常生活活動学	2		15			●					○							
	日常生活活動学実習	1		20			●	●					○						
	予防理学療法学	2		15		●	●		●								○		
	スポーツ理学療法		2	30			●											○	
	疼痛理学療法		1	8			●											○	
	先端理学療法		1	8			●	●	●									○	
	臨床実習	臨床実習Ⅰ（体験実習）	1		45h	●	●	●	●	●		○							
臨床実習Ⅱ（評価実習）		4		180h	●	●	●	●	●						○				
臨床実習Ⅲ（総合実習）		7		315h	●	●	●	●	●									○	
臨床実習Ⅳ（総合実習）		7		315h	●	●	●	●	●									○	
地域リハビリテーション実習		1		45h	●	●	●	●	●						○				
地域理学療法学	地域理学療法学	1		8		●	●		●						○				
	地域理学療法演習	1		15		●	●		●							○			
	生活環境論	1		8		●	●		●								○		
特別演習	理学療法学総合演習Ⅰ	1		15			●	●	●							○			
	理学療法学総合演習Ⅱ	1		15			●	●	●									○	
卒業要件単位数 129単位以上																			

リハビリテーション学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻 カリキュラムマップ

学修成果（到達目標）

1【人間基盤力】

人間愛の精神を根底とする豊かな教養と生命の尊厳に基づく高い倫理観を身につけ、物事を多角的に理解し思考する力

2【連携協働力】

多職種連携の重要性を理解し、保健・医療・福祉チームの一員として他者と連携、協働する力

3【専門実践力】

作業療法に関する幅広い知識・技術を身につけ、対象者の多様な病態や作業ニーズを捉え作業療法を実践できる力

4【学術探究力】

学修課題や目標に主体的に取り組み、作業療法学を学術的に探究できる力

5【課題解決力】

地域の課題及び対象者の状況やニーズを正しく捉え、リハビリテーションに関する問題を適切に解決できる力

学修成果とは、学生がその授業科目で身に付けるべき資質・能力（何ができるようになるのか）を表すものです

●は、各授業科目が、学修成果の1～5のどれを身に付けることを目指すものを表しています。

科目区分	授業科目の名称	単位数		授業回数	学修成果					履修年次							
					1	2	3	4	5	1年		2年		3年		4年	
		必修	選択							前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養科目 選択科目から2単位以上を修得	言語・情報系	日本語表現法	1	15	●					○							
	英語 I	1	8	8	●					○							
	英語 II	1	15	15	●						○						
	英語 III		1	15	●			●									○
	情報処理 I	1	15	15	●					○							
	情報処理 II	1	15	15	●						○						
	ICT活用技術		1	15	●			●				○					
	人文科学系	哲学	1	8	●			●		○							
	生命倫理学	1	8	8	●	●		●						○			
	心理学	1	8	8	●	●		●			○						
	教育心理学	1	8	8	●			●				○					
	宗教と民族		1	8	●						○						
	人間関係論	1	8	8	●	●		●		○							
	社会科学系	法学入門	1	8	●						○						
	日本国憲法		1	8	●						○						
	経済と政策	1	8	8	●						○						
	教育学概論	2	15	15	●			●					○				
	社会学		1	8	●			●			○						
	社会保障論		1	8	●			●			○						
	自然科学系	物理学	1	8	●		●	●		○							
	生物学	1	8	8	●		●	●			○						
	自然環境と災害	1	8	8	●				●				○				
専門基礎科目	統計学入門	1	8	8	●			●				○					
	健康スポーツ I		1	8	●					○							
	健康スポーツ II		1	15	●								○				
	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学 I	2	15	●		●			○							
	解剖学 II	2	15	15	●		●				○						
	解剖学演習	1	15	15	●		●				○						
	解剖学実習	1	20	20	●		●					○					
	生理学 I	2	15	15			●				○						
	生理学 II	2	15	15			●					○					
	生理学実習	1	20	20			●						○				
	運動学総論	1	8	8			●			○							
	運動学演習 I	1	15	15			●				○						
	運動学演習 II	1	15	15			●				○						
	運動学実習	1	20	20			●					○					
	機能解剖学実習	1	20	20			●						○				
	臨床運動学	2	15	15			●						○				
	人間発達学	1	8	8			●				○						

科目区分		授業科目の名称		単位数		授業回数	学修成果					履修年次							
				必修	選択		1	2	3	4	5	1年		2年		3年		4年	
												前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門基礎科目	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	薬理学	1		8			●						○					
		病理学	1		8			●							○				
		小児科学	1		8			●							○				
		老年学	1		8			●								○			
		内科学	2		15			●						○					
		神経学	2		15			●							○				
		整形外科学	2		15			●							○				
		精神医学	2		15			●							○				
		精神医学演習	1		15			●								○			
		臨床心理学	1		8			●								○			
		栄養学	1		8			●					○						
		救急救命学	1		8		●	●				○							
		公衆衛生学	1		8			●		●							○		
		言語聴覚療法概論	1		8		●	●							○				
		臨床検査・画像診断学	1		8			●									○		
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	2		15		●	●			●			○						
	チームアプローチ入門	1		15		●	●			●					○				
	保健医療福祉連携論	1		15		●	●			●								○	
専門科目	基礎作業療法学	作業療法学概論	1		8	●		●	●			○							
		基礎作業学	1		8			●	●				○						
		基礎作業学演習Ⅰ	1		15			●	●							○			
		基礎作業学演習Ⅱ		1	15						●							○	
		トランスレーショナルセミナーⅠ	1		15	●	●	●	●			○							
		トランスレーショナルセミナーⅡ	1		15	●	●	●	●					○					
		トランスレーショナルセミナーⅢ	1		15	●	●	●	●	●						○			
		トランスレーショナルセミナーⅣ		1	15	●	●	●	●	●								○	
		作業療法研究法Ⅰ	1		8			●	●	●	●						○		
		作業療法研究法Ⅱ		2	30			●	●	●									○
	作業療法管理学	作業療法管理学	2		15	●	●	●		●								○	
	作業療法評価学	作業療法評価学	1		8			●						○					
		身体障害作業療法評価学演習Ⅰ	1		15			●							○				
		身体障害作業療法評価学演習Ⅱ	1		15			●								○			
		精神障害作業療法評価学演習	1		15			●							○				
高次脳機能障害作業療法評価学演習		1		15			●								○				
作業療法治療学	作業療法理論	2		15			●	●								○			
	身体障害作業療法学Ⅰ	2		15			●									○			
	身体障害作業療法学Ⅱ	2		15			●										○		
	身体障害作業療法学演習	2		30			●		●							○			
	精神障害作業療法学	2		15			●									○			
	精神障害作業療法学演習	1		15			●			●							○		
	高齢期作業療法学	1		8			●									○			
	高齢期作業療法学演習	1		15			●		●								○		
	発達障害作業療法学	1		8			●									○			
	高次脳機能障害作業療法学	1		8			●										○		
	日常生活活動学	2		15			●									○			
	義肢装具学	2		15			●										○		
	福祉レクリエーション論		1	8	●		●											○	
	先端作業療法		1	8			●	●	●									○	
臨床実習	臨床実習Ⅰ（体験実習）	2		90h	●	●	●	●	●		○								
	臨床実習Ⅱ（評価実習）	5		225h	●	●	●	●	●							○			
	臨床実習Ⅲ（地域実習）	1		45h	●	●	●	●	●							○			
	臨床実習Ⅳ（総合実習）	9		405h	●	●	●	●	●									○	
	臨床実習Ⅴ（総合実習）	9		405h	●	●	●	●	●									○	
地域作業療法学	地域生活支援論	1		8	●		●		●			○							
	地域作業療法学	1		8		●	●		●							○			
	職業リハビリテーション論Ⅰ	1		8			●		●								○		
	職業リハビリテーション論Ⅱ		1	8		●	●		●									○	
	生活環境論	1		8		●	●		●					○					
	福祉住環境論		1	8	●		●		●									○	
特別演習	作業療法学総合演習Ⅰ	1		15			●	●	●							○			
	作業療法学総合演習Ⅱ	1		15			●	●	●									○	
卒業要件単位数 129単位以上																			

仙台青葉学院大学 リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 理学療法専攻 カリキュラム・ツリー

	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教 養 科 目	言語・情報系	日本語表現法 英語Ⅰ 情報処理Ⅰ	英語Ⅱ 情報処理Ⅱ	ICT活用技術(選)			英語Ⅱ(選)	
	人文科学系	哲学 人間関係論	心理学 宗教と民族(選)	教育心理学	生命倫理学			
	社会科学系		法学入門 日本国憲法(選) 経済と政策 社会学(選) 社会保障論(選)					
	自然科学系	物理学 生物学 健康スポーツⅠ(選)		統計学入門	自然環境と災害 健康スポーツⅡ(選)			
専 門 基 礎 科 目	人体の構造と機能 及び心身の発達	解剖学Ⅰ 解剖学演習 運動学総論	解剖学Ⅱ 生理学Ⅰ 運動学演習Ⅰ 運動学演習Ⅱ 人間発達学 解剖学実習	生理学Ⅱ 運動学実習 生理学実習	機能解剖学実習 臨床運動学			
	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	救急救命学	栄養学	薬理学 内科学 整形外科学 精神医学	病理学 小児科学 神経学 臨床心理学 言語聴覚法概論	老年学 公衆衛生学 臨床検査・画像診断学		
	保健医療福祉と リハビリテーションの理念		リハビリテーション概論		チームアプローチ入門		保健医療福祉連携論	

専 門 科 目				
基礎理学療法学	理学療法学概論	トランスレーションショナルセミナーⅠ		理学療法研究法Ⅰ
	トランスレーションショナルセミナーⅠ	トランスレーションショナルセミナーⅡ	トランスレーションショナルセミナーⅢ	トランスレーションショナルセミナーⅣ(選) 理学療法研究法Ⅱ(選)
理学療法管理学				理学療法管理学
理学療法評価学				
理学療法治療学		理学療法評価学 基礎理学療法評価学実習	運動器障害理学療法評価学実習	神経障害理学療法評価学実習
		物理療法学	物理療法学演習	運動器障害理学療法学演習
		日常生活活動学	日常生活活動学実習	神経障害理学療法学演習
				高次脳機能障害学
地域理学療法学				内部障害理学療法学演習
				神経筋疾患理学療法学 義肢装具学演習
特別演習				地域理学療法学
				理学療法学総合演習Ⅰ
臨床実習	臨床実習Ⅰ(体験実習)		臨床実習Ⅱ(評価実習)	理学療法学総合演習Ⅱ
			地域リハビリテーション実習	臨床実習Ⅲ(総合実習) 臨床実習Ⅳ(総合実習)

(選) ……選択科目

仙台青葉学院大学 リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻 カリキュラム・ツリー

	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教 養 科 目	言語・情報系 日本語表現法 英語Ⅰ 情報処理Ⅰ	英語Ⅱ 情報処理Ⅱ	ICT活用技術(選)				英語Ⅲ(選)	
	人文科学系 哲学 人間関係論	心理学 宗教と民族(選)	教育心理学		生命倫理学			
	社会科学系 社会学(選) 社会学(選) 社会学(選) 社会学(選)	法学入門 日本国憲法(選) 経済と政策 社会学(選) 社会保障論(選)		教育学概論				
	自然科学系 物理学 生物学 健康スゴーツⅠ(選)		統計学入門	自然環境と災害 健康スゴーツⅡ(選)				
専 門 基 礎 科 目	解剖学Ⅰ 解剖学演習 運動学総論	解剖学Ⅱ 生理学Ⅰ 運動学演習Ⅰ 運動学演習Ⅱ 人間発達学 解剖学実習	生理学Ⅱ 運動学実習 生理学実習	機能解剖学実習 臨床運動学				
	救急救命学	栄養学	薬理学 内科学 整形外科科学 精神医学	病理学 小児科学 神経学 精神医学演習 臨床心理学 言語聴覚療法概論	老年学 公衆衛生学 臨床検査・画像診断学			
	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進							
保健医療福祉と リハビリテーションの理念		リハビリテーション概論		チームアプローチ入門			保健医療福祉連携論	

専門科目					
基礎作業療法学	作業療法学概論 トランスレーションショナルセミナーⅠ	基礎作業学 トランスレーションショナルセミナーⅡ	基礎作業学演習Ⅰ トランスレーションショナルセミナーⅢ	基礎作業学演習Ⅱ(選) トランスレーションショナルセミナーⅣ(選) 作業療法研究法Ⅱ(選)	
作業療法管理学				作業療法管理学	
作業療法評価学		作業療法評価学 身体障害作業療法評価学演習Ⅰ 精神障害作業療法評価学演習	身体障害作業療法評価学演習Ⅱ 高次脳機能障害作業療法評価学演習		
作業療法治療学			作業療法理論 身体障害作業療法学Ⅰ 精神障害作業療法学 高齢期作業療法学 発達障害作業療法学 日常生活活動学 義肢装具学 身体障害作業療法学演習	福祉レクリエーション論(選) 先端作業療法(選)	
地域作業療法学		地域生活支援論	地域作業療法学 生活環境論	福祉住環境論(選) 職業リハビリテーション論Ⅱ(選)	
特別演習				作業療法学総合演習Ⅰ	作業療法学総合演習Ⅱ
臨床実習	臨床実習Ⅰ(体験実習)		臨床実習Ⅱ(評価実習) 臨床実習Ⅲ(地域実習)	臨床実習Ⅳ(総合実習) 臨床実習Ⅴ(総合実習)	(選)・・・選択科目

リハビリテーション学部 1 年生

■ 年間予定表

■ 理学療法学専攻

作業療法学専攻

共通科目シラバス

2025年度 リハビリテーション学部 1年生 年間予定表

前期

	日		月		火		水		木		金		土	
4月	30		31	—	1	—	2	—	3	入学式	4	オリテ	5	
	6		7	①	8	①	9	①	10	①	11	健康診断	12	
	13		14	②	15	②	16	②	17	②	18	①	19	
	20		21	③	22	③	23	③	24	③	25	②	26	
	27		28	④	29	昭和の日	30	④ B肝ワクチン1	1	④ B肝ワクチン1	2	③	3	憲法記念日
5月	4	みどりの日	5	こどもの日	6	振替休日	7	⑤	8	⑤	9	④	10	
	11		12	⑤	13	④	14	⑥	15	⑥	16	⑤	17	
	18		19	⑥	20	⑤	21	⑦	22	⑦	23	⑥	24	
	25		26	⑦	27	⑥	28	⑧	29	⑧	30	⑦	31	
6月	1		2	⑧	3	⑦	4	⑨ B肝ワクチン2	5	⑨ B肝ワクチン2	6	⑧	7	
	8		9	⑨	10	⑧	11	⑩	12	⑩	13	⑨	14	
	15		16	⑩	17	⑨	18	⑪	19	⑪	20	⑩	21	
	22		23	⑪	24	⑩	25	⑫	26	⑫	27	⑪	28	
7月	29		30	⑫	1	⑪	2	⑬	3	⑬	4	⑫	5	
	6		7	⑬	8	⑫	9	⑭	10	⑭	11	⑬	12	
	13		14	⑭⑮	15	⑬	16	⑮	17	⑮	18	⑭	19	
	20		21	海の日	22	⑭⑮	23		24		25	⑮	26	
	27		28		29		30		31		1		2	
8月	3		4	定期試験	5	定期試験	6	追試験	7	追試験	8	結果発表	9	
	10		11	山の日	12		13		14		15		16	
	17		18		19		20	再試験	21	再試験	22		23	
	24		25		26		27		28		29		30	
9月	30		1		2		3		4		5		6	
	7		8	PT 臨床実習Ⅰ	9	PT 臨床実習Ⅰ	10	PT 臨床実習Ⅰ	11	PT 臨床実習Ⅰ	12	PT 臨床実習Ⅰ	13	PT 臨床実習Ⅰ
	14		15	敬老の日	16		17		18		19		20	
	21		22	OT 臨床実習Ⅰ	23	秋分の日	24	OT 臨床実習Ⅰ	25	OT 臨床実習Ⅰ	26	OT 臨床実習Ⅰ	27	OT 臨床実習Ⅰ
	28		29	臨床実習Ⅰ	30	臨床実習Ⅰ		—		—		—		

2025年度 リハビリテーション学部 1年生 年間予定表

後期

	日	月	火	水	木	金	土
10月		—	—	1 OT 臨床実習Ⅰ	2 OT 臨床実習Ⅰ	3 OT 臨床実習Ⅰ	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13 スポーツの日	14 オリテ/①	15 ①	16 ①	17 ①	18
	19	20 ①	21 ②	22 ②	23 ②	24 ②/せいや祭 準備	25 せいや祭
	26	27 ②	28 ③	29 ③ B肝ワクチン3	30 ③ B肝ワクチン3	31 ③	1
11月	2	3 文化の日	4 ④	5 ④	6 ④	7 ④	8
	9	10 ③	11 ⑤	12 ⑤	13 ⑤	14 ⑤	15
	16	17 ④	18 ⑥	19 ⑥	20 ⑥	21 ⑥	22
	23 勤労感謝の日	24 振替休日	25 ⑦	26 ⑦	27 ⑦	28 ⑦	29
12月	30	1 ⑤	2 ⑧	3 ⑧	4 ⑧	5 ⑧	6
	7	8 ⑥	9 ⑨	10 ⑨ B肝採血	11 ⑨	12 ⑨	13
	14	15 ⑦	16 ⑩	17 ⑩	18 ⑩	19 ⑩	20
	21	22 ⑧⑨	23 ⑪	24 ⑪	25 ⑪	26 ⑪	27
	28	29 —	30 —	31 —	1 元旦	2 —	3
1月	4	5 ⑩⑪	6 ⑫	7 ⑫	8 ⑫	9 ⑫	10
	11	12 成人の日	13 ⑬	14 ⑬	15 ⑬	16 ⑬	17
	18	19 ⑫⑬	20 ⑭	21 ⑭	22 ⑭	23 ⑭	24
	25	26 ⑭⑮	27 ⑮	28 ⑮	29 ⑮	30 ⑮	31
2月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9 定期試験	10 定期試験	11 建国記念の日	12 定期試験	13 定期試験	14
	15	16 追試験	17 追試験	18	19	20 結果発表	21
	22	23 天皇誕生日	24	25 再試験	26 再試験	27 再試験	28
3月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17 卒業式	18	19	20 春分の日	21
	22	23	24	25	26	27	28
	30	30	31				

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLa01				
	●									
科目名	日本語表現法				単位 認定者	大泉 浩一		評価 の方法	授業内課題	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位			
	O T	必修	1 年			授業時間数	30 時間			
					授業形態	演習	授業回数		15 回	
授業の概要	医療従事者は対人援助を行う仕事であり、コミュニケーション能力が求められる。書き言葉と話し言葉を中心に日本語運用の基本を学び、自らを表現し、相手に正しく伝える言語表現の基礎能力を養う。また、大学生活の基礎となるレポート・小論文の作成、学術活動で活かされる読解、文章要約、推敲を実践形式で学修することで、日本語表現の実践力を身につける。									
到達目標	◇ 具体的な例を挙げて、自分の考えを他者に明確に伝える文章が作成できるようになること。 ◇ 初対面の相手に対しても、情報や自分の考えを分かりやすく話せるようになること。									
学修者への期待等	国語や作文に自信がない人も、口頭で説明するのが苦手な人もご心配なく。「習うより慣れろ」で少しずつ力をつけられるよう授業を進めますので、毎回の課題に全力で取り組んでください。									
回	授業計画					準備学修				
1	授業ガイダンスと作文練習					高校までに習った作文・小論文の書き方を確認してくる。（約1時間）				
2	手順を説明する（書く・話す）					前回の授業内容の確認。返却された作文を読み直し、書き直して音読する。（約1時間）				
3	情報を説明する（書く・話す）					前回の授業内容の確認。返却された作文を読み直し、書き直して音読する。（約1時間）				
4	経験を報告する（書く・話す）					前回の授業内容の確認。返却された作文を読み直し、書き直して音読する。（約1時間）				
5	経験に基づいて考える（書く・話す）					前回の授業内容の確認。返却された作文を読み直し、書き直して音読する。（約1時間）				
6	伝える内容を工夫する（書く・話す）					前回の授業内容の確認。返却された作文を読み直し、書き直して音読する。（約1時間）				
7	自分の考えをまとめる（書く・話す）					前回の授業内容の確認。返却された作文を読み直し、書き直して音読する。（約1時間）				
8	要約する（読む・書く）					前回の授業内容の確認。返却された作文を読み直し、書き直して音読する。（約1時間）				
9	コミュニティとコミュニケーション（考える・書く）					前回の授業内容の確認。返却された作文を読み直し、書き直して音読する。（約1時間）				
10	他者理解とコミュニケーション（考える・書く）					前回の授業内容の確認。返却された作文を読み直し、書き直して音読する。（約1時間）				
11	想像力とコミュニケーション（考える・書く）					前回の授業内容の確認。返却された作文を読み直し、書き直して音読する。（約1時間）				
12	現代社会とコミュニケーション（考える・書く）					前回の授業内容の確認。返却された作文を読み直し、書き直して音読する。（約1時間）				
13	自分の未来とコミュニケーション（考える・書く）					前回の授業内容の確認。返却された作文を読み直し、書き直して音読する。（約1時間）				
14	表現・表記とコミュニケーション（考える・書く）					前回の授業内容の確認。返却された作文を読み直し、書き直して音読する。（約1時間）				
15	まとめの課題（考える・書く）					前回の授業内容の確認。返却された作文を読み直し、書き直して音読する。（約1時間）				
教科書	特に指定しない。資料を配付する。									
参考文献	小笠原喜康『最新版 大学生のためのレポート・口論文術』（2018年／講談社現代新書）									
備考	1 学年を 2 クラスに分けて実施します。毎回作文を書いていただき、チェックして次回に返却します。遅刻・私語等には厳しく対応し、出席不良の場合は評価対象外とします。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果						科目ナンバリング				
人間基盤力 連携協働力 専門実践力 学術探究力 課題解決力						ReLa02				
●										
科目名	英語 I				単位認定者	吉野 千乃		評価の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
	O T	必修	1 年			授業時間数	15 時間			
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	グローバル化が急速に進展する中、国際共通語でもある英語は、日常生活においても多くの場面で必要とされている。そのため、英語によるコミュニケーション能力を養う必要がある。 英語 I では、これまでの学校教育で学んだ内容を基に、日常生活における場面で使用する語彙や基本表現に触れ、総合的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。また、医療従事者として必要な語彙を学修する。									
到達目標	・ 日常の中で接する様々な話題を通じ英語表現を学び、実際に使えるようになる。 ・ 大学生として、身近な事柄が英語で表現できるようになる。									
学修者への期待等	授業の際は事前に新出語彙を確認しておくこと。また、授業内で行うペアワークには積極的な姿勢で臨むこと。									
回	授業計画					準備学修				
1	Introduction : 予習と復習、授業の進め方について					【事前】 シラバスをよく読み、テキストの内容を確認しておくこと(約30分)。				
2	MODULE 1 : Introductions Unit 1					【事前】 音声をダウンロードし発音を確認する(約40分)。 【事後】 語彙や表現を復習する(約50分)。				
3	MODULE 1 : Introductions Unit 2 ペアワーク					【事前】 音声をダウンロードし発音を確認する(約40分)。 【事後】 語彙や表現を復習する(約50分)。				
4	MODULE 2 : Fashion Unit 1					【事前】 音声をダウンロードし発音を確認する(約40分)。 【事後】 語彙や表現を復習する(約50分)。				
5	MODULE 2 : Fashion Unit 2 ペアワーク					【事前】 音声をダウンロードし発音を確認する(約40分)。 【事後】 語彙や表現を復習する(約50分)。				
6	MODULE 3 : Food Unit 1					【事前】 音声をダウンロードし発音を確認する(約40分)。 【事後】 語彙や表現を復習する(約50分)。				
7	MODULE 3 : Food Unit 2 ペアワーク					【事前】 音声をダウンロードし発音を確認する(約40分)。 【事後】 語彙や表現を復習する(約50分)。				
8	Review MODULE 1-3					【事前】 これまでの授業を振り返り、疑問点を確認しておく(約50分)。				
教科書	Thompson, C., &Woolstencroft, T. (2024). <i>Framework English A (CEFR A1-A2)</i> 『CEFRの評価基準で学ぶ4技能 A (CEFR A1-A2)』 KINSEIDO									
参考文献	授業内、またはUNIPAで随時配布する。									
備考	PT・OT合同授業									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLa03				
	●									
科目名	英語Ⅱ				単位 認定者	スミス アンソニー		評価の方法	試験(筆記)	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	10 %
	O T	必修	1 年			授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
					授業形態	演習	授業回数		15 回	
授業の概要	グローバル化が急速に進展する中、国際共通語でもある英語は、日常生活においても多くの場面で必要とされている。そのため、英語によるコミュニケーション能力を養う必要がある。 英語Ⅱでは、英語Ⅰで学んだ内容を基に、グループワークやディスカッション等を行い、実践的な授業を行う。自分の意志や意見を英語で表現し、相手の意図を汲み取ることができることを目標とする。また、医療現場で頻繁に用いられる英語の基本表現についても学修する。									
到達目標	医療系を専攻する学生としてMedical Englishを通して英語の基礎力を培いながら、4技能の内、特にコミュニケーション力の強化を到達目標とする。									
学修者への期待等	演習形式で相当量の問題をこなしていくので、しっかり予習をして授業に臨むこと。									
回	授業計画					準備学修				
1	Unit 1. Is this your first visit to this hospital?					Vocabulary, Grammar Box, Patient Communication, Reading Comprehension 概ね40分				
2	Unit 2. What's the matter with you?					Vocabulary, Grammar Box, Patient Communication, Reading Comprehension 概ね40分				
3	Unit 3. I'm going to take a blood sample					Vocabulary, Grammar Box, Patient Communication, Reading Comprehension 概ね40分				
4	Unit 4. Let me explain our daily routine					Vocabulary, Grammar Box, Patient Communication, Reading Comprehension 概ね40分				
5	Unit 5. I'm going to ask you about your lifestyle habits					Vocabulary, Grammar Box, Patient Communication, Reading Comprehension 概ね40分				
6	Unit 6. Have you had any surgeries before?					Voabulary, Grammar Box, Patient Communication, Reading Comprehension 概ね40分				
7	Unit 7. Do you have any allergies?					Vocabulary, Grammar Box, Patient Communication, Reading Comprehension 概ね40分				
8	Unit 8. How would you describe the pain?					Vocabulary, Grammar Box, Patient Communication, Reading Comprehension 概ね40分				
9	Unit 9. How much can you move your legs?					Vocabulary, Grammar Box, Patient Communication, Reading Comprehension 概ね40分				
10	Unit 10. Let's start practicing getting into the wheelchair					Vocabulary, Grammar Box, Patient Communication, Reading Comprehension 概ね40分				
11	Unit 11. Let's make the walks longer					Vocabulary, Grammar Box, Patient Communication, Reading Comprehension 概ね40分				
12	Unit 12. You're from Australia, aren't you?					Vocabulary, Grammar Box, Patient Communication, Reading Comprehension 概ね40分				
13	Unit 13. Are you Ms. Brown?					Vocabulary, Grammar Box, Patient Communication, Reading Comprehension 概ね40分				
14	Unit 14. Rehabilitation can be challenging					Vocabulary, Grammar Box, Patient Communication, Reading Comprehension 概ね40分				
15	Unit 15. By working together, we can ease your concerns					Vocabulary, Grammar Box, Patient Communication, Reading Comprehension 概ね40分				
教科書	Care for All -- Effective Patient Communication for Healthcare Workers -- 医療従事者のためのやさしい英語コミュニケーション Hiroaki Tanaka/Kaoru Masago SEIBIDO ISBN978-4-7919-7319-4									
参考文献	授業内で指示									
備考	1 学年を 2 クラスに分けて実施する。授業内課題（小テスト）については採点して返却する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ReLa05				
	●									
科目名	情報処理 I				単位 認定者	杉崎 新一		評 価 の 方 法	授業内課題等	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
	O T	必修	1 年			授業時間数	30 時間			
					授業形態	演習	授業回数		15 回	
授業の概要	情報社会で生活していく上で、数多く存在する情報の中から、情報の選別、分析・利用、管理が求められている。 情報処理 I では、情報リテラシーを中心に、情報社会で適切な判断をするために必要な情報社会・情報科学に関する基礎知識を修得する。また、大学生活で必要なレポートの作成やプレゼンテーション資料の作成に取り組み、効果的な資料作成の技術を身につける。									
到達目標	パソコンの基本操作を修得し、業務でWord・Excel・PowerPointが効率的に使用できることを目標とする。 ◆Word:書式設定や印刷設定を利用した基本的な文書・表・図形・写真などを含む文書が作成できる。 ◆Excel:書式設定をして表を整えることができ、適切な計算式や関数、グラフを作成できる。 ◆PowerPoint:プレゼンテーションを理解し、訴求力あるスライド作成とスライドショー実施ができる。									
学修者への期待等	パソコンの基本操作から行う。操作が苦手な者は、これを機に操作ができるようにすること。 操作ができる者であっても自己流の操作を行うことが多いので、初心に戻り取り組み、自分にとって不足しているスキルはより向上するよう学修すること。授業を休むと操作がわからなくなり、次回以降の授業にも影響するため注意すること。 操作がわからない部分はそのままにせず、演習中に巡回をするので質問して確認すること。									
回	授業計画					準備学修				
1	基礎知識:PCの操作・Windowsの基本操作					【事前】 マウス操作・入力操作は各自できるようにして授業に臨むこと。特に入力操作が苦手な場合は、タイピングの練習をして技術を向上させること。(30分程度) 【事後】 Word・Excelは、はじめは基礎内容から入り、段階的に応用内容に進んでいくため、各回の内容をしっかりと身につけ、次の授業へ臨むこと。授業内に完成しなかった作成物は、次回までに完成しておくこと。 これまでの経験によってパソコンのスキル(技能)は、各人で異なるため、自分の現在のスキルを把握し、学修したパソコン操作が身につけていないと感じる場合は、授業中に作成したものを繰り返し操作して復習すること。(各自のスキルにより30分～1時間程度)				
2	情報保護:モラルとセキュリティに関する知識 Word:文書の書式設定・印刷設定									
3	Word:入力方法・文書入力・ページ設定									
4	Word:書式設定									
5	Word:図・表を取り入れた文書の作成									
6	Word:課題作成 (これまでに学んだ内容を活用)									
7	Excel:入力と編集方法・数式や関数・書式設定・表示形式									
8	Excel:相対参照と絶対参照・表の編集・印刷設定									
9	Excel:グラフ作成									
10	Excel:基本的な関数 (MAX・MIN・COUNT・COUNTAなど)									
11	Excel:基本的な関数(IF・AND・ORなど)・表示形式・日付関連の関数									
12	Excel:課題作成 (これまでに学んだ内容を活用)									
13	PowerPoint:スライドの作成・オブジェクトの挿入									
14	PowerPoint:アニメーションの設定・スライドショーの実施									
15	PowerPoint:課題作成 (これまでに学んだ内容を活用)									
教科書	『30時間アカデミック Office2021 Windows11対応』 実教出版									
参考文献	進行に応じてプリントを配付する。									
備考	すべての授業回で実技を行うため、各自のパソコンを持参して授業に臨むこと。 授業内課題は授業時に指示する提出物で評価し、適宜フィードバックする。 課題は次回講義の際に総じて解説を行うこともある。 授業内容や順序は、クラス全体の操作の進捗、使用教室により調整する場合がある。 1 学年を 2 クラスに分けて実施する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLa06				
	●									
科目名	情報処理Ⅱ				単位認定者	菅原 文彦		評価の方法	試験（筆記）	40 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		課題	40 %
	O T	必修	1 年			授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
					授業形態	演習	授業回数		15 回	
授業の概要	情報社会で生活していく上で、数多く存在する情報の中から、情報の選別、分析・利用、管理が求められている。 情報処理Ⅱでは、情報処理Ⅰで学んだ内容を基に、大学生活や卒業後も学び続けるために必要となるデータの収集や処理を正確に行う能力を身につける。さらに、グループワーク等を通じて情報収集、分析、発表、評価を行うことにより、プレゼンテーション技術を高めていく。									
到達目標	①Word、Excelを効果的に活用してテーマに即した資料やレポートを作成する。 ②グループワークを通してメンバーと協調しながらテーマに即したプレゼンテーションを立案する。 ③上記をもとに、必要なデータの収集、編集を適切に行い、効果的なプレゼンテーションを実践するためのスキルを獲得する。									
学修者への期待等	受講者間での相談やアドバイス等、お互いのスキルアップのための協調を大切にして、知識・技能の向上に意欲的に臨んでいただきたい。 欠席や遅刻をせず、1回1回の授業に積極性を持って「参加」すること。									
回	授業計画				準備学修					
1	データ収集、ダウンロードデータの扱い、UNIPAへのアップロード等基本事項の確認				○事前学修					
2	Word：基本操作の復習、書式設定詳細、ビジネス文書の基本事項確認①									
3	Word：基本操作の復習、書式設定詳細、ビジネス文書の基本事項確認②									
4	Excel：基本操作の復習、数式・関数、比率と構成比、データからのグラフ作成①				・マウス操作、タッチパッド操作、キー操作、タイピングに自信がない者は、継続的な自主練習を行う。特に入力操作が苦手な場合はタイピング（ローマ字入力）、マウス操作の練習を行って授業に臨む（30分程度）。					
5	Excel：基本操作の復習、数式・関数、比率と構成比、データからのグラフ作成②									
6	情報検索、ダウンロードデータの引用ルール、データの加工（Excel、Wordへの落とし込み）									
7	PowerPointと他のアプリケーションソフトの連携				次回授業までにテキスト1章p5～35精読 まとめシート作成		・上記以外に、指示された予習を次回までに行うこと。			
8	＜グループワーク＞テーマに即した情報検索				次回授業までにテキスト2章p37～63精読 まとめシート作成					
9	＜グループワーク＞テーマに即したプレゼンテーションの立案（指定分野でのグループ内テーマ決定、役割分担、作業計画）									
10	＜グループワーク＞プレゼンテーションの立案書作成、テーマに即した情報検索と加工				次回授業までにテキスト4章p65～117精読 まとめシート作成		○事後学修			
11	＜グループワーク＞（立案書の修正、）スライド作成作業				スライド完成後、テキスト5章、6章を参考に発表手法についてグループ内で検討					
12	＜グループワーク＞スライド作成作業、終了後立案書提出（UNIPA）									
13	グループごとのプレゼンテーション・講評会①、終了後報告書提出（UNIPA）				・指定された課題、報告書を期限までに作成、提出する（UNIPA）。					
14	グループごとのプレゼンテーション・講評会②、終了後報告書提出（UNIPA）									
15	グループごとのプレゼンテーション・講評会③、終了後報告書提出（UNIPA）									
教科書	『よくわかる 改訂2版 自信がつくプレゼンテーション』青山昌裕 FOM出版									
参考文献	配付資料									
備考	1 学年を2クラスに分けて実施する。課題については授業内または期限までにフィードバックする。アプリ操作性の向上と、授業課題の保存・移動のため、授業開始時までに各自次のものを準備してください。 ・USBメモリー（他の科目と共用可 ノートPCの仕様によりUSBポートがない場合はコネクタも必要） ・マウス 事前に充電、Windowsの更新を済ませておくこと。（授業中に充電を行わない。）									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLb01				
	●			●						
科目名	哲学				単位 認定者	池田 準		評価 の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題等	14 %
	O T	必修	1 年			授業時間数	15 時間		受講態度	16 %
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	哲学とは、真理を探究し、物事の本質を追究する学問である。代表的な哲学者等の思想を学び、深く自身の考えを巡らせ、人間とは何かを思索する。哲学の歴史や流れを学びながら、人間は何のために生きるのか、幸福とは何か、自由とは何か、愛とは何か、正義とは何か等の普遍的な問いについて深慮する。個の内面を徹底的に洞察するという哲学的な思考法を学び、深く考えることの価値を知ること、自身の人生をより深みのあるものにしていく。									
到達目標	1. 哲学の基本的な考え方を説明できる。 2. 哲学の基本的な考え方をを用いて日常生活に潜む哲学的な問題について、自己の考えを深める。									
学修者への期待等	各回の授業に設定された「問い」に対する自分自身の考えをあらかじめメモしておき、あとで授業で学んだ哲学的な考え方と比較できるようにしておきましょう。									
回	授業計画					準備学修				
1	医療と哲学：何のために哲学を学ぶのか					医療の技術や知識だけでは解決できない医療現場で生じる問題を挙げてみましょう。（概ね1時間）				
2	自我と身体：デカルトの心身二元論とメルロ・ポンティの身体論、病者・障がい者にとっての心と体					身体の中の部位が欠けたら「自分」ではなくなってしまうのか、を考えてみましょう。（概ね1時間）				
3	自我と心：カントの自我論とヘーゲルの相互承認論、記憶と自己意識、認知症患者の自我					記憶がなくなったら「自分」は消えてしまうのか、を考えてみましょう。（概ね1時間）				
4	自我と他者：フッサールの間主観性とレヴィナスの他者論、ケアにおける応答関係					ケアの対象を「人間として尊重する」とはどういうことなのか、を考えてみましょう。（概ね1時間）				
5	他者理解と共感：ヒュームの懐疑主義とモラル・センス学派の共感概念、患者への共感					他人の考えや感情を本当に理解することはできるのか、を考えてみましょう。（概ね1時間）				
6	社会と幸福：古代ギリシアのエウダイモニズムと近代の功利主義、QOLの基盤としての幸福観					自分にとっての幸福とは何か、を考えてみましょう。（概ね1時間）				
7	社会と自由：運命論、因果的決定論、自由意志論と責任概念					何らかの不自由を抱える病者・障がい者を例に自由とは何かを考えてみましょう。（概ね1時間）				
8	死と実存：ハイデガーの存在論、死の実存的意味とよく生きること(well-being)					身近な人の死をどう受けとめたら良いのか、生きる意味とは何かを考えてみましょう。（概ね1時間）				
教科書	教科書は特に使用しません。授業で毎回、資料を配付します。									
参考文献	各回の授業でテーマに関連する文献を紹介します。									
備考	PT・OT合同授業 授業内課題については授業内でフィードバックを行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLb03				
	●	●		●						
科目名	心理学				単位認定者	真 健		評価の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	20 %
	O T	必修	1 年			授業時間数	15 時間		受講態度	10 %
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	心理学とは、人間の心と行動を学び、科学的に検証する学問である。心理学の基礎知識である「感覚・知覚、学習・記憶、感情、動機・欲求、性格、社会・集団」を学び、人間の行動や心理過程の理解に必要な基礎的知識を身につける。また、社会に対する心理学の役割、心理学の対象となる日常生活上の問題やこころの健康にも触れて学修する。									
到達目標	1：心理学の基礎的知識について説明できる。 2：心理学的な見方や考え方を理解し、説明できる。 3：社会に対する心理学の役割について説明できる。									
学修者への期待等	資料をあらかじめ配付するので事前に熟読すること。 日常生活で経験する事象と結びつけて理解するよう期待します。									
回	授業計画					準備学修				
1	心理学とは（心理学と自然科学）					心を科学的に扱うための工夫、心理学の対象について調べておくこと（1時間程度）				
2	感覚・知覚・認知					感覚的順応、恒常性、対比と同化について調べておくこと（1時間程度）				
3	学習・記憶					随伴性学習、短期記憶・長期記憶の特徴について調べておくこと（1時間程度）				
4	感情					基本的感情、表情について調べておくこと（1時間程度）				
5	動機・欲求					内発的動機づけ、適応機制について調べておくこと（1時間程度）				
6	性格					類型論と特性論について調べておくこと（1時間程度）				
7	社会・集団					集団の種類、集団規範について調べておくこと（1時間程度）				
8	心理学の対象となる日常生活上の問題					心理学の近接領域について調べておくこと（1時間程度）				
教科書	特に指定しない。資料を配付する。									
参考文献	『新心理学ライブラリ 1 心理学への招待 改訂版』サイエンス社									
備考	PT・OT合同授業 毎回レスポンスシートへの回答を求め、次の授業でフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLb05				
	●									
科目名	宗教と民族				単位認定者	徳田 幸雄		評価の方法	試験(筆記)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	選択	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	40 %
	O T	選択	1 年			授業時間数	15 時間		受講態度	10 %
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	国際社会の中で、他者を理解するためには、宗教や民族、思想、歴史、文化への理解が重要である。世界の主要宗教（ユダヤ教、キリスト教、イスラム教、仏教）を取り上げ、思想と歴史に触れることで、世界に対する自己見解を持ちながらも、他者の思想等を尊重できる姿勢を学ぶ。また、地域紛争の背景となる民族問題、紛争により起こる難民問題等を取り上げ、現在起きている国際的な問題と日本の関係についても学び、幅広い視野を持てるよう学修する。									
到達目標	国際化時代に相応しい他者理解の素養を身につけるとともに、自己理解を深める。									
学修者への期待等	日頃から宗教が絡む国際情勢や時事問題に関心をもち、自身で情報収集するなどして主体的な取り組みをしたうえで授業に臨むことが望ましい。									
回	授業計画					準備学修				
1	イスラエルの宗教					パレスチナ問題について調べる（30分）				
2	ユダヤ教：「遵守する」宗教					モーセについて調べる（30分）				
3	キリスト教：「信じる・愛する」宗教					パウロについて調べる（30分）				
4	イスラーム：「服従する」宗教					ムハンマドについて調べる（30分）				
5	インドの諸宗教：「祭る」宗教					カースト制について調べる（30分）				
6	仏教：「悟る」宗教					ブッダについて調べる（30分）				
7	日本仏教（13宗）					大乘仏教について調べる（30分）				
8	神道：「清める」宗教					日本神話について調べる（30分）				
教科書	特に指定しない。資料を配付する。									
参考文献										
備考	PT・OT合同授業 授業内課題はチェック・テストで評価し、次回の授業冒頭にてフィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLb06				
	●	●		●						
科目名	人間関係論				単位 認定者	真 健		評価の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内 課題等	20 %
	O T	必修	1 年			授業時間数	15 時間		受講態度	10 %
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	日々の生活において、他者と良好な関係を築くことは重要なことであり、その場面は家庭、学校、職場、地域等と多岐に渡り、他者（対象者）によっても、築くべき人間関係は大きく異なる。他者との良好な関係を築くために必要なことは何か、対人認知のプロセスやメカニズム、対人関係の理論と技法を学修し、コミュニケーション能力の向上を図る。									
到達目標	1：医療業務における人間関係の機能について説明できる。 2：対人認知のプロセスやメカニズムについて説明できる。 3：医療職者として必要なコミュニケーション能力を理解し、説明できる。									
学修者への期待等	資料をあらかじめ配付するので事前に熟読すること。 学んだ知識を活かしたコミュニケーションができるよう実践することを期待します。									
回	授業計画					準備学修				
1	臨床における人間関係					患者と良好な人間関係を形成することの意義について調べておくこと（1時間程度）				
2	対人認知①（対人印象の形成）					暗黙のパーソナリティ理論について調べておくこと（1時間程度）				
3	対人認知②（対人魅力にかかわる要因）					自己開示について調べておくこと（1時間程度）				
4	交流分析の理解					5つの自我状態について調べておくこと（1時間程度）				
5	コミュニケーションプロセスとミスコミュニケーション					コミュニケーションプロセスについて調べておくこと（1時間程度）				
6	非言語コミュニケーションの理解					非言語コミュニケーションについて調べておくこと（1時間程度）				
7	コミュニケーションのスキル①（話を聴くスキル）					傾聴について調べておくこと（1時間程度）				
8	コミュニケーションのスキル②（アサーティブ・コミュニケーション）					アサーティブ・コミュニケーションについて調べておくこと（1時間程度）				
教科書	特に指定しない。資料を配付する。									
参考文献	『ナースのための臨床社会心理学：看護場面の人間関係のすべて』 北大路書房									
備考	PT・OT合同授業 毎回レスポンスシートへの回答を求め、次の授業でフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLc01				
	●									
科目名	法学入門				単位 認定者	鈴木 一樹		評価 の方法	授業内課題等	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	20 %
	O T	必修	1 年			授業時間数	15 時間			
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	社会生活上に必要な知識として、「日本国憲法」「民法」「刑法」を取り上げ、「法」の基礎を学修する。とりわけ最も身近な法律のひとつである「民法」を中心に学び、日常の社会生活・大学生活に関係の深い様々な問題を取り上げ、法の観点から問題点、解決方法、回避方法を検討する。具体的な事例を基に、法と照らし合わせて学修することで、学修者自身が適切な選択・判断ができることを目指す。									
到達目標	社会問題を考える際の土台となる法律の基本的な用語や概念を理解し、説明できる。身近な法律問題の学習を通じて、自ら問題を解決するための思考方法を養う。									
学修者への期待等	聞き慣れない用語や概念が多いと思いますので、復習を中心に取り組んで下さい。 法律用語と日常用語の違い、授業内で扱った事例や問題は、重点的に復習すること。その際、結論だけでなく理由も説明できるようにしておくこと。									
回	授業計画					準備学修				
1	法律の意義と学ぶ意味									
2	憲法（１）基本的人権					前回講義の内容についてレジュメを参照して復習しておくこと（30分程度）				
3	憲法（２）統治機構					前回講義の内容についてレジュメを参照して復習しておくこと（30分程度）				
4	民法（１）総則、物権					前回講義の内容についてレジュメを参照して復習しておくこと（30分程度）				
5	民法（２）債権					前回講義の内容についてレジュメを参照して復習しておくこと（30分程度）				
6	民法（３）親族・相続					前回講義の内容についてレジュメを参照して復習しておくこと（30分程度）				
7	刑法（１）総論					前回講義の内容についてレジュメを参照して復習しておくこと（30分程度）				
8	刑法（２）各論					前回講義の内容についてレジュメを参照して復習しておくこと（30分程度）				
教科書	特に指定しない。資料をUNIPAに掲示する。									
参考文献	必要に応じて講義内で紹介する。									
備考	講義は全て遠隔（オンデマンド）で実施する。講義内容は、進捗に応じて変更する場合がある。各回の授業内課題については、その回で学んだことや印象に残ったことを記述したものとする。課題については、講義内でフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLc02				
	●									
科目名	日本国憲法				単位 認定者	山口 はるか		評価の方法	試験（レポート）	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	選択	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	20 %
	O T	選択	1 年			授業時間数	15 時間		受講態度	30 %
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	日本国憲法の概要、基本理念・原理について学ぶ。国民の権利及び義務、幸福追求権、平和主義、生存権の内容に触れ、日常生活との憲法との関わりを学ぶ。また、身近で起こりえる問題について、日本国憲法を基に解釈し、自ら活用できることを目指す。医療従事者、教育者として必要な考え方も日本国憲法から学び、修得する。									
到達目標	憲法の基本的な用語や概念を正しく理解し、説明できる。修得した知識をもとに憲法と医療・福祉が交錯する問題について自分で考え、意見を述べることができる。									
学修者への期待等	聞き慣れない用語や概念が多いと思われるので、復習を中心に取り組むこと。日頃から積極的に新聞やニュースに目を通すのが好ましい。									
回	授業計画					準備学修				
1	授業ガイダンスと導入ー法律の種類と憲法の位置づけー					中学校や高校で学習した憲法の知識、及び、三権分立について復習すること（概ね1時間）。				
2	憲法の役割と構造					前回の講義内容をレジュメをもとに復習すること（概ね30分）				
3	基本的人権					前回までの講義内容をレジュメをもとに復習すること（概ね1時間）				
4	幸福追求権・生存権					前回までの講義内容をレジュメをもとに復習すること（概ね1時間）				
5	精神的事由・経済的自由					前回までの講義内容をレジュメをもとに復習すること（概ね1時間）				
6	憲法改正と平和主義					前回までの講義内容をレジュメをもとに復習すること（概ね1時間）				
7	医療と憲法ー医療訴訟の事例から考えるー					前回までの講義内容をレジュメをもとに復習すること（概ね1時間）。また、講義で取り上げた事例に関する課題に取り組むこと（概ね1時間）。				
8	（まとめ）「憲法」の意義、「人権」とは何か					これまで学習した内容を総復習しておくこと（概ね1時間）。				
教科書	特に指定しない。毎回、教員が用意したレジュメを使用する。									
参考文献	授業内で適宜紹介する。									
備考	課題（第7回に実施予定・ミニレポート）については、次回の講義で解説する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

						科目ナンバリング				
						ReLc03				
学修成果	1	2	3	4	5					
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力					
	●									
科目名	経済と政策				単位 認定者	岩 淵 修		評価の方法	試験(レポート)	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	20 %
	O T	必修	1 年			授業時間数	15 時間			
					授業形態		講義		授業回数	8 回
授業の概要	一国の経済全体の動きのメカニズムを分析するマクロ経済学の基本的な概念や考え方を学び、経済を見る視点の基礎的な素養を身につける。財政政策、金融政策、産業政策、社会保障制度改革等をキーワードに日本経済の現状や課題を理解し、さらに、世界全体が直面するエネルギー・資源・環境問題や国際社会の動向についても取り上げ、日本経済の展望について考える。									
到達目標	マクロ経済学とマクロ経済政策についての基本的知識を理解すること。その上で、日本経済の長期停滞、デフレ、人口減少、少子高齢化といった厳しい現実の下で、「政策」がどのような可能性を秘めているかを自分で考える。									
学修者への期待等	日常のニュースに関心を持ち、日本の戦後の経済史や時事問題、経済データに興味を持つこと。									
回	授業計画					準備学修				
1	「経済」と「経済学」の関係、ストックとフローや国民所得概念					日本や世界各国の経済データを調べる。 (概ね15分)				
2	ケインズ経済学の単純なモデルである45度線分析					経済学説上でのケインズについて調べる。 (概ね15分)				
3	IS-LM分析モデルと経済政策の効果					基本的な財政政策と金融政策について調べる。 (概ね15分)				
4	AD-AS分析モデルと物価					現在のデフレと失業率について調べる。 (概ね15分)				
5	戦後日本経済史とバブル					バブル時代の日本の状況について調べる。 (概ね15分)				
6	バブルの崩壊と日本の長期停滞					「失われた30年」の経済成長率とデフレについて調べる。(概ね15分)				
7	伝統的金融政策と異次元の金融政策					異次元の金融政策について調べる。(概ね15分)				
8	財政政策と日本の累積国債残高					現在の日本の財政状況を調べる。(概ね15分)				
教科書	特に指定しない。資料を配付する。									
参考文献	『ケインズ』伊東光晴 岩波新書 『マクロ経済学』 斎藤誠その他 有斐閣									
備考	PT・OT合同授業									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

						科目ナンバリング				
						ReLc05				
学修成果	1 人間基盤力	2 連携協働力	3 専門実践力	4 学術探究力	5 課題解決力					
	●			●						
科目名	社会学				単位 認定者	小野寺 修		評価の 方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	選択	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
	O T	選択	1 年			授業時間数	15 時間			
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	この科目は、社会学の理念・理論・全体構造といった基礎的な知識を学び、現代において多様化する社会的諸問題について考える。身近な問題として、ジェンダー、子どもの貧困、多様化する家族、難民、多文化、持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）等をテーマに、幅広く学び、社会問題について、自ら考える力を養う。									
到達目標	社会とは何か。社会の変化や人々の生活を社会的な視点から検討し、論理的に説明することができる。									
学修者への期待等	社会は日々動いています。この授業を通して、みなさんが普段暮らしている社会をじっくり見つめるきっかけにしてください。									
回	授業計画					準備学修				
1	社会とは何か（基礎理論・用語）					【事後】講義内容の復習（概ね1時間）				
2	多文化共生①（多民族国家日本の姿）					【事前】授業で指示するテーマの下調べ（1時間程度） 【事後】授業内容の復習（1時間程度）				
3	多文化共生②（戦後日本の外国人政策）					【事前】授業で指示するテーマの下調べ（1時間程度） 【事後】授業内容の復習（1時間程度）				
4	多文化共生③（多文化社会の課題について考える） ～グループワーク～					【事前】授業で指示するテーマの下調べ（1時間程度） 【事後】授業内容の復習（1時間程度）				
5	ジェンダー①（男らしさ・女らしさ）					【事前】授業で指示するテーマの下調べ（1時間程度） 【事後】授業内容の復習（1時間程度）				
6	ジェンダー②（多様な性のあり方）					【事前】授業で指示するテーマの下調べ（1時間程度） 【事後】授業内容の復習（1時間程度）				
7	現代日本のすがた①（都市部と地方部）					【事前】授業で指示するテーマの下調べ（1時間程度） 【事後】授業内容の復習（1時間程度）				
8	現代日本のすがた②（防災大国日本）					【事前】授業で指示するテーマの下調べ（1時間程度） 【事後】授業内容の復習（1時間程度）				
教科書	特に指定しません。必要な教材はこちらで準備します。									
参考文献	『よくわかる社会学 第3版』宇都宮京子・西澤晃彦編著、ミネルヴァ書房 『大学生のための社会学入門』篠原清夫・栗田真樹編著、光洋書房 『社会学』奥井智之、東京大学出版会									
備考	PT・OT合同授業 ・受講者の理解度および授業の進度によって、内容を変更することがあります。 ・課題に対する講評等は授業内またはUNIPAにて個別もしくは全体にフィードバックします。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLc06					
	●			●							
科目名	社会保障論				単位認定者	青山 美智子		評価の方法	試験（筆記）	70	%
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	選択	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	15	%
	O T	選択	1 年			授業時間数	15 時間		受講態度	15	%
					授業形態	講義	授業回数		8 回		
授業の概要	社会保障とは何か、社会保障制度を成り立たせている基本的な考え方を理解する。社会保障が誕生した歴史的背景、生存権を規定し国民の生活の保障を具体化した社会保障制度の内容を理解する。また、医療をとりまく環境や少子高齢社会で人口減少が進む我が国で、どのような問題が生じているのか、現実社会の変化に対応すべく、どのような制度改革やサービス改革が行われようとしているのか、身近な問題と制度を結びつけ基本的な知識を身につける。										
到達目標	社会保障制度の体系と概要を理解し説明できる。 統計データからわが国の社会的背景と社会保障制度の関係性を理解し説明できる。 社会生活の中での社会保障の役割について理解し説明できる。										
学修者への期待等	社会保障関連の統計データ、新聞、ニュースに対して、日頃から関心をもつことが望ましい。 社会変遷との関連性を理解し、社会保障制度を複眼的な考え方で理解することが望ましい。 私たちと社会保障とのつながりを理解し、これからの自らの実践に活かせることを期待する。										
回	授業計画					準備学修					
1	社会保障の理念、憲法第25条、社会保障制度の構成、わが国の人口構造と人口ピラミッド、少子高齢社会、平均寿命、出生率、一次資料の活用について					事後学修	本時のレジュメを読み込む。 当該単元の図表やデータを読む(30分) 課題を完成させる（30分）				
2	社会保障制度1【健康と公衆衛生】 1. 公衆衛生に関係する行政組織、2. 世界保健機関（WHO）、本時の単元に関する医療系国試問題傾向					事前学修 事後学修	前回小テストの再学修する 図表やデータを読む（30分） 課題を完成させる（30分）				
3	〔医療を取り巻く環境〕 1. 人口と少子高齢化、2. 死因の状況、3. 生活習慣と健康状況、4. 国民の受療状況、5. 感染症の状況 〔医療供給体制〕 1. 医療法、2. 医療機関、3. 医療従事者					事前学修 事後学修	前回小テストの再学修する 図表やデータを読む（30分） 課題を完成させる（30分）				
4	社会保障制度2【社会保険】 1. 社会保険とは、2. 公保険と私保険、 (1) 医療保険制度、(2) 労災保険制度					事前学修 事後学修	前回小テストの再学修する 図表やデータを読む（30分） 課題を完成させる（30分）				
5	(3) 雇用保険制度 (4) 年金保険制度 (5) 介護保険制度 社会保障制度3【老人保健】 高齢者の保健・医療（後期高齢者保健医療制度） 本時の単元に関する医療系国試問題傾向					事前学修 事後学修	前回小テストの再学修する 図表やデータを読む（30分） 課題を完成させる（30分）				
6	社会保障制度4【社会福祉】 (1) 児童福祉、(2) 母子・父子・寡婦福祉等 本時の単元に関する医療系国試問題傾向					事前学修 事後学修	前回小テストの再学修する 図表やデータを読む（30分） 課題を完成させる（30分）				
7	(3) 障害者福祉、(4) 高齢者福祉、 〔地域包括ケアシステム〕ケアシステムのしくみ 本時の単元に関する医療系国試問題傾向					事前学修 事後学修	前回小テストの再学修する 図表やデータを読む（30分） 課題を完成させる（30分）				
8	社会保障制度5【公的扶助】 1. 貧困とは、2. 生活保護法の実施体制、3. 生活保護の種類と内容、4. 生活保護の原理原則 本時の単元に関する医療系国試問題傾向					事前学修 事後学修	前回小テストの再学修する 図表やデータを読む（30分） 課題を完成させる（30分）				
教科書	毎時レジュメを配付する。										
参考文献	一次資料を確認しながら進める。文献は必要に応じて授業内で紹介する。										
備考	PT・OT合同授業 授業内容や順序は、単元の関連性により調整する場合がある。 小テストは適宜行う。小テストの解答・解説はUNIPAに掲載するので必ず確認すること。										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLd01					
	●		●	●							
科目名	物理学				単位認定者	本田 俊夫		評価の方法	試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	30 %	
	O T	必修	1 年			授業時間数	15 時間				
					授業形態	講義	授業回数		8 回		
授業の概要	人体の動きから人体内部の生命現象まで、物質が関与する現象はすべて物理学の原理に従っている。物理の基礎として力学、温度と熱、音と光、電気と磁力、原子と放射線について学修し、医療に携わる者として、人間生活と物理的事象との関わりを科学的に理解する。										
到達目標	日常の生活や体とかかわる身近な物理的事象の基礎原理について理解し、それをわかりやすく説明し、応用することができる。医療にかかわる者として、物理学全般の基礎的な教養と知識を身につける。										
学修者への期待等	教科書に基づいて準備学修で指定された箇所を必ず予習してください。授業では人体、医療に近づけた内容で実施します。よく復習して理解を深めてください。										
回	授業計画					準備学修					
1	「力のつり合い」力のはたらき・つり合い					第1章力のつり合いp. 2～7を読んでおくこと。(30分～1時間程度)					
2	「力のつり合い」剛体にはたらく力					授業後に復習し理解を深める。(30分程度)					
3	運動の表し方と運動の法則					第2章p. 10～13、第3章p. 18～23を読んでおくこと。(30分～1時間程度)					
4	圧力					別途資料を配布する。復習をして理解を深めること。(30分程度)					
5	熱とエネルギー					第7章熱とエネルギーp. 50～55を読んでおくこと。(30分～1時間程度)					
6	波の性質 音と光					第10章音p. 78～83、第11章音p. 87～89を読んでおくこと。(30分～1時間程度)					
7	電磁気					第12章音p. 94～97を読んでおくこと。(30分～1時間程度)					
8	原子と放射線					第15章音p. 118～123を読んでおくこと。(30分～1時間程度)					
教科書	『基礎と演習 大学生の物理入門』高橋正雄著 共立出版										
参考文献											
備考	PT・OT合同授業										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLd02				
	●		●	●						
科目名	生物学				単位認定者	石澤 公明		評価の方法	試験(筆記)	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題	10 %
	O T	必修	1 年			授業時間数	15 時間		受講態度	30 %
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	生命現象、生命の尊厳、生物の多様性と、生命現象の普遍性を学ぶことにより、ヒトの存在への理解を深める。生物学の基礎として、生命現象・遺伝・細胞・発生・免疫・環境を学修し、医療に携わる者として、現在急速に解明されつつある生命現象や生命科学を科学的に理解する。									
到達目標	生命の尊厳を深く認識する社会人として生物学の教養を深め、更に専門・臨床科目の理解に必要な生物学の基礎知識を理解する。									
学修者への期待等	事前に配付する講義資料の予習を必ず行い講義に出席してほしい。講義内容で分からない点があれば、講義中に発言するか、講義中に配付する用紙(ミニツツペーパー)に記入して下さい。教師との積極的なコミュニケーションを期待します。									
回	授業計画					準備学修				
1	生物とは？					配付する資料（生物とは？）の復習 (概ね30分)				
2	細胞の構造及び細胞分裂					配付する資料（細胞の構造及び細胞分裂）の復習 (概ね30分)				
3	生体膜の構造と機能					配付する資料（生体膜の構造と機能）の復習 (概ね30分)				
4	生体のエネルギーと代謝					配付する資料(生体のエネルギーと代謝)の復習 (概ね30分)				
5	環境応答と神経伝達					配付する資料（環境応答と神経伝達）の復習 (概ね30分)				
6	免疫及び細胞分化					配付する資料（免疫及び細胞分化）の復習 (概ね30分)				
7	遺伝					配付する資料（遺伝）の復習 (概ね30分)				
8	遺伝情報の発現					配付する資料（遺伝情報の発現）の復習 (概ね30分)				
教科書	なし									
参考文献	『サイエンスビュー 生物総合資料』長野敬他監、実教出版									
備考	授業内課題（レポート）は、最初の講義で課題を提示します。紙媒体（A4レポート用紙一枚）で、期日内に提出して下さい。そのフィードバックは、最後の講義で行います。 上記レポート課題とは別に、毎回講義で課題を出します。その解答及び講義内容についての質問を配付する用紙（ミニツツペーパー）に記入し、講義終了時に提出して下さい。その課題解答や質問のフィードバックは、次回以降の講義中に行います。 PT・OT合同授業									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLd05				
	●									
科目名	健康スポーツⅠ				単位 認定者	菅原 一昭		評価 の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	選択	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
	O T	選択	1 年			授業時間数	15 時間			
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	健康であることは、生活の質を上げるために不可欠な要素である。さらに、健康の維持・増進には、生涯にわたって運動（スポーツ）を生活に取り入れることが重要である。 健康スポーツⅠでは、健康を維持するために必要な食生活と運動（スポーツ）の重要性を学ぶ。生活習慣病と運動・食生活の関係、疾病と健康状態、体力に応じた運動方法を学ぶ。									
到達目標	日常の生活の中で、「運動」や「スポーツ」を習慣化することで、生涯にわたって健康の維持・増進に繋げて継続していくことの大切さを理解すること。									
学修者への期待等	日頃から体調管理に努め、欠席・遅刻のないよう万全の態勢で授業に臨むことを期待します。									
回	授業計画					準備学修				
1	生活習慣病と健康Ⅰ （生活習慣病・健康寿命・食事）					農林水産省・厚生労働省ホームページを事前に閲覧し、新しい食生活指針について学修すること（概ね30分）				
2	生活習慣病と健康Ⅱ（運動・喫煙・飲酒）					日常的に実施している健康法について自分の考えをまとめること（概ね30分）				
3	スポーツの概念と歴史					スポーツの起源について事前に学修すること（概ね30分）				
4	文化としてのスポーツ					フェアプレーについて自分の考えをまとめること（概ね30分）				
5	体力の概念（行動体力・防衛体力）					行動体力、防衛体力について事前に学修すること（概ね30分）				
6	トレーニングの進め方 （トレーニングの原理・原則種類）					運動を実施する上で、各自のウォーミングアップ方法を考え、まとめること（概ね30分）				
7	文部科学省（スポーツ庁）施策 主なスポーツ関係府省庁及び施策					スポーツ庁ホームページを事前に閲覧し、様々な施策について学修すること（概ね30分）				
8	第1回～第7回の総括					第8回は第1回～第7回までを復習し資料を持参すること。				
教科書	授業時に資料を配付する。									
参考文献										
備考	PT・OT合同授業									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFa01				
	●		●							
科目名	解剖学Ⅰ				単位認定者	大和田 宏美		評価の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科等 必修・選択 配当年次	P T	必修	1 年	開講時期	前期 <th>単位数</th> <td>2 単位</td> <td>授業内課題（小テスト）</td> <td>20 %</td>	単位数	2 単位		授業内課題（小テスト）	20 %
	O T	必修	1 年			授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	解剖学は、人体の構造と機能を理解する学問であり、医学の基礎となっている。身体内部の臓器は、骨格と密接な位置関係で配置されており、身体を切り開くことなく、体表から臓器の位置を知ることができる。本科目では、人体の構造と機能に係る基礎知識となる運動器系の骨・筋の名称、筋の起始・停止、筋の作用や支配神経を中心に学修する。									
到達目標	1. 骨格系・筋系の役割を説明できるようになる。 2. 骨格系では、骨の名称について説明できるようになる。 3. 筋系では、筋の名称・筋の起始・停止、筋の作用を説明できるようになる。 4. 末梢神経系では、各神経支配を理解し、どの筋がどの末梢神経によって支配されているかを説明できるようになる。									
学修者への期待等	骨格系・筋系・末梢神経系を学び、人の体の動きについて理解を深めることで臨床に繋げることを期待する。解剖学を学ぶことは、自分の体を知ることにつながります。興味を持って学修してください。事前にUNIPAに講義資料を掲載しますので、予習として必ず講義資料を確認してください。									
回	授業計画					準備学修				
1	解剖学概論					「解剖学とは何か」、「人の命の尊さとは何か」を考えてくる。（予習 1 時間程度）				
2	骨学 1：上肢骨①鎖骨、肩甲骨					授業計画に該当する骨について教科書を確認する。また、UNIPAに掲載した資料を確認する。（予習・復習時間各 1 時間程度）				
3	骨学 2：上肢骨②上腕骨、尺骨、橈骨									
4	骨学 3：上肢骨③手部									
5	骨学 4：胸郭・脊柱（頸部）									
6	骨学 5：脊柱（胸部・腰部）									
7	骨学 6：下肢骨①骨盤、大腿骨									
8	骨学 7：下肢骨②脛骨、腓骨、足部									
9	筋学総論					授業計画に該当する筋・神経について教科書を確認する。また、UNIPAに掲載した資料を確認する。（予習・復習時間各 1 時間程度）				
10	筋学 1：上肢の筋①上肢帯の筋									
11	筋学 2：上肢の筋②上腕・前腕・手部の筋									
12	筋学 3：体幹の筋									
13	筋学 4：下肢の筋①骨盤帯の筋									
14	筋学 5：下肢の筋②大腿・下腿・足部の筋									
15	頭蓋骨、中枢神経									
教科書	『プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系』医学書院 『系統看護学講座 基礎専門分野 解剖生理学 人体の構造と機能 1』医学書院									
参考文献	デジタルアプリ「Visible Body Sute」 『グレイ解剖学 原著第 3 版』塩田浩平・秋田恵一監訳、ELSEVIER 『ホネタン 骨単 語源から覚える解剖学英単語集 河合 良訓監修 NTS』 『ニクタン 肉単 語源から覚える解剖学英単語集 河合 良訓監修 NTS』									
備考	PT・OT合同授業 小テスト（骨学テスト）を実施後、後日、フィードバックを実施する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

理学療法士としての経験や研究活動を通して、人体の解剖学について理学療法学・作業療法学に必要な知識を教授し、今後学修していく様々な疾患に繋げることができるような授業を展開する。

						科目ナンバリング				
						ReFa02				
学修成果	1 人間基盤力	2 連携協働力	3 専門実践力	4 学術探究力	5 課題解決力					
	●		●							
科目名	解剖学Ⅱ				単位 認定者	山本 由似				
対象学科等 必修・選択 配当年次	P T	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の 方法	試験（筆記）	100 %
	O T	必修	1 年			授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数			
授業の概要	本科目では、特に生命維持に必須の機能である植物性機能と、感覚と神経機能及び運動に関連する動物性機能について学ぶ。植物性機能では、循環器系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系の各器官の位置関係や構造について学修する。動物性機能では、中枢神経系、末梢神経系及び各種感覚器系について学修する。									
到達目標	1. 人体を構成する器官系の名称をあげて説明できる。 2. 各器官系を構成する器官の名称をあげて説明できる。 3. 各器官系を構成する器官の組織学的な特徴をあげて説明できる。 4. 各器官系とその主な機能を関連付けて説明できる。									
学修者への 期待等	授業は教科書とレジュメをもとに行ないます。授業を行った日と次回の授業の前日に、教科書・レジュメを参考にしながら復習すること。わからないところ、疑問に思ったところがあれば積極的に質問して、暗記ではなく理解を深めて下さい。									
回	授業計画					準備学修				
1	解剖学総論					講義前、授業計画に該当する箇所について教科書を一読する（30分程度）。講義後、教科書の該当箇所とレジュメを繰り返し読み、内容を復習する（90分程度）。				
2	細胞とは									
3	組織とは									
4	循環器系-1（循環器系の構成）									
5	循環器系-2（心臓の構造）									
6	消化器系-1（口・咽頭・食道の構造と機能）									
7	消化器系-2（腹部消化管の構造と機能）									
8	消化器系-3（膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能）									
9	呼吸器系									
10	泌尿器系									
11	生殖器系と発生-1（男性生殖器の構造と機能）									
12	生殖器系と発生-2（女性生殖器の構造と機能）									
13	内分泌系									
14	神経系									
15	感覚器系									
教科書	『系統看護学講座 基礎専門分野 解剖生理学 人体の構造と機能①』 医学書院									
参考文献	『入門人体解剖学』藤田恒夫著、第5版 南江堂 『解剖学講義』第3版 南山堂 『プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論』医学書院 『グレイ解剖学 原著第3版』塩田浩平・秋田恵一監訳、ELSEVIER									
備考	PT・OT合同授業									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFa03				
	●		●							
科目名	解剖学演習				単位 認定者	大和田宏美		評価の方法	試験（口頭試 問）	80 %
対象学科等 必修・選択 配当年次	P T	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		試験 （レポート）	20 %
	O T	必修	1 年			授業時間数	30 時間			
					授業形態	演習	授業回数		15 回	
授業の概要	本科目では、解剖学Ⅰで学んだ骨および筋の名称を実際の骨模型および筋模型を用いて立体的な位置関係を確認する。また、骨や筋の名称、筋の起始・停止、筋の作用や支配神経について、人体でイメージできるようになるよう学修する。									
到達目標	1. 各骨の位置、各筋の位置、筋の起始・停止、筋の作用を理解し、骨模型および筋模型を通してをイメージできるようになる。 2. 骨格系・筋系・末梢神経系の位置関係を学修し、人の体の動きについて理解を深めることで臨床に繋げることができるようになる。									
学修者への期待等	グループワーク中心の講義となります。講義以外にグループで骨格系・筋系・末梢神経系について、骨模型や筋模型を使用して、互いに問題を出題しあい復習を行ってください。 理学療法及び作業療法の専門知識を学ぶ上で必要になる基本的な知識を身に付けてください。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	骨模型：骨の位置関係、連結				授業計画に該当する骨について教科書を確認する。また、UNIPAに掲載した資料を確認する。（予習・復習時間各 1 時間程度）				大和田 宏美 荒牧 隼浩	
2	骨学演習 1：上肢骨①鎖骨、肩甲骨、上腕骨								大和田 宏美 大橋 孝子	
3	骨学演習 2：上肢骨②尺骨、橈骨、手部の骨								大和田 宏美 大橋 孝子	
4	骨学演習 3：胸郭・脊柱（頸部）								大和田 宏美 大橋 孝子	
5	骨学演習 4：脊柱（胸部・腰部）								大和田 宏美 荒牧 隼浩	
6	骨学演習 5：下肢骨①骨盤、大腿骨								大和田 宏美 荒牧 隼浩	
7	骨学演習 6：下肢骨②脛骨、腓骨、足部の骨								大和田 宏美 大橋 孝子	
8	筋模型：筋の位置関係、浅層筋および深層筋の位置関係								大和田 宏美 大橋 孝子	
9	筋学演習 1：上肢の筋①上肢帯の筋・上腕の筋				授業計画に該当する筋・神経について教科書を確認する。また、UNIPAに掲載した資料を確認する。（予習・復習時間各 1 時間程度）				大和田 宏美 荒牧 隼浩	
10	筋学演習 2：上肢の筋②前腕・手部の筋								大和田 宏美 大橋 孝子	
11	筋学演習 3：体幹（背部・腹部）の筋								大和田 宏美 大橋 孝子	
12	筋学演習 4：下肢の筋①骨盤帯の筋								大和田 宏美 荒牧 隼浩	
13	筋学演習 5：下肢の筋②大腿・下腿の筋								大和田 宏美 大橋 孝子	
14	筋学演習 6：下肢の筋②足部の筋								大和田 宏美 大橋 孝子	
15	腕神経叢、腰神経叢の位置関係								大和田 宏美 大橋 孝子	
教科書	『プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系』医学書院 『系統看護学講座 基礎専門分野 解剖生理学 人体の構造と機能 1』医学書院									
参考文献	デジタルアプリ「Visible Body Sute」 『グレイ解剖学 原著第 3 版』塩田浩平・秋田恵一監訳、ELSEVIER 『ホネタン 骨単 語源から覚える解剖学英単語集 河合 良訓監修 NTS』 『ニクタン 肉単 語源から覚える解剖学英単語集 河合 良訓監修 NTS』									
備考	PTA・PTB・PTC+OT 3クラス体制 自己学修用にスケッチブック（A4）、色鉛筆（12色）を準備する。 レポート課題はスケッチブックの提出とする。 スケッチブックは、骨と筋のスケッチと各部位の名称等の記載が必要である。 スケッチブックは、それぞれ骨学・筋学講義終了後に提出し、採点後にスケッチブックを返却する。 骨および筋について、学修できているかについて口頭試験で評価する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFa04				
	●		●							
科目名	解剖学実習				単位認定者	伊橋 光二		評価の方法	試験（実技）	100 %
対象学科等 必修・選択 配当年次	P T	必修	1 年	開講時期	通年	単位数	1 単位			
	O T	必修	1 年			授業時間数	40 時間			
					授業形態	実習	授業回数		20 回	
授業の概要	理学療法および作業療法における検査・測定および治療を実施するにあたり、体表から骨、関節、靱帯、筋、腱、神経、血管等の身体組織の触診を行えることは必要不可欠な技術である。本科目では、理学療法および作業療法と関わりが深い、運動器系の人体の構造を理解するために、骨の名称、筋の名称、筋の起始・停止、筋の作用や支配神経について骨と筋の模型を用いて学修する。また、各組織の名称、筋の走行などの基本的な体表解剖学の確認を行うとともに、部位ごとに触診する技術を学修する。									
到達目標	1. 身体各組織、器官の解剖学的名称と機能、触診が可能な部位を説明できるようになる。 2. 体表から骨、関節、靱帯、筋、腱、神経、血管など身体組織を触診できるようになる。 3. 各組織、部位を触診する意義を理解し、診断・治療に正しく応用できるようになる。									
学修者への期待等	身体構造や形態を体表から透かして見るように的確に捉え、筋骨格系組織を意識的に区別して触診ができることで、身体形態的異常・アライメント異常を確認でき、痛みの原因や損傷・障害のある筋骨格系組織の鑑別に繋げることができるようになる。また再現性のある正確な検査・測定および効果的治療が実施できる。授業にあたっては、解剖学の内容を十分に復習し、具体的到達目標に基づいた予習を行ったうえで授業に臨み、指定された担当部位の実技デモンストレーションを行い、名称、位置、機能を総合的に学修することを原則とする。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	解剖学実習概論と各組織の触診方法				①配付資料を確認 ②シラバス・具体的到達目標を確認				伊橋 光二 鈴木 裕治	
2	骨・関節の触診①肩複合体				①解剖学Ⅰの肩甲帯の骨・関節の復習 ②具体的到達目標の予習（ICT反転授業・AL） 指定された担当部位の実技デモの準備 ③授業の復習（触診の実技練習）（60分程度）				伊橋 光二 鈴木 裕治	
3	骨・関節の触診②上肢帯・上腕・前腕・手部				①解剖学の上腕・前腕・手部の骨・関節の復習 ②具体的到達目標の予習（反転授業・AL） 指定された担当部位の実技デモの準備 ③授業の復習（触診の実技練習）（60分程度）				伊橋 光二 鈴木 裕治	
4	骨・関節の触診③骨盤・大腿				①解剖学の骨盤・大腿部の骨・関節の復習 ②具体的到達目標の予習（ICT反転授業・AL） 指定された担当部位の実技デモの準備 ③授業の復習（触診の実技練習）（60分程度）				伊橋 光二 鈴木 裕治	
5	骨・関節の触診④下腿・足部				①解剖学の下腿・足部の骨・関節の復習 ②具体的到達目標の予習（ICT反転授業・AL） 指定された担当部位の実技デモの準備 ③授業の復習（触診の実技練習）（60分程度）				伊橋 光二 鈴木 裕治	
6	骨・関節の触診⑤体幹				①解剖学の体幹の骨・関節の復習 ②具体的到達目標の予習（ICT反転授業・AL） 指定された担当部位の実技デモの準備 ③授業の復習（触診の実技練習）（60分程度）				伊橋 光二 鈴木 裕治	
7	骨・関節の触診⑥全身				全ての骨関節の復習（触診の実技練習・AL）（60分程度）				伊橋 光二 鈴木 裕治	
8	軟部組織の触診①肩複合体・上肢帯・上腕				①解剖学の肩・上腕部の軟部組織の復習 ②具体的到達目標の予習（ICT反転授業・AL） 指定された担当部位の実技デモの準備 ③授業の復習（触診の実技練習）（60分程度）				伊橋 光二 鈴木 裕治	
9	軟部組織の触診②前腕・手部				①解剖学の前腕・手部の軟部組織の復習 ②具体的到達目標の予習（ICT反転授業・AL） 指定された担当部位の実技デモの準備 ③授業の復習（触診の実技練習）（60分程度）				伊橋 光二 鈴木 裕治	
10	軟部組織の触診③骨盤・大腿				①解剖学の骨盤・大腿部の軟部組織の復習 ②具体的到達目標の予習（ICT反転授業・AL） 指定された担当部位の実技デモの準備 ③授業の復習（触診の実技練習）（60分程度）				伊橋 光二 鈴木 裕治	

回	授業計画	準備学修	担当
11	軟部組織の触診④下腿・足部	①解剖学の骨盤帯・大腿部の軟部組織の復習 ②具体的到達目標の予習（ICT反転授業・AL） 指定された担当部位の実技デモの準備 ③授業の復習（触診の実技練習）（60分程度）	伊橋 光二 鈴木 裕治
12	軟部組織の触診⑤体幹	①解剖学の体幹の軟部組織の復習 ②具体的到達目標の予習（ICT反転授業・AL） 指定された担当部位の実技デモの準備 ③授業の復習（触診の実技練習）（60分程度）	伊橋 光二 鈴木 裕治
13	軟部組織の触診⑥全身	全ての軟部組織の復習（触診の実技練習・AL） （60分程度）	伊橋 光二 鈴木 裕治
14	血管、神経、その他身体組織の触診	①解剖学の血管・神経の復習 ②具体的到達目標の予習（ICT反転授業・AL） ③授業の復習（触診の実技練習）（60分程度）	伊橋 光二 鈴木 裕治
15	触診の理学療法への応用	①学習した触診部位、触診の流れの確認 ②検査・測定の予習・復習（30分程度）	伊橋 光二 鈴木 裕治
16	解剖学実習における倫理	①配付資料を確認 ②シラバス・具体的到達目標を確認	伊橋 光二 鈴木 裕治
17	人体解剖実習①上肢・神経系	①第16回（倫理）の確認（5分） ②上肢の骨・関節・軟部組織の復習（40分程度） ③人体解剖実習の課題を実施し提出（60分程度）	伊橋 光二 大和田 宏美 鈴木 裕治
18	人体解剖実習②下肢・神経系	①第16回（倫理）の確認（5分） ②下肢の骨・関節・軟部組織の復習（40分程度） ③人体解剖実習の課題を実施し提出（60分程度）	伊橋 光二 大和田 宏美 鈴木 裕治
19	人体解剖実習③体幹・臓器	①第16回（倫理）の確認（5分） ②体幹の骨・関節・軟部組織の復習（40分程度） ③人体解剖実習の課題を実施し提出（60分程度）	伊橋 光二 大和田 宏美 鈴木 裕治
20	総復習	全ての骨・関節・軟部組織の復習（触診の実技練習・AL）（60分程度）	伊橋 光二 大和田 宏美 鈴木 裕治
教科書	『運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢 改訂第2版』青木隆明監修、メジカルビュー社 『運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 改訂第2版』青木隆明監修、メジカルビュー社		
参考文献	『骨格筋の形と触察法』河上敬介・磯貝香、大峰閣 『プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系 第3版』坂井建雄・松村譲児監訳、医学書院 『プロメテウス解剖学アトラス 頭頸部／神経解剖 第3版』坂井建雄・河田光博監訳、医学書院 「触診機能解剖カラーアトラス 上」文光堂 「触診機能解剖カラーアトラス 下」文光堂 『カラー版 筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版』Donald A. Neumann著、有馬慶美・日高正巳監訳、医歯薬出版株式会社 『基礎運動学 第7版』中村隆一・齋藤宏・長崎浩著、医歯薬出版株式会社		
備考	PTA・PTB・PTC+OT 3クラス体制（16～19回は3クラス合同、うち17～19回は学外人体解剖見学実習） ICT教材を使用した反転授業およびALによる実技、担当箇所の学生デモにて実施。 触診を行えるよう、可能な限り裸出できる服装で授業に参加すること。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFa05				
			●							
科目名	生理学 I				単位 認定者	鈴木 裕一		評価 の方法	試験（筆記）	33 %
対象学科等 必修・選択 配当年次	P T	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	2 単位		授業内課題 （小テスト）	67 %
	O T	必修	1 年			授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	生理学は、人体の機能を理解する学問である。人体の生理機能を理解するために、人体を構成する各要素（細胞 - 組織 - 器官）に分解してその個々の機能を理解し、それら要素間の相互関係や統合関係を学ぶ。生理学Ⅰでは、主に動物性機能について学ぶ。本科目では、中枢神経系、末梢神経系、骨格筋系、感覚器系の構造（形態）機能について学修する。人体の運動機能を構成する神経系、感覚器の形態及び生理機能を学び、外的刺激に対する人体の反射・反応、運動・活動のしくみ（メカニズム）についての基礎的な知識を身につける。									
到達目標	1. 人体を構成する各要素（細胞・組織・器官）に分解してその個々の機能を理解し、それら要素間の相互関係や統合関係を説明できる。 2. 人体の運動機能を構成する神経系、感覚器の形態および生理機能を説明し、外的刺激に対する人体の反射・反応、運動・活動のメカニズムについて構造（形態）機能を一体的に説明できる。									
学修者への期待等	1. 理学療法・作業療法を学ぶのに基礎となる科目なので真剣に取り組むこと。 2. 臨床医学（内科学など）を理解するのに必要な科目であることを頭に入れて取り組むこと。									
回	授業計画					準備学修				
1	人体について					教科書の第 1 章総論について予習すること（概ね 30 分）				
2	細胞と組織					講義資料について復習し、小テスト(1)を合格するための準備をすること（概ね30分）。教科書の該当ページについて予習すること（概ね20分）				
3	皮膚と膜									
4	骨格系：骨と関節									
5	筋系：骨格筋の活動性									
6	神経組織：神経細胞と支持細胞					講義資料について復習し、小テスト(2)を合格するための準備をすること（概ね30分）。教科書の該当ページについて予習すること（概ね20分）				
7	中枢神経系：脳の構造と機能									
8	中枢神経系：高次脳機能									
9	末梢神経系									
10	自律神経系									
11	体性感覚					講義資料について復習し、試験を合格するための準備をすること（概ね30分）。教科書の該当ページについて予習すること（概ね20分）				
12	特殊感覚（１）：目と視覚									
13	特殊感覚（２）：耳（聴覚と平衡覚）									
14	運動制御									
15	言語、発声構音機能									
教科書	リハビリテーション基礎講座『生理学』行友聖子他著 医師薬出版株式会社									
参考文献										
備考	PT・OT合同授業 授業内課題については授業内あるいはUNIPAでフィードバックを行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果						科目ナンバリング		
						ReFa08		
1人間基盤力2連携協働力3専門実践力4学術探究力5課題解決力								
						●		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

医療福祉関連施設（大学病院、一般病院）での理学療法士としての実務経験を活かし、学生が身体運動の仕組みについて理解を深め、臨床現場に繋げることができるような授業を展開する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFa09					
			●								
科目名	運動学演習 I				単位 認定者	原和彦 坂上尚穂		評価 の方法	試験（筆記）	80 %	
対象学科等 必修・選択 配当年次	P T	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題 （小テスト）	20 %	
	O T	必修	1 年			授業時間数	30 時間				
					授業形態	演習	授業回数		15 回		
授業の概要	運動学演習 I では、主に上肢と体幹の運動学について学ぶ。上肢と体幹の筋骨格系の構造と機能、関節運動と靱帯および筋の作用について学修する。解剖学・生理学の知識に基づき科学的にヒトの活動制御の仕組みを理解し、分析する力を身につける。また、分析により問題点を把握できるようになる。										
到達目標	1. 上肢の関節構造と筋による作用を説明できる。 2. 上肢の関節構造と靱帯による制動を説明できる。 3. 体幹の関節構造と筋による作用を説明できる。 4. 体幹の関節構造と靱帯による制動を説明できる。										
学修者への 期待等	解剖学・運動学の知識を応用し、症例への評価、運動療法につなげてください。 臨床評価を学ぶ上での基盤となる内容です。										
回	授業計画					準備学修			担当		
1	上肢・体幹の関節構造の概要					指定教科書①p169-180、②p213-216までを予習してください（30分程度）。			原 和彦 坂上 尚穂		
2	肩関節複合体の構造（筋と靱帯）					指定教科書①p51-88までを予習してください（60分程度）。			原 和彦 坂上 尚穂		
3	肩関節複合体の運動と機能 （骨模型と触診を用いて演習）								原 和彦 坂上 尚穂		
4	肘関節・橈尺関節の構造（筋と靱帯）					指定教科書①p89-115までを予習してください（60分程度）。			原 和彦 坂上 尚穂		
5	肘関節・橈尺関節の運動と機能 （骨模型と触診を用いて演習）								原 和彦 坂上 尚穂		
6	手関節の構造（筋と靱帯）					指定教科書①p117-168までを予習してください（60分程度）。			原 和彦 坂上 尚穂		
7	手関節の運動と機能（骨模型と触診を用いて演習）								原 和彦 坂上 尚穂		
8	手指の構造（筋と靱帯）					指定教科書①p137-164までを予習してください（60分程度）。			原 和彦 坂上 尚穂		
9	手指の運動と機能（骨模型と触診を用いて演習）								原 和彦 坂上 尚穂		
10	環椎後頭関節～頸椎の構造（筋と靱帯）					指定教科書①p180-216の該当箇所（頸椎）を予習してください（60分程度）。			原 和彦 坂上 尚穂		
11	環椎後頭関節～頸椎の運動と機能 （骨模型と触診を用いて演習）								原 和彦 坂上 尚穂		
12	胸椎・胸郭の構造（筋と靱帯）					指定教科書①p359-365の該当箇所（換気）を予習してください（60分程度）。			原 和彦 坂上 尚穂		
13	胸椎・胸郭の構造の運動と機能 （骨模型と触診を用いて演習）								原 和彦 坂上 尚穂		
14	腰椎・仙腸関節の構造（筋と靱帯）					指定教科書①p180-216の該当箇所（腰椎椎）を予習してください（60分程度）。			原 和彦 坂上 尚穂		
15	腰椎・仙腸関節の運動と機能 （骨模型と触診を用いて演習）								原 和彦 坂上 尚穂		
教科書	①『エッセンシャル・キネシオロジー 機能的運動学の基礎と臨床』エルゼビア・ジャパン ②『基礎運動学 第6版補訂』医歯薬出版										
参考文献	『身体運動学 関節の制御機構と筋機能』メジカルビュー社										
備考	PTA・PTB・PTC+OT 3クラス体制 小テストは事前に各講義の中でフィードバックする。										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

原…医療福祉関連施設（大学病院、一般病院）での理学療法士としての運動疾患、中枢疾患の臨床実践と研究を継続してきた経験を生かし、治療的介入を行う上で基礎となる演習を行う。
坂上…理学療法士としての経験が豊富で本科目を教授するに十分な実務経験を有する。

						科目ナンバリング	
						ReFa010	
学修成果	1 人間基盤力	2 連携協働力	3 専門実践力	4 学術探究力	5 課題解決力		
			●				
科目名	運動学演習Ⅱ				単位 認定者	原和彦 大橋孝子	
対象学科等 必修・選択 配当年次	P T	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位
	O T	必修	1 年			授業時間数	30 時間
				授業形態	演習	授業回数	15 回
授業の概要	運動学演習Ⅱでは、主に下肢の運動学について学ぶ。下肢の筋骨格系の構造と機能、関節運動と靱帯および筋の作用や実際の身体運動における役割・機能について学修する。また、姿勢・歩行における正常・異常、身体運動におけるエネルギー代謝などに関する基礎的な知識を身につける。						
到達目標	1. 下肢の関節構造と筋による作用を説明できる。 2. 下肢の関節構造と靱帯による制動を説明できる。 3. 下肢・体幹の運動と姿勢・歩行と知識の結びつけ、説明できる。 4. 身体運動におけるエネルギー代謝を説明できる。						
学修者への 期待等	解剖学・運動学の知識を応用し、症例への評価、運動療法につなげてください。 臨床評価を学ぶ上での基盤となる内容です。						
回	授業計画				準備学修		担当
1	下肢の関節構造と移動の概要				指定教科書②p246-247を予習してください（30分程度）。		原 和彦 坂上 尚穂 大橋 孝子
2	股関節の構造（筋と靱帯）				指定教科書①p217-258を予習してください（60分程度）。		坂上 尚穂 大橋 孝子
3	股関節の運動と機能（骨模型と触診を用いて演習）						坂上 尚穂 大橋 孝子
4	膝関節・橈尺関節の構造（筋と靱帯）				指定教科書①p259-289を予習してください（60分程度）		坂上 尚穂 大橋 孝子
5	膝関節・橈尺関節の運動と機能（骨模型と触診を用いて演習）						坂上 尚穂 大橋 孝子
6	足関節の構造（筋と靱帯）				指定教科書①p293-328を予習してください（60分程度）。		坂上 尚穂 大橋 孝子
7	足関節の運動と機能（骨模型と触診を用いて演習）						坂上 尚穂 大橋 孝子
8	足部の構造（筋と靱帯）						坂上 尚穂 大橋 孝子
9	足部の運動と機能（骨模型と触診を用いて演習）						坂上 尚穂 大橋 孝子
10	姿勢（重心と支持基底面）				指定教科書②p347-364を予習してください（60分程度）。		坂上 尚穂 大橋 孝子
11	姿勢（バランス・平衡機能と運動）				指定教科書②p364-372を予習してください（60分程度）。		坂上 尚穂 大橋 孝子
12	正常歩行①歩行周期と各関節の運動				指定教科書①p331-347を予習してください（60分程度）。		坂上 尚穂 大橋 孝子
13	正常歩行②運動力学分析と筋活動				指定教科書②p390-401を予習してください（60分程度）。		坂上 尚穂 大橋 孝子
14	姿勢・歩行総復習				10回～13回までの授業資料		坂上 尚穂 大橋 孝子
15	運動のためのエネルギー供給機構				指定教科書②p401-404を予習してください（30分程度）。		坂上 尚穂 大橋 孝子
教科書	①『エッセンシャル・キネシオロジー 機能的運動学の基礎と臨床』エルゼビア・ジャパン ②『基礎運動学 第7版』医歯薬出版						
参考文献	『身体運動学 関節の制御機構と筋機能』メジカルビュー社						
備考	PTA・PTB・PTC+OT 3クラス体制 小テスト問題は各講義の中で事前にフィードバックする。						

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFa014				
			●							
科目名	人間発達学				単位認定者	外里 富佐江		評価の方法	試験（筆記）	100 %
対象学科等必修・選択配当年次	P T	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位			
	O T	必修	1 年			授業時間数	15 時間			
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	本科目では、生涯にわたる人間発達の様相を、胎児期・新生児期から乳幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期の発達段階の視点で学修する。それぞれが持つ身体的、精神的、心理社会的特徴とその障害を理解し、発達に応じた社会との関わりを総合的に捉え、具体的支援の在り方について学修する。									
到達目標	・ 人間発達の概要を理解できるようになる。 ・ 各発達領域が相互に関連しながら発達することを理解する。 ・ 胎児期から老年期の各発達段階の特徴を理解できるようになる。									
学修者への期待等	人間発達学は、社会制度や社会情勢と密接に関連している。新聞記事、ニュースなど最新の社会的な課題や知見に触れ、積極的に議論でき、課題に取り組むように知見をひろげて、授業に臨むこと。									
回	授業計画					準備学修				
1	人間発達学の概要 胎児期・新生児期・乳児期の特徴					兄弟・両親・祖父母などの生活について観察しておくこと。 課題① ライブチャートを作成する。（約30分）				
2	運動発達と姿勢反射（原始反射・正常姿勢反応）の関係					テキスト第1章3「発達理論」 p 13-26で予習・復習すること（概ね40分） 課題② 動画によるキーワードを学習し解説する。				
3	上肢機能の発達 視覚機能の発達 目と手の協調性					テキスト第3章3「視覚・眼球運動・ハンドスキル」 p 184-201で予習・復習すること（概ね60分） 課題③ 動画によるキーワードを学習し解説する。				
4	認知機能の発達					テキスト第2章「幼児期」 p 69-88で予習・復習すること（概ね40分） 課題④ 認知の発達について（約30分）				
5	社会性の発達 言語の発達					テキスト第3章「聴覚__言語機能の発達」 p 202-221で予習・復習すること（概ね60分） 課題⑤ 社会性・言語について（約30分）				
6	遊びと日常生活活動の発達					テキスト第2章「青年期」「成人期」 p 89-115で予習・復習すること（概ね60分） 課題⑥ 遊びについて（約30分）				
7	幼児期と児童期の特徴					テキスト第2章「幼児期」 p 56-68で予習・復習すること（概ね40分） 課題⑦ 幼児期の特徴（約30分）				
8	青年期・成人期・老年期の特徴					テキスト第2章4「高齢期」 p 123-151で予習・復習すること（概ね60分） 課題⑧ 高齢期の特徴（約30分）				
教科書	『コメディカルのための専門基礎分野テキスト 人間発達学 改訂6版』 福田恵美子編，中外医学社									
参考文献	リハビリテーションテキスト「人間発達学」 浅野大喜 メジカルビュー社									
備考	PT・OT合同授業									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

科目担当者は10年以上の作業療法士としての臨床経験を有している。訪問リハビリテーションに従事した経験を有し具体的な事例で人間発達学の事例紹介が可能であり、わかりやすく解説する。

						科目ナンバリング				
学修成果	1	2	3	4	5	ReFb10				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力					
			●							
科目名	栄養学				単位 認定者	岩間正典・高泉佳苗		評価の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科等 必修・選択 配当年次	P T	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
	O T	必修	1 年			授業時間数	15 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	栄養は、生物が生命活動を営む上で外部から摂取する必要がある物質およびその働きである。適切な栄養摂取によって、健康な身体を形成・維持することができる。栄養過多は高血圧、糖代謝異常、脂質代謝異常などの生活習慣病を惹起する可能性がある。一方で、栄養不足は生命の恒常性を保持することが困難になる。本科目では、栄養に関する基礎的な知識を身につけ、理学療法および作業療法を実施する上で必要な栄養管理とその指導について学修する。									
到達目標	1. 栄養について基本的知識を習得し、説明できる。 2. 理学療法・作業療法の効果を高めるために必要な栄養管理について理解し、説明できる。									
学修者への期待等	リハビリテーションに必要な栄養の基礎知識を身につけて、リハビリテーションにおける栄養管理の重要性を理解してください。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	栄養学概論：リハビリテーションにおける栄養知識の重要性について					教科書序章をよく読んで概要を理解しておくこと。（概ね30分）			岩間 正典	
2	栄養素の消化と吸収					教科書第1章3「栄養素の役割」を読んでおくこと。（概ね30分）			岩間 正典	
3	エネルギー代謝、食事摂取基準【反転授業】					教科書第5章にある「日本人の食事摂取基準」が示す5つの指標について、事前にその意味を理解し、学修しておくこと。授業の最初に理解度を確認するテストを行い、それに基づいて授業を進める。（概ね1時間）			岩間 正典	
4	運動時の栄養管理					授業内容を復習すること。（概ね30分）			高泉 佳苗	
5	栄養補給法、リハビリテーション栄養ケアプロセス					授業内容を復習すること。（概ね30分）			高泉 佳苗	
6	病態別の栄養管理（1）：低栄養、過栄養					授業内容を復習すること。（概ね30分）			高泉 佳苗	
7	病態別の栄養管理（2）：摂食嚥下障害、サルコペニア					授業内容を復習すること。（概ね30分）			高泉 佳苗	
8	病態別の栄養管理（3）：フレイル、メタボリックシンドローム、術前・術後					授業内容を復習すること。（概ね30分）			高泉 佳苗	
教科書	『リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎』栢下淳・若林秀隆編著、医歯薬出版株式会社									
参考文献	『PT・OT・STのためのリハビリテーション栄養』若林秀隆著、医歯薬出版株式会社									
備考	PT・OT合同授業									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

						科目ナンバリング				
						ReFb11				
学修成果	1 人間基盤力	2 連携協働力	3 専門実践力	4 学術探究力	5 課題解決力					
		●	●							
科目名	救急救命学				単位 認定者	堀口 雅司		評価 の方法	試験（筆記）	90 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	10 %
	O T	必修	1 年			授業時間数	15 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	救急医療とは、一般市民による心肺蘇生法を含めた応急手当、119番通報と救急車の出動、救急隊員や救急救命士による現場での応急処置や救急搬送などの病院前救護から、救急室での救命治療、ICUでの重症患者管理などをいう。本科目では、理学療法士及び作業療法士の関わりも含め、緊急を要する病態や疾患・外傷の基礎的な知識と考え方、心肺蘇生・応急処置について学修する。									
到達目標	・救急救命学について対象となりうる疾患、外傷について理解し説明できる。 ・救急救命学における理学療法士、作業療法士の関わりを理解し説明できる。									
学修者への期待等	医療従事者の一員である理学療法士、作業療法士として、救急救命の知識・技術を修得でき、実践できるように努めてください。									
回	授業計画					準備学修				
1	応急手当の基礎知識 Ⅰ 応急手当と救命処置・Ⅱ 救命の連鎖と住民の役割・Ⅲ 突然の心停止を防ぐために					テキスト §1 応急手当の基礎知識にて予習すること。 （概ね1時間）				
2	救命処置① Ⅰ 救命処置の流れ（心肺蘇生法とAEDの使用） Ⅱ 救命処置の手順（心肺蘇生法・AEDの手順）					テキスト §2 救命処置にて予習すること。 （概ね1時間）				
3	救命処置② Ⅰ 救命処置の流れ（心肺蘇生法とAEDの使用） Ⅱ 救命処置の手順（心肺蘇生法・AEDの使用手順） 簡易訓練人形とAED（紙）による演習（2人1組）					テキスト §2 救命処置にて予習すること。 （概ね1時間）				
4	救命処置③ Ⅰ 救命処置の流れ（心肺蘇生法とAEDの使用） Ⅱ 救命処置の手順（心肺蘇生法・AEDの使用手順） 簡易訓練人形とAED（紙）による演習（2人1組）					テキスト §2 救命処置にて予習すること。 （概ね1時間）				
5	救命処置④ Ⅱ 救命処置の手順（気道異物の除去） Ⅲ 乳児の救命処置					テキスト §2 救命処置にて予習すること。 （概ね1時間）				
6	その他の応急手当① Ⅰ 傷病者の管理法（安全・保温・体位） Ⅱ 止血法（直接圧迫止血法）					テキスト §3 その他の応急手当（ファーストエイド）にて予習すること。（概ね1時間）				
7	その他の応急手当② Ⅰ 傷病者の管理法（安全・保温・体位） Ⅱ 止血法（直接圧迫止血法） Ⅲ 病気やけがに対する応急手当					テキスト §3 その他の応急手当（ファーストエイド）にて予習すること。（概ね1時間）				
8	その他の応急手当③ Ⅲ 病気やけがに対する応急手当 （三角巾の使用方法・搬送法など） その他（119番通報と救急車の呼び方）					テキスト §3 その他の応急手当（ファーストエイド） §4 その他にて予習すること。（概ね1時間）				
教科書	『改訂 6 版 応急手当講習テキスト 救急車がくるまでに』 制作 一般財団法人 救急振興財団 東京法令出版									
参考文献	『リハベーシック 安全管理学・救急医療学』医歯薬出版株式会社									
備考	PT・OT合同授業									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFc01				
		●	●		●					
科目名	リハビリテーション概論				単位認定者	佐直 信彦		評価の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	2 単位			
	O T	必修	1 年			授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	リハビリテーションは障害を有する者を対象とする。医学や医療技術の進歩発展、超高齢化とともに、障害と関わって生活することは誰にでも起こりうる社会となった。本科目では、自立支援や就労支援を含むリハビリテーションの基本理念ならびに生活機能とその障害の正しい理解を目指す。また、リハビリテーション医療の特性と、多職種連携を理解した上で、地域包括ケアシステムについても学修する。									
到達目標	1. 「リハビリテーション」の多義性－理念、科学、サービス提供－について説明できる。 2. 健康、疾病、障害と「国際生活機能分類 ICF」について理解でき、リハビリテーションの諸領域において展開できる。 3. リハビリテーションの諸領域と専門職連携についてチームアプローチモデルに基づいて説明でき、療法師として実践できる。 4. リハビリテーション過程について説明でき、理学療法・作業療法のなかで展開できる。									
学修者への期待等	・ 専門の科目は全て新しく学ぶ分野なので、授業中に理解できるように集中し、解らないことは質問すること。 ・ UNIVERSAL PASSPORT (UNIPA) 上の授業資料(事前に配付)とコメントをもとに準備すること。授業後は、ノートやUNIPA資料への書き込み等を整理し、復習に重点を置くこと。									
回	授業計画					準備学修				
1	リハビリテーションとは (1) 障害者とリハビリテーションをめぐって					教科書1 p ～ 復習中心にノートを整理する。(45分程度)				
2	リハビリテーションとは (2) 「障害者」諸外国の対応と我が国の変遷					教科書17 p ～ 復習中心にノートを整理する。(45分程度)				
3	リハビリテーションとは (3) 我が国における「リハビリテーション」の語義の用例					復習中心にノートを整理する。(45分程度)				
4	リハビリテーションとは (4) 健康と生活の質					教科書21 p ～ 復習中心にノートを整理する。(45分程度)				
5	病気と障害 (1) Ⅰ 病気とは、傷害とは、そしてICF					教科書29p～、39 p ～ 復習中心にノートを整理する。(45分程度)				
6	病気と障害 (2) Ⅱ 慢性疾患モデルと障害予防 Ⅲ リハビリテーションと心理：心理的適応の過程と障害受容					教科書54 p ～、109 p ～ 復習中心にノートを整理する。(45分程度)				
7	リハビリテーションの諸領域 Ⅰ 医学的リハビリテーション					教科書115 p ～、121p～ 復習中心にノートを整理する。(45分程度)				
8	Ⅱ 障害児教育、Ⅲ職業リハビリテーション Ⅳ 社会リハビリテーションと地域リハビリテーション					教科書127 p ～、137 p ～、150 p ～、215 p ～ 復習中心にノートを整理する。(45分程度)				
9	Ⅴ 障害福祉サービスと補装具／日常生活用具					教科書318 p ～、353 p ～、215 p ～、3962 p ～ 復習中心にノートを整理する。(45分程度)				
10	Ⅵ 高齢者サービス (1) 高齢者対策の理念と推移、 高齢者リハビリテーション					教科書154 p ～、359 p ～、 復習中心にノートを整理する。(45分程度)				
11	Ⅵ 高齢者サービス (2) 高齢者リハビリテーションの特殊問題と介護制度					教科書155 p ～ 復習中心にノートを整理する。(45分程度)				
12	リハビリテーションの過程 Ⅰ 評価とプログラム ～評価・測定～					教科書167 p ～、 復習中心にノートを整理する。(45分程度)				
13	Ⅱ チームアプローチと専門職					教科書183 p ～、186 p ～ 復習中心にノートを整理する。(45分程度)				
14	Ⅲ 疾病治療とリハビリテーション医療 Ⅳ 廃用症候群 (1) 総論					参考文献「入門リハ医学」193 p ～、432 p ～ 復習中心にノートを整理する。(45分程度)				
15	Ⅳ 廃用症候群 (2) 各論					参考文献「入門リハ医学」432 p ～ 復習中心にノートを整理する。(45分程度)				
教科書	『入門リハビリテーション概論』中村隆一・佐直信彦編、医歯薬出版株式会社									
参考文献	『入門リハビリテーション医学』中村隆一監修、岩谷力・佐直信彦他編、医歯薬出版株式会社(図書館蔵)									
備考	・ PT・OT合同授業 ・ 授業資料等はUNIPAに投稿する。 ・ 教科書の頁数は版、刷の改訂で変わります。 ・ 授業内課題の解答は次の授業資料の末尾に提示する。定期試験(筆記試験)の結果の講評はUNIPAに掲載する。 ・ 個別には教員研究室にて対応する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

リハビリテーション学部
理学療法学専攻
1 年生

■ 専門科目シラバス

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	RPMa01				
	●		●	●						
科目名	理学療法学概論				単位 認定者	網本 和		評価の 方法	授業内課題 (レポート等)	20 %
対象学科等 必修・選択 配当年次	P T	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内課題 (小テスト)	30 %
						授業時間数	30 時間		試験 (筆記)	50 %
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	本科目は、理学療法の基軸を理解するための科目である。理学療法の本質と将来の方向性を理解するために、理学療法の定義、歴史、役割、将来展望を学ぶ。また、理学療法の業務や考え方、対象疾患や治療手段、理学療法士に関連する法規や保険制度および世界の理学療法の現状と課題について学修する。									
到達目標	1. 理学療法の定義について説明できる 2. 理学療法士の専門性と役割について説明できる 3. 理学療法士の対象疾患と、その治療手段について説明できる 4. 理学療法士に関連する法規や保険制度について説明できる									
学修者への 期待等	理学療法は様々な疾病・障害領域の評価と治療を担当することになるので、広く関心を持って予習し、講義後には当該領域について復習をし、今後の理学療法学の基盤を形成することが期待されている。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	理学療法概要 理学療法とは～理学療法と倫理・哲学				第1章・8章・9章を読んでおくこと 30分程度				網本 和	
2	理学療法の歴史				第12章を読んでおくこと 30分程度				網本 和	
3	理学療法士を取り巻く法制度				第11章を読んでおくこと 30分程度				伊橋 光二	
4	理学療法の基盤 理学療法モデル				第2章・7章を読んでおくこと 30分程度				伊橋 光二	
5	理学療法の学問的体系化と研究法				第10章を読んでおくこと 30分程度				伊橋 光二	
6	理学療法の対象疾患の知識と治療手段 ①呼吸器疾患				第5章・6章を読んでおくこと 30分程度				伊橋 光二	
7	理学療法の対象疾患の知識と治療手段 ②循環器疾患				第5章・6章を読んでおくこと 30分程度				網本 和	
8	理学療法の対象疾患の知識と治療手段 ③神経系疾患（脳卒中）				第5章・6章を読んでおくこと 30分程度				網本 和	
9	理学療法の対象疾患の知識と治療手段 ④運動器疾患				第5章・6章を読んでおくこと 30分程度				網本 和	
10	理学療法の対象疾患の知識と治療手段 ⑤小児疾患				第5章・6章を読んでおくこと 30分程度				網本 和	
11	理学療法組織と部門管理				第13章を読んでおくこと 30分程度				金谷 さとみ	
12	理学療法と心理・メンタルヘルス				第13章を読んでおくこと 30分程度				金谷 さとみ	
13	理学療法と地域包括ケア、災害への対応				第11章を読んでおくこと 30分程度				金谷 さとみ	
14	理学療法士の組織とその活動				第12章を読んでおくこと 30分程度				金谷 さとみ	
15	世界の理学療法 ～先進諸国の理学療法、 発展途上国への援助				第12章を読んでおくこと 30分程度				網本 和	
教科書	『PTスタートガイド 基礎理学療法学概論 改訂第2版』 MEDICAL VIEW									
参考文献										
備考	PTA・PTB・PTCクラス合同体制 授業内課題および小テストについては、当日または次回までにフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

						科目ナンバリング				
						ReMa01				
学修成果	1 人間基盤力	2 連携協働力	3 専門実践力	4 学術探究力	5 課題解決力					
	●	●	●	●						
科目名	トランスレーショナルセミナーⅠ				単位 認定者	大和田宏美 伊藤大亮		評価 の方法	授業内課題 (レポート等)	100 %
対象学科等 必修・選択 配当年次	P T	必修	1 年	開講時期	通年	単位数	1 単位			
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	演習	授業回数		15 回	
授業の概要	トランスレーショナルセミナーⅠ～トランスレーショナルセミナーⅣは、主体的・能動的な学修能力を形成しながら学びの充実度を高め、大学生活において重要な、学生間・学年間のつながりを築くための科目である。 トランスレーショナルセミナーⅠでは、大学で学ぶために必要なアカデミックリテラシー(講義の受け方、各種レポートの作成方法など)と、理学療法を知ることの重点を置く。また、グループワークなどを通じて、理学療法に関する様々なテーマについて学修する。									
到達目標	1. 大学生活を有意義に送るための基本的な知識やスキルを身につける 2. 理学療法を知り、大学での学びを充実したものとするための契機とする									
学修者への 期待等	大学生活を有意義に送るために設定した科目である。自己の目標を叶えるために、積極的に学ぶことを期待する。さらに多くの仲間をつくり、教員の話の聞いたりいろいろな考えに触れてほしい。									
回	授業計画					準備学修				
1	【1～2年生合同】理学療法を学ぶ意義					理学療法とは何かについて考えてくる。(30分程度)				
2	【1～2年生合同】理学療法を学ぶということ ディスカッション									
3	大学の教育方針 3つのポリシーについて					学生便覧とシラバスを読んでカリキュラムを確認してくる。(30分程度)				
4	カリキュラムについて 理学療法士になるには									
5	グループワーク①自己紹介 理学療法とは					授業内容をノートにまとめる。(復習30分程度)				
6	グループワーク②理学療法士の活躍の場									
7	【2専攻1年生合同】理学療法士と作業療法士 (仕事内容の比較、共通点、特徴等)									
8	大学生活での学び①社会生活、大学生活のルール									
9	大学生活での学び②講義の受け方									
10	大学生活での学び③学習計画の立て方、自己管理能力									
11	大学生活での学び④情報リテラシー									
12	大学生活での学び⑤文献検索の仕方、図書室の利用法									
13	大学生活での学び⑥心の相談室									
14	大学生活での学び⑦ハラスメント									
15	大学生活での学び⑧先輩から学ぶ大学生活									
教科書	「わたし」を伝えるコミュニケーションワークブック 晃洋書房									
参考文献	必要に応じて紹介する。									
備考	【担当教員】網本 和、原 和彦、伊橋 光二、金谷 さとみ、大和田 宏美、坂上 尚穂、 小関 友記、伊藤 大亮、佐々木 広人、森永 雄、鈴木 裕治、荒牧 隼浩 1, 2, 4, 5, 6, 15回：PTOT別 3, 7～14回：PTOT合同 授業内で担当教員からフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

						科目ナンバリング				
						RPM01				
学修成果	1	2	3	4	5					
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力					
	●	●	●	●	●					
科目名	臨床実習Ⅰ（体験実習）				単位認定者	大和田宏美		評価の方法	実習内容	100 %
対象学科等 必修・選択 配当年次	P T	必修	1 年	開講時期	通年	単位数	1 単位			
						授業時間数	45 時間			
				授業形態	実習	授業回数	集中			
授業の概要	本科目では、実習施設において、実際の理学療法を体験することを目的とする。さらに、理学療法士の活動見学や理学療法体験を通し、対象者からの情報収集やコミュニケーションの取り方・接し方などの医療面接スキルを身につける。また、理学療法士の役割と位置づけ、他職種との連携などリハビリテーションチームとは何かを体験する。									
到達目標	1）対象者を尊重し、共感的態度をもって、良い人間関係を形成する。 2）職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員としての自覚をもった行動がとれる。 3）基本的理学療法の見学・体験を通して、自己の理学療法観を育成できる。									
学修者への期待等	はじめての臨床実習ですので、利用者と積極的にコミュニケーションを図ってください。 ・実習施設における規則・心得を守り、実習生として責任ある行動をとること ・実習記録の作成・提出は期限を厳守すること									
授業計画							準備学修			
1. 実習期間 【9月第1週～9月第4週のうち1週】 2. 実習計画 1) 学内での臨床実習オリエンテーションに参加する。 2) 実習施設でのオリエンテーションや理学療法士の治療業務および理学療法に関連する他部門等を見学する。 3) 実習施設においては、毎日、臨床実習記録を臨床実習指導者に提出して指導を受ける。 4) 学内教員から、臨床実習記録および実習生指導報告書をふまえた指導を受ける。 3. 成績評価 以下を成績評価項目とする。 なお、当該実習における欠席が、所定日数の5分の1を超えた場合は成績評価の対象から除外する。 成績評価項目 ・臨床実習記録（自己学修内容も含む） ※臨床実習指導者による実習生指導報告書の内容も踏まえて、総合的に判断する。							臨床実習前に、感染対策について正しい知識と予防方法を身につけてください。 また、医療人として、社会人としてふさわしいマナーやコミュニケーションスキルを身に付けてください。			
教科書	『PT症例レポート赤ペン添削 ビフォー&アフター』羊土社									
参考文献										
備考	『臨床実習の手引き』（配付資料） 【担当教員】網本 和、原 和彦、伊橋 光二、金谷 さとみ、大和田 宏美、坂上 尚穂、小関 友記、伊藤 大亮、佐々木 広人、森永 雄、鈴木 裕治、荒牧 隼浩									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

リハビリテーション学部
作業療法学専攻
1 年生

■ 専門科目シラバス

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ROMa01				
	●		●	●						
科目名	作業療法学概論				単位 認定者	齋藤 佑樹		評価の方法	試験（筆記）	100 %
対象学科等 必修・選択 配当年次	O T	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位			
						授業時間数	15 時間			
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	本科目では、医療・保健・福祉領域で広く求められる作業療法について、我が国および諸外国における作業療法の歴史的変遷や現状を概観しながら、その独自性と専門性について考えていく。また、さまざまな事例報告に触れる機会を通して、作業療法の知識と技術が臨床現場でどのように発揮されているのかを学ぶとともに、領域別の特色や、領域の枠にとらわれない作業療法の普遍性について理解を深めていく。									
到達目標	1. 作業療法とはなにかを説明することができる 2. 作業療法の普遍的な目的および手段の多様性について言語化することができる									
学修者への期待等	作業療法士になるための基盤となる学問です。積極的な参加態度を期待します。									
回	授業計画					準備学修				
1	作業療法の定義、倫理綱領、関連法規					講義の内容をノートにまとめること（30分程度）				
2	作業療法の歴史：ピネルの道徳療法、 アーツ&クラフツ運動、 プラグマティズム、 我が国の作業療法の歴史					講義の内容をノートにまとめること（30分程度）				
3	世界の作業療法の現状					講義の内容をノートにまとめること（30分程度）				
4	作業療法の領域と対象					講義の内容をノートにまとめること（30分程度）				
5	作業療法の実践過程（プロセス）					講義の内容をノートにまとめること（30分程度）				
6	作業療法を観る：あきらめていた病前の趣味を再開、 認知症者に対する社会資源の利用					講義の内容をノートにまとめること（30分程度）				
7	作業療法士と一緒に働く関連職種、多職種連携					講義の内容をノートにまとめること（30分程度）				
8	作業療法の普遍性（まとめ）					講義の内容をノートにまとめること（30分程度）				
教科書	東登志夫（監）：『シンプル作業療法シリーズ、作業療法学概論テキスト』、南江堂									
参考文献	適宜紹介します									
備考	科目専用のノートを準備してください。 ICT利活用教育（UNIPA上で資料提示、課題資料回収を行う）。回収した成果物は後日フィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ROMa02				
			●	●						
科目名	基礎作業学				単位認定者	齋藤 佑樹		評価の方法	試験（筆記）	100 %
対象学科等 必修・選択 配当年次	OT	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位			
						授業時間数	15 時間			
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	本科目では、作業や作業活動を治療的に用いる際に必要となる基礎的な知識を修得する。また、代表的な作業や作業活動の分析的視点および分析方法について学ぶ。加えて、作業を治療的に用いることができるよう、作業と心理機能、環境因子、個人因子との関係性についても学んでいく。									
到達目標	1. 作業がひとに与える影響を説明できる 2. 作業療法士が作業や作業活動をどのように治療に活用するのか説明できる 3. 基本的な作業の分析ができるようになる									
学修者への期待等	作業療法概論と並び、作業療法士になるうえでの基盤となる科目になります。作業は日常に当たり前の存在する人の経験を指す概念です。何気ない日常を改めて考察する機会がたくさんあります。主体的な参加を期待します。									
回	授業計画				準備学修					
1	作業の意味・形態・機能				教科書①のP4～7を読んでおくこと（概ね30分）					
2	ライフステージと作業、作業の文脈				前回の内容を復習し、教科書②のP28～31を読んでおくこと（概ね30分）					
3	作業バランス				前回の内容を復習し、教科書①のP8～9を読んでおくこと（概ね30分）					
4	作業的存在としての諸次元 （Doing Being Belonging Becoming）、 作業機能障害				前回までの内容を復習し、教科書①のP4～5を読んでおくこと（概ね30分）（概ね30分）					
5	作業を用いる意義（目的、手段、実在的）				前回の内容を復習し、教科書①のP12～13を読んでおくこと（概ね30分）					
6	包括的作業分析①：作業分析の視点				前回の内容を復習し、教科書②のP51～58を読んでおくこと（概ね30分）					
7	包括的作業分析②：作業分析を言語化する				前回の内容を復習しておくこと（概ね30分）					
8	作業のもつ力（まとめ）				前回までの内容を復習しておくこと（概ね30分）					
教科書	①『作業で語る事例報告 作業療法レジメの書き方・考え方 第2版』齋藤佑樹 編、医学書院 ②『標準作業療法学 専門分野 基礎作業学』医学書院									
参考文献	『「作業」ってなんだろう 作業科学入門』医歯薬出版株式会社									
備考	ICT利活用教育（UNIPA上で資料提示、課題資料回収を行う）。回収した成果物は後日フィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReMa01				
	●	●	●	●						
科目名	トランスレーショナルセミナーⅠ				単位 認定者	外里 富佐江		評価 の方法	授業内課題 (レポート等)	100 %
対象学科等 必修・選択 配当年次	OT	必修	1年	開講時期	通年	単位数	1 単位			
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	トランスレーショナルセミナーⅠ～トランスレーショナルセミナーⅣは、主体的・能動的な学修能力を形成しながら学びの充実度を高め、大学生活において重要な、学生間・学年間のつながりを築くための科目である。 トランスレーショナルセミナーⅠでは、大学で学ぶために必要なアカデミックリテラシー（講義の受け方、各種レポートの作成方法など）と、作業療法を知ることと重点を置く。また、グループワークなどを通じて、作業療法に関する様々なテーマについて学修する。									
到達目標	1. 大学生活を有意義に送るための基本的な知識やスキルを身につける 2. 作業療法を知り、大学での学びを充実したものとするための契機とする									
学修者への期待等	大学生活を有意義に送るために設定した科目である。自己の目標を叶えるために、積極的に学ぶことを期待する。さらに多くの仲間をつくり、いろいろな考えに触れてほしい。									
回	授業計画					準備学修				
1	【1～2年生合同】作業療法を学ぶ意義					作業療法とは何かについて考えてくる（30分程度）				
2	【1～2年生合同】作業療法を学ぶということ ディスカッション									
3	大学の教育方針 3つのポリシーについて					学生便覧とシラバスを読んでカリキュラムを確認してくる（30分程度）				
4	カリキュラムについて 作業療法士になるには									
5	グループワーク①自己紹介 作業療法とは					授業内容をノートにまとめる。（復習30分程度）				
6	グループワーク②作業療法士の活躍の場									
7	【2専攻1年生合同】理学療法士と作業療法士 （仕事内容の比較、共通点、特徴等）									
8	大学生活での学び①社会生活、大学生活のルール									
9	大学生活での学び②講義の受け方									
10	大学生活での学び③学習計画の立て方、自己管理能力									
11	大学生活での学び④情報リテラシー									
12	大学生活での学び⑤文献検索の仕方、図書室の利用法									
13	大学生活での学び⑥心の相談室									
14	大学生活での学び⑦ハラスメント									
15	大学生活での学び⑧先輩から学ぶ大学生活									
教科書	『「わたし」を伝えるコミュニケーションワークブック』 湯口 恭子 晃洋書房									
参考文献	宮沢賢治の童話でまなぶココロの寄り添い方 外里 富佐江著 CBR出版									
備考	【担当教員】外里 富佐江、齋藤 佑樹、須藤 あゆみ、戸田 祐子、熊谷 竜太、高橋 慧 2～6, 15回：PTOT別 1, 7～14回：PTOT合同 課題のフィードバックは授業内で行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ROMe01				
	●	●	●	●	●					
科目名	臨床実習Ⅰ（体験実習）				単位 認定者	外里 富佐江		評価 の方法	実習内容	100 %
対象学科等 必修・選択 配当年次	OT	必修	1年	開講時期	通年	単位数	2単位			
						授業時間数	90時間			
					授業形態	実習	授業回数		集中	
授業の概要	実習施設において実際の作業療法を見聞、体験することで作業療法に対する認識を高めることを目的とする。体験実習を通して作業療法士になるための自覚を持つとともに、作業療法士の活動見学や作業療法体験を通し、対象者からの情報収集やコミュニケーションの取り方・接し方など作業療法士に必要な基本的資質を身につける。 また、臨床現場における作業療法士の役割と位置づけ、他職種との連携など、リハビリテーションチームとは何かを学修する。									
到達目標	1. 臨床実習施設の役割と機能を理解する 2. 実際の作業療法場面を見学し、作業療法の業務内容を理解する 3. 見学・体験した内容をまとめ、表現する能力を養う 4. 作業療法士の適性はどのようなものかを見学を通して認識し、今後の学修に対する動機付けとする									
学修者への 期待等	臨床実習にあたっての意義や目的は実習の手引き書の他に臨床実習ガイダンスや各授業においても示す。臨床実習ではこれまで学修した知識及び技術を総動員して主体的に臨むこと。また、記録の作成、提出期限の厳守や施設における規則・心得を守り、実習生として責任ある行動を取ること。									
授業計画						準備学修				
1. 実習期間 【9月22日（月）～10月3日（金）】 2. 実習計画 1) 学内での臨床実習オリエンテーションに参加する。 2) 実習施設でのオリエンテーションや作業療法士の治療業務および理学療法に関連する他部門等を見学する。 3) 実習施設においては、毎日、臨床実習記録を臨床実習指導者に提出して指導を受ける。 4) 学内教員から、臨床実習記録および実習生指導報告書をふまえた指導を受ける。 3. 成績評価 以下を成績評価項目とする。 なお、当該実習における欠席が、所定日数の5分の1を超えた場合は成績評価の対象から除外する。 成績評価項目 ・臨床実習記録（自己学修内容も含む） ※臨床実習指導者による実習生指導報告書の内容も踏まえて、総合的に判断する。						ガイダンス及びセミナーに参加すること。				
教科書	適時、資料を配付する。									
参考文献	随時紹介する									
備考	【担当教員】外里 富佐江、齋藤 佑樹、須藤 あゆみ、戸田 祐子、熊谷 竜太、高橋 慧									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1 人間基盤力	2 連携協働力	3 専門実践力	4 学術探究力	5 課題解決力	科目ナンバリング ROMf01				
	●		●		●					
科目名	地域生活支援論				単位 認定者	外里富佐江 戸田祐子		評価 の方法	試験 (レポート)	50 %
対象学科等 必修・選択 配当年次	O T	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題 (レポート等)	50 %
						授業時間数	15 時間			
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	地域で作業療法を実践していくため、基礎となる身近な地域について理解を深める。車椅子利用者等の具体的な生活をイメージし、住み慣れた地域で安全に生活するためには何が必要であるのかを検討する。また、出身地域の現在の社会資源について調べ、リハビリテーションサービスが必要な対象者の生活について考える。									
到達目標	地域の人々の生活、環境、社会資源など、地域の特性を捉え説明できる。障害者（児）・高齢者の住みよい環境について学び、不自由を軽減するために、自らできることについて考え、説明できる。									
学修者への 期待等	授業ではグループ学修やディスカッションを行います。他者の意見を聞く耳と、相手に届く言葉を選択し、意見を伝えることができるよう、柔軟な思考をもって授業に臨むこと。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	「地域」とは何か 身近な地域（仙台市）を調べる (地域における障害者（障害児を含む）・高齢者に目を向ける)					「地域」について学修した内容を復習すること（約30分)			外里 富佐江	
2	学生の出身地と仙台市の地域の違いを学ぶ（歴史・地理・地域資源サービスなど)					地域について制度的な内容も含めてまとめる。事後の課題をしっかりと行うこと。（約60分)			戸田 祐子 高橋 慧	
3	地域作業療法学における連携と協働について OTと連携する多職種の業種について調べる					地域作業療法を展開するうえで連携・協業が必要な職種とその役割について調べるための資料やPCを準備しておくこと。事後学修でまとめておくこと（約30分)			戸田 祐子 高橋 慧	
4	ノーマライゼーションとは (バリアフリー、ユニバーサルデザイン、車椅子利用者の移動)					学修した内容を復習すること（約30分)			戸田 祐子 高橋 慧	
5	車椅子の構造、操作及び介助方法を学ぶ					学修した内容を復習すること（約30分)			戸田 祐子 高橋 慧	
6	車椅子利用者の視点から地域（公共施設・商業施設）の社会資源を知る					学修した内容を復習すること（約60分)			戸田 祐子 高橋 慧	
7	地域（学生の出身地と仙台市）の違いを踏まえた生活支援について検討する					ディスカッションするための準備をして授業に臨むこと（約60分)			戸田 祐子 高橋 慧	
8	社会資源の利用、社会的環境整備への働きかけについて学ぶ					学修した内容を復習すること（約60分)			戸田 祐子 高橋 慧	
教科書	『標準作業療法学 専門分野 地域作業療法学』医学書院									
参考文献	随時、授業の中で紹介する。									
備考	ニュースや新聞などの社会情報に目を通して、障害者制度、老人介護保険制度などの情報の更新に務めること。課題のフィードバックは授業内で行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

リハビリテーション学部 2 年生

■ 年間予定表

■ 理学療法学専攻

作業療法学専攻

共通科目シラバス

2025年度 リハビリテーション学部 2年生 年間予定表

前期

	日		月		火		水		木		金		土	
4月	30		31	—	1	—	2	—	3	入学式	4	—	5	
	6		7	オリテ/①	8	①	9	①	10	健康診断	11	①	12	
	13		14	②	15	②	16	②	17	①	18	②	19	
	20		21	③	22	③	23	③	24	②	25	③	26	
	27		28	③	29	昭和の日	30	④	1	③	2	④	3	憲法記念日
5月	4	みどりの日	5	こどもの日	6	振替休日	7	⑤	8	④	9	⑤	10	
	11		12	④	13	④	14	⑥	15	⑤	16	⑥	17	
	18		19	⑤	20	⑤	21	⑦	22	⑥	23	⑦	24	
	25		26	⑥	27	⑥	28	⑧	29	⑦	30	⑧	31	
6月	1		2	⑦	3	⑦	4	⑨	5	⑧	6	⑨	7	
	8		9	⑧	10	⑧	11	⑩	12	⑨	13	⑩	14	
	15		16	⑨	17	⑨	18	⑪	19	⑩	20	⑪	21	
	22		23	⑩	24	⑩	25	⑫	26	⑪	27	⑫	28	
7月	29		30	⑪	1	⑪	2	⑬	3	⑫	4	⑬	5	
	6		7	⑫⑬	8	⑫	9	⑭	10	⑬	11	⑭	12	
	13		14	⑭⑮	15	⑬	16	⑮	17	⑭	18	⑮	19	
	20		21	海の日	22	⑭⑮	23	月⑭	24	⑮	25		26	
	27		28		29		30		31		1		2	
8月	3		4	定期試験	5	定期試験	6	定期試験	7	定期試験	8	定期試験	9	
	10		11	山の日	12		13		14		15		16	
	17		18	追試験	19	追試験	20		21		22		23	
	24		25		26	結果発表	27	(補講)	28	(補講)	29	(補講)	30	
9月	30		1	再試験	2	再試験	3	再試験	4	再試験	5	再試験	6	
	7		8		9		10		11		12		13	
	14		15	敬老の日	16		17		18		19		20	
	21		22		23	秋分の日	24		25		26		27	
	28		29		30			—		—		—		

2025年度 リハビリテーション学部 2年生 年間予定表

後期

	日	月	火	水	木	金	土
10月		—	—	1	2	3	4
	5	6 オリテ/①	7 ①	8 ①	9 ①	10 ①	11
	12	13 スポーツの日	14 ②	15 ②	16 ②	17 ②	18
	19	20 ②	21 ③	22 ③	23 ③	24 ③/せいや祭準備	25 せいや祭
	26	27 ③	28 ④	29 ④	30 ④	31 ④	1
11月	2	3 文化の日	4 ⑤	5 ⑤	6 ⑤	7 ⑤	8
	9	10 ④	11 ⑥	12 ⑥	13 ⑥	14 ⑥	15
	16	17 ⑤	18 ⑦	19 ⑦	20 ⑦	21 ⑦	22
	23 勤労感謝の日	24 振替休日	25 ⑧	26 ⑧	27 ⑧	28 ⑧	29
12月	30	1 ⑥	2 ⑨	3 ⑨	4 ⑨	5 ⑨	6
	7	8 ⑦	9 ⑩	10 ⑩	11 ⑩	12 ⑩	13
	14	15 ⑧	16 ⑪	17 ⑪	18 ⑪	19 ⑪	20
	21	22 ⑩⑪	23 ⑫	24 ⑫	25 ⑫	26 ⑫	27
	28	29 —	30 —	31 —	1 元旦	2 —	3
1月	4	5 ⑫⑬	6 ⑬	7 ⑬	8 ⑬	9 ⑬	10
	11	12 成人の日	13 ⑭	14 ⑭	15 ⑭	16 ⑭	17
	18	19 ⑭⑮	20 ⑮	21 ⑮	22 ⑮	23 ⑮	24
	25	26	27	28	29	30	31
2月	1	2 定期試験	3 定期試験	4 定期試験	5 定期試験	6 定期試験	7
	8	9 追試験	10 追試験	11 建国記念の日	12	13	14
	15	16 結果発表	17	18	19 再試験	20 再試験	21
	22	23 天皇誕生日	24 再試験	25 再試験	26	27	28
3月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17 卒業式	18	19	20 春分の日	21
	22	23	24	25	26	27	28
	30	30	31				

						科目ナンバリング				
						ReLa07				
学修成果	1 人間基盤力	2 連携協働力	3 専門実践力	4 学術探究力	5 課題解決力					
	●			●						
科目名	ICT活用技術				単位 認定者	菅原 文彦		評価 の方法	授業内課題等	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	PT	選択	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
	OT	選択	2年			授業時間数	30 時間			
					授業形態	演習	授業回数		15 回	
授業の概要	情報通信技術（ICT）の発展により、将来、医療従事者となる学生にとって、ICTを活用する基礎的能力を身につけていることが重要となる。 ICT活用技術では、ICTの特徴的な内容について理解を深め、医療福祉分野においてもICTの進化に対応し、活用できる技術を、具体的な事例を通して学修する。さらに、ICTを活用したグループワーク等を行い、ICT活用技術の修得を目指す。									
到達目標	1. コンピュータやネットワークに関する基礎的な用語の説明が出来る。 2. 医療機関における個人情報保護のための対策・対応がとれる。 3. 情報セキュリティにまつわる危険を回避できる。 4. 医療機関で利用する情報システムの意義や役割について説明できる。 5. ICTの医療福祉分野への活用について自分の言葉で説明ができる。									
学修者への期待等	1. 電子カルテを中心とした病院情報システムの操作と理解 2. 医療データの記録、活用、分析、および情報セキュリティの基本的な考え方 3. ICTの基礎的能力の修得と、患者ケアに関する情報やエビデンスの検索・収集・整理・分析能力の向上									
回	授業計画					準備学修				
1	授業ガイダンス 医療福祉分野におけるICT活用とは					講義内容の復習（概ね30分）				
2	コンピュータの基礎 （ハードウェアとソフトウェア）									
3	ネットワークの基礎									
4	情報倫理（個人情報の取り扱い）					教科書の該当ページを予習・復習すること。該当ページは前回授業時に指示する（概ね30分）				
5	情報セキュリティ（セキュリティ技術）									
6	情報セキュリティ（マルウェアによる被害と対策）									
7	日本の情報化政策と医療福祉分野のICT化の状況 （電子化・標準化の意義）									
8	医療情報システム（病院情報システム）									
9	医療情報システム（電子カルテ）									
10	医療情報システム（健康診断システム）									
11	医療情報システムと安全管理									
12	グループワーク（アイデア出し） 「理想の医療情報システムとは」					「理想の医療システムとは」についてアイデアソンを行います。 課題に対してアイデア出しを行いグループでプレゼン資料を作成して発表する				
13	グループワーク（プレゼンテーション準備） 「理想の医療情報システムとは」									
14	グループワーク（プレゼンテーション） 「理想の医療情報システムとは」									
15	医療福祉分野におけるICT技術の展望									
教科書	『医療情報システム入門2023』 一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会 JAHIS（編集）									
参考文献	進行に応じてプリントを配付することもある。									
備考	PT・OT合同授業 提出物は指示した作成ファイルをデータ形式で提出する。課題については授業内・UNIPAでフィードバックを行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLb04				
	●			●						
科目名	教育心理学				単位認定者	真 覚 健		評価の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内 課題等	20 %
	O T	必修	2 年			授業時間数	15 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	人間は、成人するまでに受ける教育から大きな影響を受ける。乳児期から青年期までの成長過程における心や知能の発達、人格形成等を、教育学的観点から考察する。 人間の発達に関する基礎的な知識を身につけ、記憶・動機づけ等の学習について学ぶ。また、個人の行動傾向を指す総合的な概念であるパーソナリティについても学修する。教育過程における様々な現象を心理学的に明らかなものとし、効果的な教育方法の検討をする。									
到達目標	1：心身の発達過程と特徴について説明できる。 2：学習にかかわる要因について説明できる。 3：パーソナリティについて説明できる。 4：教育における測定と評価について説明できる									
学修者への期待等	資料をあらかじめ配付するので事前に熟読すること。 これまでの学校教育での経験，日常生活で経験する事象と結びつけて理解するよう期待します。									
回	授業計画				準備学修					
1	教育心理学とは				教育心理学の対象について調べておくこと（1時間程度）					
2	発達の理解（遺伝と環境，発達と教育）				発達における遺伝説と環境説について調べておくこと（1時間程度）					
3	発達の諸相				幼児期・児童期・思春期の発達の特徴について調べておくこと（1時間程度）					
4	学習と記憶				1年次の「心理学」での「学習・記憶」の内容について復習しておくこと（1時間程度）					
5	学習指導法				アクティブラーニングについて調べておくこと（1時間程度）					
6	学習と動機づけ				内発的動機づけについて調べておくこと（1時間程度）					
7	パーソナリティの形成				適性処遇交互作用（ATI）について調べておくこと（1時間程度）					
8	測定と評価				診断的評価・形成的評価・総括的評価について調べておくこと（1時間程度）					
教科書	資料を配付する。									
参考文献										
備考	PT・OT合同授業 毎回レスポンスシートへの回答を求め、次回の授業でフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLc04				
	●			●						
科目名	教育学概論				単位 認定者	神山 真由		評価の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	後期 <th>単位数</th> <td>2 単位</td> <td>授業内課題等</td> <td>15 %</td>	単位数	2 単位		授業内課題等	15 %
	O T	必修	2年			授業時間数	30 時間		受講態度	15 %
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	教育に関する基本的な理念・思考、教育方法を学び、人の成長過程における教育の重要性を理解する。自身への教育として、成人学習理論、生涯学習等の基本的な知識を学修し、他者への教育として人材育成を軸に、教育計画(目標)の設定方法や教育活動(内容)を学修する。この科目は自身の教育経験も踏まえて、教育とは何かを改めて考える機会とする。									
到達目標	1. 教育という営みやその基本概念について、自分自身の経験も踏まえながら理解する。 2. 生涯学習の理念を理解し、今後の自分自身の教育のあり方を考えることができる。									
学修者への期待等	個人ワーク、グループワークを行います。積極的に参加してください。									
回	授業計画					準備学修				
1	教育とは何か?					(復習)第1回資料を確認し、学習内容を整理し、コメントシートを作成する(30分程度)				
2	子ども・家庭・社会と教育					(復習)第2回資料を確認し、学習内容を整理し、コメントシートを作成する(30分程度)				
3	学校と教育					(復習)第3回資料を確認し、学習内容を整理し、コメントシートを作成する(30分程度)				
4	教育思想史					(復習)第4回資料を確認し、学習内容を整理し、コメントシートを作成する(30分程度)				
5	人間の発達と教育					(復習)第5回資料を確認し、学習内容を整理し、コメントシートを作成する(30分程度)				
6	生涯学習の理念					(復習)第6回資料を確認し、学習内容を整理し、コメントシートを作成する(30分程度)				
7	生涯学習の場・実践					(復習)第7回資料を確認し、学習内容を整理し、コメントシートを作成する(30分程度)				
8	教育方法の基本原理					(復習)第8回資料を確認し、学習内容を整理し、コメントシートを作成する(30分程度)				
9	教育方法ーカリキュラム論ー					(復習)第9回資料を確認し、学習内容を整理し、コメントシートを作成する(30分程度)				
10	教育方法の実践					(復習)第10回資料を確認し、学習内容を整理し、コメントシートを作成する(30分程度)				
11	教育評価の基本原理					(復習)第11回資料を確認し、学習内容を整理し、コメントシートを作成する(30分程度)				
12	教育評価の実践					(復習)第12回資料を確認し、学習内容を整理し、コメントシートを作成する(30分程度)				
13	教育指導の理念					(復習)第13回資料を確認し、学習内容を整理し、コメントシートを作成する(30分程度)				
14	教育指導の実践					(復習)第14回資料を確認し、学習内容を整理し、コメントシートを作成する(30分程度)				
15	講義のまとめと確認					(復習)第15回資料を確認し、学習内容を整理し、コメントシートを作成する(30分程度)				
教科書	特に指定しません。									
参考文献	適宜提示します。									
備考	PT・OT合同授業。課題については授業内でフィードバックを行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLd03				
	●				●					
科目名	自然環境と災害				単位認定者	江川 新一		評価の方法	試験(筆記)	40 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		事前課題	30 %
	O T	必修	2年			授業時間数	15 時間		受講態度	30 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	自然環境と災害は、深く関係している。産業の発展に伴う地球温暖化は、気候変動を起こし、災害となつて新たな問題を引き起こす。 この科目では、環境問題と自然災害の関連性を学び、過去の歴史から、土砂災害、水害（洪水・浸水）、震災（地震・津波）、火山災害等の自然災害を学修する。災害発生のメカニズムや防災対策、災害時の生命の維持を学び、災害時に対応するための知識を身につける。また、自然エネルギーの現状や今後について理解を深める。									
到達目標	さまざまなハザードにより起きる災害において、災害リスクと、その低減（＝防災）について述べるができる。わが国をとりまく自然環境との共生についてアイディアを述べるができる。									
学修者への期待等	災害リスク低減の一翼を担える保健医療人材として防災に関わり続けてほしい。とくに、リハビリテーションや看護を必要とする人々の個別防災計画立案や災害ケースマネジメントに関わるができるように地域と連携しながら活動できる人材になってほしい。									
回	授業計画				準備学修					
1	災害医学の基礎知識				教科書35章を読んでくること。（30分程度） 授業終了時に概要レポートを提出すること。					
2	東日本大震災とは何だったのか？				学籍番号下1桁と同じ下1桁の章（xx7番なら17章、27章、37章、47章のいずれか）から感じたことをスライド1枚で提出。（1時間程度）					
3	避難所運営ゲーム(HUG)（参加型カード演習）				避難所のあり方について予習してくること。（30分程度）					
4	気候変動				気候変動による災害について各自1枚のスライドを作成してくること。（1時間程度）					
5	災害リスクと仙台防災枠組				思いつくハザード1つについて、ハザードと曝露、脆弱性、対応能力の関係について1枚のスライドを作成してくること。（1時間程度）					
6	Psychological First Aid（ロールプレイ）				災害におけるメンタルヘルスの問題について予習してくること。（30分程度）					
7	災害と向き合ってきた歴史と伝承				さまざまな災害をどう伝承するか、思いつく好事例について1枚のスライドを作成してくること。（1時間程度）					
8	学修成果発表会				保健医療従事者として災害にどのように対応し、事前に防災への貢献ができるかをスライド5枚以内でまとめてくること。（1時間程度）					
教科書	『東日本大震災からのスタート ―災害を考える51のアプローチ』東北大学災害科学国際研究所編 大学出版部協会									
参考文献	サイコロジカル・ファーストエイド：PFA(https://www.mhlw.go.jp/content/000805675.pdf) 未来へつなごう私たちのBOSAI 2020(https://sendai-resilience.jp/media/pdf/bosai2020.pdf)									
備考	提出したスライドはいくつか授業中に匿名で提示し、Slideなどを用いた匿名性の双方向性議論の対象にします。また、個別にもフィードバックします。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLd04				
	●			●						
科目名	統計学入門				単位 認定者	森坂 太一		評価 の方法	試験(筆記)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題等	50 %
	O T	必修	2 年			授業時間数	15 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	統計学の入門として、情報化社会の中で公表されている数字・データを正しく読み解き、理解する基礎的知識を身につける。統計学を学ぶ上で必要な、分布、分散、標準偏差、確率等を利用して、身近な数字・データを基に統計の基礎を学ぶ。									
到達目標	1. 統計学の基本的な知識（量的データの特徴、代表値、ばらつきの指標、推測統計の基礎）がわかる 2. 医学文献等を読むにあたり、統計学的見地から批判的吟味を行うことができる 3. 実際のデータから、代表値やばらつきの指標など、簡単な分析ができる									
学修者への 期待等	統計学は今後の生活・仕事を進める上で大変有用な学問です。一方で数学理論は初学者にとっては簡単ではないので、学習を始める際の障壁になるかと思います。そこでこの授業では具体的な例を中心に説明しつつ、Excel等を用いて手を動かしながら理解をしていただきたいと思います。一緒に頑張りましょう。									
回	授業計画					準備学修				
1	イントロダクション：統計学の概要					講義資料を見直し、内容を整理する。(30分程度)				
2	統計データの基礎					講義資料を見直し、内容を整理する。(30分程度)				
3	データの記述（1）：度数分布・ヒストグラム					講義資料を見直し、内容を整理する。(30分程度)				
4	データの記述（2）：代表値の種類と特性					講義資料を見直し、内容を整理する。(30分程度)				
5	データの記述（3）：ばらつきの指標					講義資料を見直し、内容を整理する。(30分程度)				
6	推測統計学の基礎					講義資料を見直し、内容を整理する。(30分程度)				
7	統計データの活用：論文における統計の解釈					講義資料を見直し、内容を整理する。(30分程度)				
8	まとめ：授業内容の総括					講義資料を見直し、内容を整理する。(30分程度)				
教科書	なし、資料を配付する									
参考文献	『統計学入門』、東京大学教養学部統計学教室編、東京大学出版会									
備考	PT・OT合同授業。 本授業では課題として、毎回授業で学習した内容に関する演習問題を課します。解説については次の回で行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReLd06				
	●									
科目名	健康スポーツⅡ				単位 認定者	菅原 一昭		評価 の方法	試験(実技)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	選択	2 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	30 %
	O T	選択	2 年			授業時間数	30 時間			
					授業形態	実技	授業回数		15 回	
授業の概要	健康であることは、生活の質を上げるために不可欠な要素である。さらに、健康の維持・増進には、生涯にわたって運動（スポーツ）を生活に取り入れることが重要である。 健康スポーツⅡでは、実技を通して健康増進や体力増進等を行う知識と方法を学ぶ。また、実際に体験することにより、運動（スポーツ）の意義・目的を理解し、教育者・指導者としての能力の向上を目指す。									
到達目標	日常の生活の中で、「運動」や「スポーツ」を習慣化することで、生涯にわたって健康の維持・増進に繋げて継続していくことの大切さを理解すること。									
学修者への期待等	チームの一員としてチームプレーを心掛けると共に、ルールを守ることの大切さを理解し、公正なプレーを心掛けること。実技の上手い、下手での評価ではなく、個々の取り組み姿勢、審判・準備・片付け等を積極的に行うことを評価対象とする。									
回	授業計画					準備学修				
1	体育館での授業についての説明。アンケート					【事前】 競技種目の歴史やルールを事前に調べておく。 常日頃からウォーキング、ジョギング、ストレッチを心掛け、運動不足や怪我防止に努める。（各回30分程度） 【事後】 体育館での実技後、体調管理に気をつける。 翌日の疲労を和らげるために、帰宅後のストレッチや入浴等のアフターケアを実施する。（各回30分程度）				
2	体育館 準備運動（ペアストレッチⅠ）									
3	①ドッジビー ②ソフトバレーボール									
4	体育館 準備運動（ペアストレッチⅡ）									
5	①タスポニーバレー ②インディアカ									
6	体育館 準備運動（ペアボールランニング）									
7	①ユニホック ②バドミントン									
8	体育館 準備運動（スポーツ競技ストレッチ）									
9	①ゴールボール（視覚体験） ②シッティングバレーボール（障害者スポーツ体験）									
10	体育館 準備運動（ランニングドリル）									
11	①卓球 ②バレーボール									
12	体育館 準備運動									
13	①ポッチャ ②フットサル									
14	体育館 準備運動（各自）									
15	①実技試験（ハンマー投げ） ②バスケットボール									
教科書	なし。									
参考文献	授業時に資料を配付する。									
備考	・第1回目に出席しないとバスの乗車時間・場所等が分からなくなりますので必ず出席すること。 ・第2回目以降は体育館にて実施。（上下運動着、上靴持参、タオル持参）。 ・土足厳禁。バス内での飲食禁止。事前に着替えてくること。 ・授業内課題は適宜フィードバックする。・PT・OT合同授業。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 人間基盤力	2 連携協働力	3 専門実践力	4 学術探究力	5 課題解決力	科目ナンバリング ReFa06				
			●							
科目名	生理学Ⅱ				単位 認定者	鈴木 裕一		評価 の方法	試験（筆記）	33 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2 年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内課題 （小テスト）	67 %
	O T	必修	2 年			授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	生理学Ⅱでは、主に植物性機能について学ぶ。本科目では、循環器系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖 器系、内分泌系の各器官の機能について学修する。人体を構成するそれぞれの臓器がどのようにつながり、どの ような機能を担っているのかを系統的に学ぶことにより、人体の生理機能の全体像を理解するために必要な基礎 的な知識を身につける。									
到達目標	1. 人体を構成する各要素（細胞 - 組織 - 器官）に分解してその個々の機能を理解し、それら要素間の相互関係 や統合関係を説明できる。 2. 人体の循環器、呼吸器、消化器、腎臓、内分泌、血液の形態及び生理機能並びに体液・体温の調節、栄養と 代謝を理解し、人体の生命現象の恒常性（ホメオスタシス）と運動・活動時の適応（運動生理）について構造 （形態）機能を説明できる。									
学修者への 期待等	臨床医学（内科学など）を理解するのに必要な科目であることを頭に入れて取り組むこと。									
回	授業計画					準備学修				
1	血液の組成と機能：止血機構					講義資料について復習し、小テスト(1)を合格するための 準備をすること（概ね30分）。教科書の該当ページに ついて予習すること（概ね20分）				
2	内分泌系（1）：内分泌系とホルモンの機能									
3	内分泌系（2）：主な内分泌腺									
4	循環器系（1）：心臓									
5	循環器系（2）：血管とリンパ管									
6	呼吸器系（1）：機能解剖					講義資料について復習し、小テスト(2)を合格するための 準備をすること（概ね30分）。教科書の該当ページに ついて予習すること（概ね20分）				
7	呼吸器系（2）：呼吸生理学									
8	消化器系と代謝（1）：消化器系の構造									
9	消化器系と代謝（2）：口腔・咽頭・食道のはたらき									
10	消化器系と代謝（3）：胃・小腸・大腸のはたらき									
11	消化器系と代謝（4）：栄養と代謝；体温調節					講義資料について復習し、試験を合格するための準備を すること（概ね30分）。教科書の該当ページについて予 習すること（概ね20分）				
12	泌尿器系（1）：腎臓・尿管・膀胱・尿道									
13	泌尿器系（2）：水・電解質と酸塩基平衡									
14	生殖器系（1）：男性生殖器									
15	生殖器系（2）：女性生殖器；妊娠と胚の発育									
教科書	「人体の構造と機能」 エレイン・マリーブ著 医学書院									
参考文献										
備考	PT・OT合同授業。課題については適宜フィードバックを行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFa07				
			●							
科目名	生理学実習				単位認定者	鈴木 裕一		評価の方法	授業内課題 （レポート等）	55 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2 年	開講時期	通年	単位数	1 単位		試験（筆記）	45 %
	O T	必修	2 年			授業時間数	40 時間			
				授業形態	実習	授業回数	20 回			
授業の概要	本科目では、生理学Ⅰ・生理学Ⅱで学修した内容について、実際の測定・実験を通し、身体各機能についてさらに理解を深め、その生理学的メカニズムについて学修する。主に反射、筋電図、感覚検査、体組成計測、血圧測定、心電図、肺機能測定、尿組成、神経伝導速度、重心動揺計による測定などを実施する。									
到達目標	①生理学実習の意義を説明でき、計測機器の取扱いができるようになる。 ②腱反射を誘発、体験し、神経の興奮発生と伝導、脊髄反射の機構について説明できるようになる。 ③誘発筋電図を観察し、筋収縮の仕組みとM波、H波の発生する機構について説明できるようになる。 ④体性感覚と特殊感覚の特徴について説明できるようになる。 ⑤身体組成を計測し、筋量と筋力の関係を説明できるようになる。 ⑥脳活動と運動、感覚の関係を説明できるようになる。 ⑦血圧測定が実施でき、血圧と循環調節について説明できるようになる。 ⑧心電図の計測方法と意義と、異常波形を説明できるようになる。 ⑨呼吸機能の測定が実施でき、呼吸機能と調節について説明できるようになる。 ⑩最大酸素摂取量計測の意義と運動負荷について説明できるようになる。									
学修者への期待等	理学療法・作業療法を学ぶのに、また将来現場で力をつけていくための基礎となる知識を得ることを目的としているので、自分自身が直接参加して知識を得るように努力してほしい。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	細胞、顕微鏡観察				細胞に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）			鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮 荒牧 隼浩		
2	骨と骨髄、関節				骨と関節に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）			鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮 荒牧 隼浩		
3	血液、細胞膜と物質透過				血液、及び細胞膜に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）			鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮 荒牧 隼浩		
4	筋系、表面筋電図				骨格筋に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）			鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮 荒牧 隼浩		
5	神経系①運動神経伝導速度				神経に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）			鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮 荒牧 隼浩		
6	神経系②腱反射（伸張反射）、脳波				伸張反射、及び脳波に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）			鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮 荒牧 隼浩		
7	体性感覚①触覚				触覚に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）			鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮 荒牧 隼浩		
8	体性感覚②温冷覚、順応				温・冷覚に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）			鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮 荒牧 隼浩		

回	授業計画	準備学修	担当
9	特殊感覚①視覚	視覚に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮 荒牧 隼浩
10	特殊感覚②聴覚と平衡覚	聴覚と平衡覚に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮 荒牧 隼浩
11	身体組成、筋肉量と筋力、体温	身体組成、筋力、体温等に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮 荒牧 隼浩
12	循環器①脈拍、血圧、静脈	血液循環に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮 荒牧 隼浩
13	循環器②心音、心電図	心臓に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮 荒牧 隼浩
14	運動生理学①エネルギー代謝（呼気ガス分析）	運動とエネルギー代謝に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮 荒牧 隼浩
15	運動生理学②循環機能の調節	運動と循環機能に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮 荒牧 隼浩
16	消化器系①口腔機能（咀嚼と嚥下）	口腔機能に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮 荒牧 隼浩
17	消化器系②感覚（味覚・嗅覚）	味覚・嗅覚に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮 荒牧 隼浩
18	呼吸器系、呼吸機能（スパイロメトリ）	呼吸に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮 荒牧 隼浩
19	内分泌系、血糖値測定	内分泌に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	鈴木 裕一 坂上 尚穂 伊藤 大亮 荒牧 隼浩
20	泌尿器系、生殖器系、尿組成測定	泌尿器系・生殖器系に関する生理学の講義内容を復習してくる（概	鈴木 裕一 坂上 尚穂
教科書	『人体の構造と機能』エレイN. マリーブ著 医学書院		
参考文献			
備考	1 学年を 2 クラスに分けて実施する。課題については適宜フィードバックを行います。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFa011				
			●							
科目名	運動学実習				単位認定者	原 和彦・森永 雄		評価の方法	試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題（発表）	20 %
	O T	必修	2 年			授業時間数	45 時間			
					授業形態	実習	授業回数		20 回	
授業の概要	本科目では、複数の測定機器を用い実習体験を通して、運動学において学修した知識を応用する。主に、姿勢、重心、歩行周期、歩行距離の測定や歩行時の筋活動やエネルギー消費などについて測定し、各実験から得られた生体情報を分析・解釈することで、身体運動や基本姿勢・動作のメカニズムを学修する。									
到達目標	1. 運動学において学修した知識を応用し、筋力・重力、身体とてこ・モーメント・骨関節運動についてそのメカニズムを理解する。 2. 測定機器を用いて、姿勢と筋活動について計測、筋力測定を実施し、分析・解釈できる。 3. 測定機器を用いて、姿勢バランスを計測、動作解析を実施し、分析・解釈できる。 4. 測定機器を用いて、歩行および歩行時の筋活動を計測し、分析・解釈できる。									
学修者への期待等	・この科目の学修には1年次に学んだ「運動学総論」の復習が効果的です。 ・実習では、身体運動や基本姿勢動作を計測対象とするため、動きやすい服装で参加してください。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	運動学実習の概要、生体力学の実習①（筋力、重力など）					基礎運動学p19-46を予習し、講義内容への理解を深めること（30分程度）			原 和彦 森永 雄	
2	生体力学の実習②（身体とてこ、モーメント、骨関節運動）					基礎運動学p82-88、p125-138を予習し、講義内容への理解を深めること（30分程度）			原 和彦 森永 雄	
3	実習1（姿勢と筋活動：計測）					全体発表とレポートの準備・作成を行うこと（60分程度）			原 和彦 森永 雄	
4	実習1（姿勢と筋活動：グループワーク）								原 和彦 森永 雄	
5	発表1（姿勢と筋活動）								原 和彦 森永 雄	
6	実習2（筋力測定－測定肢位・測定部位の違い：計測）								原 和彦 森永 雄	
7	実習2（筋力測定－測定肢位・測定部位の違い：グループワーク）								原 和彦 森永 雄	
8	発表2（筋力測定）								原 和彦 森永 雄	
9	実習3（姿勢バランス：計測）								原 和彦 森永 雄	
10	実習3（姿勢バランス：グループワーク）								原 和彦 森永 雄	
11	発表3（姿勢バランス）								原 和彦 森永 雄	
12	実習4（動作解析：計測）								原 和彦 森永 雄	
13	実習4（動作解析：グループワーク）								原 和彦 森永 雄	
14	発表4（動作解析）								原 和彦 森永 雄	
15	実習5（歩行計測：計測）								原 和彦 森永 雄	

回	授業計画	準備学修	担当
16	実習5（歩行計測：グループワーク）	全体発表とレポートの準備・作成を行うこと（60分程度）	原 和彦 森永 雄
17	発表5（歩行計測）		原 和彦 森永 雄
18	実習6（歩行時の筋活動：計測）		原 和彦 森永 雄
19	実習6（歩行時の筋活動：グループワーク）		原 和彦 森永 雄
20	発表6（歩行時の筋活動）		原 和彦 森永 雄
教科書	「基礎運動学 第6版補訂」医歯薬出版 *1年次購入済 「エッセンシャル・キネシオロジー原書第3版 機能的運動学の基礎と臨床」 南江堂 *1年次購入済		
参考文献	「身体運動学 関節の制御機構と筋機能」 メジカルビュー社		
備考	【特性】ICT教育、測定機器を用いた実験形式が中心。 1 学年を 2 クラスに分けて実施する。 【評価】発表とレポートなどの授業内課題がない場合は評価不可となるので注意してください。 授業内課題は講義の中でその都度フィードバックを行います。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
原…理学療法士として医療福祉関連施設（大学病院、一般病院）に計19年間勤務している。その大学関連病院での運動疾患、中枢疾患の日々の効果検証などの臨床研究を継続してきた経験を生かして、理学療法を行う上で必要となる運動学を指導する。 森永…理学療法士として医療福祉関連施設（大学病院、一般病院、老人保健施設、通所施設）に計8年間勤務した経験を活かし、運動学や測定機器を用いた運動学研究を指導する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFa012				
			●							
科目名	機能解剖学実習				単位認定者	伊橋 光二		評価の方法	試験（実技）	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2 年	開講時期	後期	単位数	1 単位			
	O T	必修	2 年			授業時間数	40 時間			
					授業形態	実習	授業回数		20 回	
授業の概要	理学療法及び作業療法では運動器疾患を評価・治療する機会も多く、運動器に関する解剖学として骨・関節・筋・靱帯等の構造を理解しておく必要がある。また、運動学では筋作用による関節運動や、靱帯による関節運動の制動を理解しておく必要がある。本科目では、解剖学や運動学から修得した知識をもとに、触診を通して身体構造と身体運動の知識を結びつけ、正常な関節構成体の構造と機能について学修する。									
到達目標	1. 骨・関節・筋・靱帯等の構造および関節運動とその制動を、触診を通して理解する。 2. 上肢、下肢、体幹それぞれの正常な関節構成体の構造と機能について説明できるようになる。									
学修者への期待等	機能解剖学は臨床と密接に結びついており、運動器系解剖学の知識を身につけるとともに、実際に触診や徒手的な操作が行えるようになることが重要である。したがって事前の知識の復習・確認を授業での実技練習に活かし、さらに授業後の自主実技練習を十分行い実践力をつけることが期待される。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	運動面と運動軸、関節の副運動と治療面、筋の起始・停止と主作用と補助作用について					配付資料（UNIPA）の予習（30分程度）			伊橋 光二 鈴木 裕治	
2	肩関節複合体の関節運動と筋の作用・ストレッチ、触診					該当部位の解剖学・運動学の復習教科書の該当箇所（動画含む）の予習 授業後の実技復習練習（60分程度）			伊橋 光二 鈴木 裕治	
3	肩関節複合体の靱帯・関節包の制動と触診・モビライゼーション								伊橋 光二 鈴木 裕治	
4	肘関節・橈尺関節の関節運動と筋の作用・ストレッチ、触診								伊橋 光二 鈴木 裕治	
5	肘関節・橈尺関節の靱帯・関節包の制動と触診・モビライゼーション								伊橋 光二 鈴木 裕治	
6	手関節・手指の関節運動と筋の作用・ストレッチ、触診								伊橋 光二 鈴木 裕治	
7	手関節・手指の靱帯・関節包の制動と触診・モビライゼーション								伊橋 光二 鈴木 裕治	
8	上肢復習					2～7回の復習（30分程度）			伊橋 光二 鈴木 裕治	
9	股関節の関節運動と筋の作用・ストレッチ、触診					該当部位の解剖学・運動学の復習教科書の該当箇所（動画含む）の予習 授業後の実技復習練習（60分程度）			伊橋 光二 鈴木 裕治	
10	股関節の靱帯・関節包の制動と触診・モビライゼーション								伊橋 光二 鈴木 裕治	
11	膝関節の関節運動と筋の作用・ストレッチ、触診								伊橋 光二 鈴木 裕治	
12	膝関節の靱帯・関節包の制動と触診・モビライゼーション								伊橋 光二 鈴木 裕治	
13	足関節・足部の関節運動と筋の作用・ストレッチ、触診								伊橋 光二 鈴木 裕治	
14	足関節・足部の靱帯・関節包の制動と触診・モビライゼーション								伊橋 光二 鈴木 裕治	
15	下肢復習					9～15回の復習（30分程度）			伊橋 光二 鈴木 裕治	

回	授業計画	準備学修	担当
16	頭頸部筋の作用・ストレッチ、触診・モビライゼーション	該当部位の解剖学・運動学の復習 教科書の該当箇所（動画含む）の予習 授業後の実技復習練習（60分程度）	伊橋 光二 鈴木 裕治
17	胸部・胸郭筋の作用・ストレッチ、触診・モビライゼーション		伊橋 光二 鈴木 裕治
18	腰仙部筋の作用・ストレッチ、触診・モビライゼーション		伊橋 光二 鈴木 裕治
19	体幹復習	16～18回の復習（30分程度）	伊橋 光二 鈴木 裕治
20	総復習	全体の復習（60分程度）	伊橋 光二 鈴木 裕治
教科書	「整形徒手理学療法」医歯薬出版 「運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢」メジカルビュー社 「運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹」メジカルビュー社		
参考文献	「触診機能解剖カラーアトラス 上」文光堂 「触診機能解剖カラーアトラス 下」文光堂 「骨格筋の形と触察法」大峰閣 「プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論/運動器系」医学書院 「カラー版 筋骨格系のキネシオロジー」医歯薬出版株式会社 「基礎運動学」医歯薬出版株式会社		
備考	1 学年を 2 クラスに分けて実施する。 触診や徒手的操作の実技練習を行うので、各身体部位を露出できる服装で参加すること。 臨床実践に直結するので真剣に取り組むこと。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFa013				
			●							
科目名	臨床運動学				単位 認定者	網本 和		評価の 方法	筆記試験	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2 年	開講時期	後期	単位数	2 単位		授業内課題 (小テスト)	40 %
	O T	必修	2 年			授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	整形外科、神経内科、脳神経外科などの臨床医学分野のリハビリテーションを行う場合に、神経系、運動器系の疾患に由来する運動障害をきたした症例を経験することが多い。運動学は人間の運動の科学として位置づけられ、人間の正常運動に関するものは基礎運動学として扱われる。本科目では、基礎運動学の知識を身につけた上で、様々な疾患によって生ずる運動機能障害、正常運動からの逸脱、疾患特有の姿勢や動作と病態・障害像及び疾患別の異常歩行などについて学修する。									
到達目標	疾患特有の姿勢や動作、病態・障害像および疾患別の異常歩行などについて理解することができる。									
学修者への 期待等	1年時に学修した「解剖学」「運動学」を基盤として講義するのでそれらの科目の復習をしてください。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	臨床運動学の総論				教科書第1章p4-24を予習してください。(30分程度)				原 和彦	
2	生体力学の基礎				教科書第2章p25-76を予習してください。(30分程度)				原 和彦	
3	基本動作の観察と分析				教科書第2章p25-76を予習してください。(30分程度)				原 和彦	
4	臨床における動作分析の進め方				教科書第3章p78-91、第6章p159-169を予習してください。(30分程度)				原 和彦	
5	股関節障害に対する理学療法の考え方（事例含む）				教科書第8章p253-252を予習してください。(30分程度)				原 和彦	
6	膝関節障害に対する理学療法の考え方（事例含む）				教科書第8章p244-252を予習してください。(30分程度)				原 和彦	
7	足関節障害に対する理学療法の考え方（事例含む）				教科書第8章p267-274を予習してください。(30分程度)				原 和彦	
8	姿勢歩行の加齢変化				教科書第17章を予習してください。(30分程度)				網本 和	
9	運動失調患者の姿勢と歩行				教科書p306-315を予習してください。(30分程度)				網本 和	
10	片麻痺患者の寝返り・起き上がり動作				教科書p286-297を予習してください。(30分程度)				網本 和	
11	片麻痺患者の起立着座・移乗動作				教科書p286-297を予習してください。(30分程度)				網本 和	
12	片麻痺患者の姿勢と歩行①（立脚期中心）				教科書p286-297を予習してください。(30分程度)				網本 和	
13	片麻痺患者の姿勢と歩行②（遊脚期中心）				教科書p286-297を予習してください。(30分程度)				網本 和	
14	パーキンソン病患者の姿勢と歩行				教科書p298-305を予習してください。(30分程度)				網本 和	
15	動作分析とクリニカルリーズニング				配付資料を事前に予習してください。				網本 和	
教科書	「標準理学療法学 専門分野 病態運動学」医学書院									
参考文献										
備考	PT・OT合同授業。小テストを複数回実施する。実施日または次回までに正解を示しフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
原・網本…医療福祉関連施設（大学病院、一般病院）での理学療法士としての運動疾患、中枢疾患の臨床実践と研究を継続してきた経験を生かし、治療的介入を行う上で必要となる臨床運動学について指導する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFb01				
			●							
科目名	薬理学				単位認定者	柳澤 輝行		評価の方法	試験(筆記)	85 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題等	5 %
	O T	必修	2 年			授業時間数	16 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	薬理学とは薬物の作用メカニズムを学ぶ学問である。本科目では、薬理学の基礎的知識を修得し、生体と薬物との関わりを理解する。様々な疾患に用いられる代表的な治療薬について、作用機序、体にもたらす効果、副作用が起こるメカニズム等を学修し、疾病の治療や予防において使用される薬物についての知識を身につける。									
到達目標	リハビリテーションの現場に出る前の基礎的な内容を薬理学と病態の原理原則からも理解し身につける。									
学修者への期待等	事前に教科書を熟読して、練習問題に目をとおしておくこと。リハビリテーションの現場で必須の中毒学は薬理学の関連領域であり、化学物質や有害物質に対するセンスも磨く。									
回	授業計画					準備学修				
1	薬理学総論 1 【Chapter1】 作用機序、受容体、濃度反応曲線、情報伝達系					作用機序：分子から細胞レベルまで、受容体、濃度反応曲線、情報伝達系（概ね1時間）				
2	薬理学総論 2 【Chapter1】 治療機序、薬物動態、薬物療法、副作用 等					治療機序：細胞から生体レベルまで、薬物動態、薬物療法、副作用、薬物の取扱い、管理、投与方法（概ね1時間）				
3	末梢神経系に作用する薬 【Chapter2】					自律神経系薬総論、交感神経系薬、副交感神経系薬、アセチルコリン受容体、筋弛緩薬、局所麻酔薬（概ね1時間）				
4	中枢神経系に作用する薬 【Chapter3】					中枢神経系薬総論、全身麻酔薬、抗不安薬、抗てんかん薬、鎮痛薬、抗精神病薬、抗うつ薬、抗躁薬（気分安定薬）、パーキンソン病・認知症治療薬、薬物乱用（概ね1時間）				
5	循環器系に作用する薬 1 【Chapter4】					循環器系概要、動脈硬化、血管拡張薬、脳血管疾患治療薬、高血圧と降圧薬、虚血性心疾患治療薬、心不全治療薬（概ね1時間）				
6	循環器系に作用する薬 2、体液・血液系に作用する薬 【Chapter4】					抗不整脈薬、利尿薬、体液と輸液、貧血治療薬、造血因子、止血薬、抗血栓薬（概ね1時間）				
7	呼吸器系に作用する薬、消化器系に作用する薬 【Chapter5】					抗ヒスタミン薬、気管支喘息治療薬、胃・十二指腸潰瘍治療薬、催吐薬、制吐薬、腸に作用する薬（概ね1時間）				
8	代謝・内分泌系疾患治療薬 【Chapter6】					糖尿病治療薬、脂質異常症治療薬、肥満治療薬、痛風治療薬、骨粗鬆症治療薬、視床下部・下垂体ホルモン（概ね1時間）				
教科書	『休み時間のワークブック薬理学』柳澤輝行／小橋史・著、講談社									
参考文献	『人体の構造と機能』エレインN. マリーブ著 医学書院 「なぜ薬理学を学び、教えるのか」URL http://hdl.handle.net/10097/53883 、柳澤輝行									
備考	PT・OT合同授業。課題については適宜フィードバックを行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFb02				
			●							
科目名	病理学				単位 認定者	三木 康宏		評価の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2 年	開講時期	後期	単位数	1 単位			
	O T	必修	2 年			授業時間数	15 時間			
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	病理学とは、「やまい(病)」の「ことわり(理)」を学ぶ学問である。種々の疾患(腫瘍、循環器系疾患、免疫疾患など)によって、組織・細胞は様々な適応(環境変化に対する適応)をしているが、本科目ではその意味と疾患の関わりについて学修する。また、内因・外因を含む疾患や障害の病因論、感染症や腫瘍の病理的变化などについても学修する。									
到達目標	身体の構図と機能を基本とし、病態におけるその変化について学び、そこから、疾病の成り立ちを病理組織学的な観点から理解できるようになる。									
学修者への期待等	「病理学」は「解剖学」や「生理学」などの基礎医学と密接に関係している。毎回の講義内容について、これまでに修得した基礎医学との関連を見いだすことが重要であり、そこから病態における変化について理解する必要がある。授業の最後に予習ポイントを提示するので、上記関連事項を踏まえながら次回の講義に備えてもらいたい。									
回	授業計画					準備学修				
1	疾患の病因と病理学／細胞の増殖と傷害					教科書第1章(病理学とは何か)、第2章(細胞傷害と細胞増殖)を読む。(1時間30分程度)				
2	環境に対する細胞、組織の適応					教科書第3章(組織、細胞の修復と再生)を読む。(1時間程度)				
3	生体防御反応としての炎症					教科書第5章(炎症)を読む。(1時間程度)				
4	免疫の基礎と疾患					教科書第7章(免疫機構の異常)を読む。(1時間程度)				
5	腫瘍とは：その発生と良性と悪性の鑑別					教科書第9章(腫瘍)を読む。(1時間程度)				
6	遺伝と疾患					教科書第8章(遺伝と先天異常)を読む。(1時間程度)				
7	循環障害：局所的循環障害と全身性循環不全					教科書第4章(循環障害)を読む。(1時間程度)				
8	これまでの講義を振り返り、病理学を再考する					日本人の死因の年次推移に関する資料から、その病因を考える。(概ね1時間程度)				
教科書	シンプル病理学(改定第8版)・笹野他・南江堂									
参考文献										
備考	PT・OT合同授業。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFb03				
			●							
科目名	小児科学				単位 認定者	飯沼 一字		評価の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	20 %
	O T	必修	2 年			授業時間数	15 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	本科目では、小児疾患の原因・病態と、受胎から思春期に至る身体・精神・言語の成長発達段階の理解を通し、小児に認められる代表的な症候とその原因疾患について学修する。特に、小児における疾病と障害、発達過程や回復過程を学ぶ中で、理学療法及び作業療法を実施する上で必要な知識を修得する。									
到達目標	理学療法士・作業療法士として必要な小児疾患の基本的知識を修得し、生涯に亘って、小児のリハビリテーションに応用して実践できるようになる。									
学修者への期待等	他人を敬うことと、自分の『売り』をもつこと。教わったことを単に覚えるだけではなく、「なぜ」かを常に考え、論理的思考をとること、それを文章として表現（他人に知らせる）することが出来るように努力すること。									
回	授業計画					準備学修				
1	小児科学とは、先天異常・遺伝病					【事前】小児が大人（成人）とどのように異なるかを十分に理解しておく。胎児の発達、遺伝の仕組みを理解しておく。（40分程度）				
2	免疫・アレルギー疾患					【事前】基礎医学で学んだ免疫の仕組みを十分に理解しておく。（40分程度）				
3	感染症					【事前】感染症とはなにか。人類と感染症の相互関係について理解しておく。（40分程度）				
4	呼吸器・循環器疾患					【事前】小児の呼吸機能、循環動態について理解しておく。（40分程度）				
5	新生児疾患・消化器・内分泌疾患					【事前】新生児特有の生態を理解しておく。消化器の構造、機能および内分泌の仕組み（特にフィードバック）について理解しておく。（40分程度）				
6	血液・腫瘍疾患					【事前】血液の役割、成分について理解しておく。腫瘍とは何か（悪性と良性の相違）を理解しておく。（40分程度）				
7	腎・泌尿器疾患					【事前】腎臓の構造と機能を理解しておく。（40分程度）				
8	神経・筋・運動器疾患、重症心身障害					【事前】脳の発達、中枢・末梢神経および関節の構造と機能を理解しておく。障害を持つ人やこころの問題について自分と他人との関係など思いめぐらせておく。（40分程度）				
教科書	『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学』前垣 義弘、小倉 加恵子 編、医学書院									
参考文献	特になし									
備考	P T・O T合同授業 課題については適宜フィードバックを行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

						科目ナンバリング						
						ReFb05						
学修成果	1	2	3	4	5							
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力							
			●									
科目名	内科学				単位認定者	田林 暁一		評価の方法	試験(筆記)	80 %		
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2 年	開講時期	前期	単位数	2 単位		受講態度	20 %		
	O T	必修	2 年			授業時間数	30 時間					
				授業形態	講義	授業回数	15 回					
授業の概要	内科学では、主に身体の臓器（内臓）を対象とし、内科疾患に関する診断の進め方、臨床データの解釈、症候、症状、原因、特徴、治療などについて学ぶ。循環器疾患、内分泌・代謝性疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、肝疾患、血液疾患などの様々な疾患についての理解を深め、理学療法及び作業療法を実施する上で必要な知識を学修する。											
到達目標	1. 代謝性疾患の病態と診断・治療について説明できる。2. 循環器疾患の病態と診断・治療について説明できる。3. 消化器疾患の病態と診断・治療について説明できる。4. 腎泌尿器疾患の病態と診断・治療について説明できる。5. 呼吸器疾患の病態と診断・治療について説明できる。6. 内分泌疾患の病態と診断・治療について説明できる。7. 血液疾患の病態と診断・治療について説明できる。8. 免疫疾患の病態と診断・治療について説明できる。											
学修者への期待等	第2回から15回講義に際し、授業計画の予習、及び講義後1～2日目に講義内容を30分間復習してください。代謝性疾患では前回の講義内容について復習小テストを実施します。											
回	授業計画					準備学修		担当				
1	医学への関心度（一般的な医学情報に関する質問）【反転授業】					医学一般に関する学修		田林暁一				
2	代謝性疾患Ⅰ：肥満、メタボリック症候群、糖質代謝【反転授業】					第2回講義の30分間の予習		田林暁一				
3	代謝性疾患Ⅱ：糖尿病、脂質代謝【反転授業】					第3回講義の30分間の予習及び第2回講義の30分間の復習		田林暁一				
4	循環器疾患1：総論・循環器疾患の病態					講義前、授業計画に該当する部分の教科書を一読する（30分程度）。講義後、教科書の該当箇所とレジュメを読んで理解し、内容を復習する（90分程度）。		西條芳文				
5	循環器疾患2：心不全の診断や治療							西條芳文				
6	循環器疾患3：虚血性心疾患の診断や治療							西條芳文				
7	循環器疾患4：末梢動脈疾患の診断や治療							西條芳文				
8	呼吸器疾患1：総論・呼吸器疾患の病態							西條芳文				
9	呼吸器疾患2：慢性閉塞性肺疾患の診断や治療							西條芳文				
10	呼吸器疾患3：間質性肺炎、誤嚥性肺炎の診断や治療							西條芳文				
11	内分泌疾患（病態・診断・治療）							西條芳文				
12	血液疾患（病態・診断・治療）							西條芳文				
13	免疫疾患（病態・診断・治療）							西條芳文				
14	消化器疾患（病態・診断・治療）、臓器移植							宮城重人				
15	臓器移植・腎泌尿器疾患（病態・診断・治療）							宮城重人				
教科書	『Crosslink basic リハビリテーションテキスト内科学』メジカルビュー社											
参考文献												
備考	P T・O T合同授業											

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFb06				
			●							
科目名	神経学				単位認定者	平山 和美		評価の方法	試験（筆記）	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2 年	開講時期	後期	単位数	2 単位			
	O T	必修	2 年			授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	本科目では、リハビリテーションの対象となる脳、脊髄、末梢神経、筋の疾患を中心に、その病態とリハビリテーションの関連を知る。理学療法や作業療法を実施する上でのリスク管理、臨床検査、医学的治療、生活機能、様々な障害やその予後について学修する。特に、脳血管障害、変性疾患や神経筋疾患など神経に障害をきたす疾患についての理解を深め、病理的な知識だけでなく、画像所見も含めた評価や検査及び治療法について学修し、理学療法及び作業療法を実施する上で必要な知識を学修する。									
到達目標	1. 神経系の構造・機能、神経系の各種の障害の病態機序、神経学的診察、診断の方法、各神経疾患の病因、症状、診断、リハビリテーションについて、実演や図を用いて説明できる。 2. MRI、CTなどの脳画像を見て、病変部位を説明できる。									
学修者への期待等	教科書、配付資料で予習、復習を行い授業内容を十分に理解することを望みます。									
回	授業計画					準備学修				
1	神経疾患の特徴・神経系の構造					教科書14-27ページに目を通しておくこと（30分程度）。				
2	神経疾患の特徴・神経系の機能					教科書23-31ページに目を通しておくこと（30分程度）。				
3	脳画像の見方					事前に配付する資料に目を通しておくこと（30分程度）。				
4	診察①：意識・脳神経					教科書71-74ページおよび事前に配付する資料に目を通しておくこと（30分程度）。				
5	診察②：筋力・筋緊張・筋萎縮・不随意運動・反射					教科書79-93ページに目を通しておくこと（30分程度）。				
6	診察③：体性感覚・平衡・協調運動・構音・嚥下障害					教科書94-98ページに目を通しておくこと（30分程度）。				
7	高次脳機能障害①：総論、失語（症）					教科書107-118ページに目を通しておくこと（30分程度）。				
8	高次脳機能障害②：失認（症）、失行（症）、記憶障害					教科書120-143ページに目を通しておくこと（30分程度）。				
9	疾患とリハビリテーション①：脳血管障害					教科書173-202ページに目を通しておくこと（30分程度）。				
10	疾患とリハビリテーション②：腫瘍・外傷・脊髄疾患					教科書224-231ページに目を通しておくこと（30分程度）。				
11	疾患とリハビリテーション③：変性疾患					教科書253-274ページに目を通しておくこと（30分程度）。				
12	疾患とリハビリテーション④：脱髄疾患・感染症					教科書302-309ページおよび事前に配付する資料に目を通しておくこと（30分程度）。				
13	疾患とリハビリテーション⑤：中毒栄養欠乏疾患・末梢神経疾患					教科書311-315ページに目を通しておくこと（30分程度）。				
14	疾患とリハビリテーション⑥：筋疾患・神経筋接合部疾患					教科書288-300ページに目を通しておくこと（30分程度）。				
15	神経学の総合的な考え方					事前に配付する資料に目を通しておくこと（30分程度）。				
教科書	『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学』医学書院									
参考文献										
備考	PT・OT合同授業									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFb07				
			●							
科目名	整形外科学				単位認定者	佐野 徳久		評価の方法	試験（筆記）	100 %
対象学科等必修・選択配当年次	P T	必修	2 年	開講時期	前期	単位数	2 単位			%
	O T	必修	2 年			授業時間数	30 時間			%
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	運動器には、脊柱、骨盤、関節、手、足などの器官があり、骨、軟骨、靱帯、筋、血管、皮下組織、脊髄および末梢神経などの組織が含まれる。運動器の病態には、これらの組織の炎症、腫瘍、変性、循環障害などの病態と、先天性障害や変形、骨・関節の外傷などの運動器に特徴的な病態がある。本科目では、運動器疾患に関する基礎的な知識を身につけ、運動器疾患の診断、治療について学修する。									
到達目標	1. 整形外科で扱う疾病や外傷、先天性障害の特徴、病態が理解できる。 2. 整形外科疾患に対する診断や治療、リハビリテーションの位置づけについて説明できる。									
学修者への期待	整形外科学の外傷や疾患について学び、予習と復習をおこなってください。また、運動学、機能解剖学、運動学実習および3年次に学ぶ運動器障害理学療法学などの科目と繋がりも意識しながら、整形外科学を学んでください。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	基礎科学(骨構造、修復と再生)、代謝性骨疾患				講義資料の予習復習をしておくこと（30分程度）				佐野 徳久	
2	診断と検査 治療(保存療法と手術療法)				講義資料の予習復習をしておくこと（30分程度）				佐野 徳久	
3	骨・関節感染症、関節リウマチ				講義資料の予習復習をしておくこと（30分程度）				佐野 徳久	
4	変形性関節症とその類縁疾患 先天性骨系統疾患				講義資料の予習復習をしておくこと（30分程度）				佐野 徳久	
5	骨腫瘍・軟部腫瘍 四肢循環障害と阻血壊死性疾患				講義資料の予習復習をしておくこと（30分程度）				佐野 徳久	
6	スポーツ傷害総論				講義資料の予習復習をしておくこと（30分程度）				秋 貴史	
7	小児とスポーツ				講義資料の予習復習をしておくこと（30分程度）				秋 貴史	
8	超音波診療				講義資料の予習復習をしておくこと（30分程度）				秋 貴史	
9	脊椎疾患				講義資料の予習復習をしておくこと（30分程度）				秋 貴史	
10	肩関節・肘関節疾患				講義資料の予習復習をしておくこと（30分程度）				秋 貴史	
11	股関節疾患				講義資料の予習復習をしておくこと（30分程度）				秋 貴史	
12	膝関節疾患 1				講義資料の予習復習をしておくこと（30分程度）				秋 貴史	
13	膝関節疾患 2				講義資料の予習復習をしておくこと（30分程度）				秋 貴史	
14	足・足関節疾患				講義資料の予習復習をしておくこと（30分程度）				秋 貴史	
15	外傷・救急疾患				講義資料の予習復習をしておくこと（30分程度）				秋 貴史	
教科書	「標準整形外科学」医学書院									
参考文献										
備考	P T・O T 合同授業									
実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性） ※該当者のみ記載										

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFb08				
			●							
科目名	精神医学				単位認定者	三輪 真也		評価の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2 年	開講時期	前期 <th>単位数</th> <td>2 単位</td> <td></td> <td></td>	単位数	2 単位			
	O T	必修	2 年			授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	精神医学は、精神機能あるいは精神活動の障害（精神障害）についての医学である。精神機能あるいは精神活動は、一方では脳の高次機能、他方では性格や状況などと関連している。また、現代の疾病構造を理解する上でも、精神疾患の理解は重要である。精神医学について、その概念や精神症候学、精神障害の分類、治療などについて学び、その障害を持つ対象者の理解に必要な基本的事項や、臨床で必要とされる精神医学の知識を修得する。									
到達目標	心の構造と精神疾患の概要を理解し、精神疾患患者の気持ちに共感できると共に、実地の対応に活用できる。									
学修者への期待等	臨床現場に出ても戸惑うことのないように、集中して受講してください。									
回	授業計画				準備学修					
1	こころ（精神）とは何かを学修する（心の構造について理解する）				教科書1章(精神医学とは)・2章(精神障害の成因と分類)を読む（1時間程度）					
2	こころ（精神）とは何かを学修する（心と環境のかかわりについて理解する）				教科書1章(精神医学とは)・2章(精神障害の成因と分類)を読む（1時間程度）					
3	神経症性障害、パーソナリティ障害、精神病の各病態による心の機能水準の違いを学修する				教科書3章(精神機能の障害と精神症状)・4章(精神障害の診断と評価)を読む（1時間程度）					
4	神経症性障害、パーソナリティ障害、精神病、各々について病態の理解を深める				教科書3章(精神機能の障害と精神症状)・4章(精神障害の診断と評価)を読む（1時間程度）					
5	神経症性障害について学修する				教科書11章(神経症性障害)・17章(心身医学)を読む（1時間程度）					
6	心身症について学修する				教科書11章(神経症性障害)・17章(心身医学)を読む（1時間程度）					
7	パーソナリティ障害とは何かを学修する				教科書12章(生理的障害および身体的要因に関連した障害)・13章(成人のパーソナリティ・行動・性の障害)を読む（1時間程度）					
8	パーソナリティ障害の治療を中心に学修する				教科書12章(生理的障害および身体的要因に関連した障害)・13章(成人のパーソナリティ・行動・性の障害)を読む（1時間程度）					
9	統合失調症の病態について学修する				教科書9章(統合失調症およびその関連障害)を読む（1時間程度）					
10	統合失調症の経過と治療について学修する				教科書9章(統合失調症およびその関連障害)を読む（1時間程度）					
11	気分障害について学修する				教科書10章(気分(感情)障害)を読む（1時間程度）					
12	注意欠如多動症、自閉スペクトラム症等について学修する				教科書14章(精神遅滞[知的障害])・15章(心理的発達の障害)を読む（1時間程度）					
13	器質性精神障害全般について学修する				教科書5章(脳器質性精神障害)・6章(症状性精神障害)を読む（1時間程度）					
14	認知症を呈する脳疾患について学修する				教科書5章(脳器質性精神障害)・6章(症状性精神障害)を読む（1時間程度）					
15	補足、まとめ				第14回に指定のあった教科書範囲を読む（1時間程度）					
教科書	『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学』 奈良 勲 著、医学書院									
参考文献	講義の中で適宜紹介する。									
備考	P T・O T 合同授業									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1 人間基盤力	2 連携協働力	3 専門実践力	4 学術探究力	5 課題解決力	科目ナンバリング ReFb09				
			●							
科目名	臨床心理学				単位 認定者	村椿 智彦		評価の 方法	試験(筆記)	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	15 %
	O T	必修	2 年			授業時間数	15 時間		受講態度	5 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	臨床心理学は、心理的な障害や問題に悩む人を対象とする実践的な学問である。心理学の知識と技術を用いて、心理的苦悩を軽減するために心理援助を行い、問題の解決や改善を目指す。本科目では、臨床心理学の基礎的な理解を目的に、臨床心理学の役割、心理的問題の分類、心理アセスメントや代表的理論、心理療法などについて学ぶ。理学療法士及び作業療法士として対象者と関わる中で、対象者の心理を理解し、心理的適応援助につながる基礎的な知識を学修する。									
到達目標	臨床心理学の知識を習得して支援を必要とする対象の心理行動的側面を理解できるようになること、そしてそれに基づいて適切な支援をできるようになること。									
学修者への期待等	1. 1年次に修得した心理学の知識を踏まえた上で、準備学修を行うこと。 2. 毎回、小テストを実施するため予習を行うとともに、真摯な態度で受講すること。									
回	授業計画					準備学修				
1	臨床心理学とは					【予習】教科書p. 12～15、66～73を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)				
2	障害の受容、治療者-患者関係					【予習】教科書p. 76～81を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)				
3	心理アセスメント					【予習】教科書p. 82～89を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)				
4	心理検査（人格検査、知能検査、発達検査、認知機能検査）					【予習】教科書p. 90～97を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)				
5	心理療法の理論と技法（1）精神分析、防衛機制					【予習】教科書p. 74～75、106～107を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)				
6	心理療法の理論と技法（2）行動療法、学習（レスポナント条件付け、オペラント条件付け）					【予習】教科書p. 46～49、98～101を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)				
7	心理療法の理論と技法（3）認知行動療法、情動理論					【予習】教科書p. 34～35、102～105を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)				
8	心理療法の理論と技法（4）来談者中心療法、その他					【予習】教科書p. 108～121を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)				
教科書	『リハベーシック 心理学・臨床心理学 第2版』内山靖 他 編 医歯薬出版株式会社									
参考文献	授業時に随時紹介する。									
備考	P T・O T合同授業 課題については適宜フィードバックを行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFb13				
		●	●							
科目名	言語聴覚療法概論				単位認定者	櫻庭 ゆかり		評価の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	10 %
	O T	必修	2年			授業時間数	15 時間		受講態度	20 %
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	リハビリテーションを行う上で、様々な障害を抱えた対象者に対して、多数の医療関連職種が連携し、対象者の障害にあわせた支援を提供している。特に、理学療法士及び作業療法士が、言語療法について学修する意義は大きい。言語聴覚障害では、コミュニケーションに必要な言語や聴覚の機能が低下し、当事者が自分の問題を訴えることが難しいことが多い。本科目では、言語聴覚障害や、障害に付随して生じる問題の理解と専門的な対応について学ぶ。また、全ての障害領域に共通した診療理念、評価や治療を含む、臨床の進め方、その他の医療関連職種との連携について学修する。									
到達目標	臨床現場で出会う可能性の高い言語聴覚障害について理解し、対象者にとって望ましいコミュニケーション方法を選択できる。									
学修者への期待等	専門科目の一領域という気持ちで積極的に学んでください。									
回	授業計画					準備学修				
1	失語症とは何か					テキスト「失語症」の解説部分に目を通しておくこと。30分程度				
2	失語症者とのコミュニケーション グループワークによる体験学習					資料に目を通しておくこと。30分程度				
3	運動障害性構音障害とはなにか グループワークによる体験学習					テキスト「運動障害性構音障害」「音声障害」の解説部分に目を通しておくこと。30分程度				
4	運動障害性構音障害者とのコミュニケーション					資料に目を通しておくこと。30分程度				
5	聴覚障害と聴覚補償					テキスト「聴覚障害」の解説部分に目を通しておくこと。30分程度				
6	摂食嚥下障害 グループによる体験学習					テキスト「摂食嚥下障害」の解説部分に目を通しておくこと。30分程度				
7	言語発達遅滞について① 正常な言語発達					テキスト「正常な言葉の発達」の部分に目を通しておくこと。30分程度				
8	言語発達遅滞について② 対応					資料に目を通しておくこと。30分程度				
教科書	『図解 やさしくわかる言語聴覚障害』 ナツメ社 小嶋知幸編著									
参考文献										
備考	PT・OT合同授業。課題については授業内・UNIPA等でフィードバックを行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果						科目ナンバリング				
1人間基盤力2連携協働力3専門実践力4学術探究力5課題解決力						ReFc02				
科目名	チームアプローチ入門				単位認定者	外里 富佐江 金谷 さとみ 高橋 由美	評価の方法	授業内課題	100 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2 年	開講時期	後期 <th>単位数</th> <td>1 単位</td> <td></td> <td></td>	単位数		1 単位		
	O T	必修	2 年			授業時間数		30 時間		
					授業形態	演習		授業回数	15 回	
授業の概要	包括的なリハビリテーションを行うためには、多くの医療専門職との連携が不可欠である。医療の現場では、様々な医療専門職が協働するチーム医療が基本となり患者中心の医療を提供している。本科目では、理学療法士、作業療法士、看護師等の専門職の活動や役割を学び、チームアプローチの重要性について理解する。									
到達目標	・チーム医療とは何かを説明できる ・チーム医療における理学療法士、作業療法士、看護師の役割を説明できる ・自身の職種の専門性を説明でき、他職種とどのように連携を図る必要があるか理解する									
学修者への期待等	本科目は、看護師、理学療法士、作業療法士を目指す学生が、多職種連携について共に学び合う貴重な機会となります。自身の専門性に加え、他職種の専門性に関する準備学修を充分行い主体的に臨みましょう。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	チーム医療・患者中心の医療とは				チーム医療について事前に調べてくること（30分）			外里 富佐江		
2	チーム医療におけるコミュニケーション				事前資料を学修してくること（30分）□			外里 富佐江		
3	理学療法士の役割・専門性について				理学療法士の資格取得者数、就職先、業務等について整理する（30分）			金谷 さとみ		
4	作業療法士の役割・専門性について				事前資料を学修してくること（30分）□			外里 富佐江		
5	看護師の役割・専門性について				教科書3章A～Fについて予習する（30分）			高橋 由美		
6	チーム医療の実際①：看護師からの視点				【事後】授業を復習して理解を深める（30分）学修カード提出（授業後感想）			高橋 由美		
7	チーム医療の実際②：理学療法士からの視点				医療・介護場面における理学療法士の役割について調べる（30分）			金谷 さとみ		
8	チーム医療の実際③：作業療法士からの視点				事前資料を学修してくること（30分）□			外里 富佐江		
9	チーム医療の実際④：病院				病院におけるチーム医療（NST、RST等）の種類を予め調べておく（30分）			金谷 さとみ		
10	チーム医療の実際⑤：在宅、地域医療				事前資料を学修してくること（30分）□			外里 富佐江		
11	事例検討 [1] 事例提示				これまでの授業を十分振り返り、復習して臨む（30分）			高橋 由美 金谷 さとみ 外里 富佐江		
12	事例検討 [2] グループワーク							高橋 由美 金谷 さとみ 外里 富佐江		
13	事例検討 [3] 発表準備							高橋 由美 金谷 さとみ 外里 富佐江		
14	事例検討 [4] 発表1							高橋 由美 金谷 さとみ 外里 富佐江		
15	事例検討 [5] 発表2・まとめ				【事後】グループワーク・発表からの学びについてレポート提出			高橋 由美 金谷 さとみ 外里 富佐江		
教科書	『医療福祉をつなぐ関連職種連携 講義と実習にもとづく学習のすべて』北島政樹編、南江堂									
参考文献	『はじめてのIP 連携を学びはじめる人のためのIP入門』大嶋伸雄著、協同医書出版社 『リハベリック コミュニケーション論・他職種連携論』内山靖他編、医歯薬出版株式会社 『看護師のための多職種連携 攻略本』中山祐次郎監、CBR出版									
備考	・授業内課題は発表70%、他レポート等30%で評価し、適宜フィードバックします。 ・第1～4回、第7～10回は長町キャンパス、第5、6回、第11～15回は五橋キャンパスで実施する予定です。 ・本科目は看護学科と合同で実施します。 ・PT・OT合同授業。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

リハビリテーション学部
理学療法学専攻
2年生

■ 専門科目シラバス

						科目ナンバリング				
						ReMa02				
学修成果	1 人間基盤力	2 連携協働力	3 専門実践力	4 学術探究力	5 課題解決力					
	●	●	●	●						
科目名	トランスレーショナルセミナーⅡ				単位 認定者	大和田 宏美				
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価 の方法	授業内課題 (レポート等)	80 %
					授業形態	演習 <th>授業時間数</th> <td>30 時間</td> <td>授業内課題 (発表)</td> <td>20 %</td>	授業時間数		30 時間	授業内課題 (発表)
				授業回数			15 回			
授業の概要	トランスレーショナルセミナーⅠ～トランスレーショナルセミナーⅣは、主体的・能動的な学修能力を形成しながら学びの充実度を高め、大学生活において重要な、学生間・学年間のつながりを築くための科目である。 トランスレーショナルセミナーⅡでは、良好な人間関係を構築する姿勢や態度を養い、学生、社会人、医療従事者として求められるコミュニケーションスキルの修得を目指す。また、グループワークなどを通じて、理学療法に関する様々なテーマについて学修する。									
到達目標	1. 相手の考えを受容し、認めることができる 2. 相手の意図していることを汲み取ることができる 3. 相手に合わせて自分の意見を適切に伝えることができる 4. 社会人として求められる必要なコミュニケーションを実践できる 5. 医療従事者として必要なコミュニケーションを実践できる									
学修者への期待等	入学時の理学療法士像と1年間理学療法学を学んでからの理学療法士像の違いについて考えてほしい。また、コミュニケーションスキルを学び、対話の重要性を学んで欲しい。コミュニケーション能力の向上は理学療法士への第一歩である。積極的に学ぶことを期待する。									
回	授業計画					準備学修				
1	【1～2年生合同】理学療法を学ぶ意義					理学療法とは何かについて改めて考えてくる。（30分程度）				
2	【1～2年生合同】理学療法を学ぶということ ディスカッション									
3	理学療法とは何か 理学療法の種類①グループワーク									
4	理学療法とは何か 理学療法の種類②発表									
5	理想とする理学療法像は何か①グループワーク									
6	理想とする理学療法像は何か②発表									
7	コミュニケーションとは何か					授業内容をノートにまとめる。（復習30分程度）				
8	コミュニケーション能力①(自己統制と他者受容、傾聴力)									
9	コミュニケーション能力②(読解力と要約力)									
10	コミュニケーション能力③(伝える力)									
11	社会人としてのコミュニケーション能力①(報告、連絡、相談)									
12	社会人としてのコミュニケーション能力②(挨拶、電話の掛け方)									
13	社会人としてのコミュニケーション能力③(メールの対応)									
14	医療従事者としてのコミュニケーション能力①(言語コミュニケーション、非言語コミュニケーション)									
15	医療従事者としてのコミュニケーション能力②(ミラーリング、ペーシング、質問の仕方)									
教科書	「わたし」を伝えるコミュニケーションワークブック 晃洋書房									
参考文献	必要に応じて紹介する。									
備考	【担当教員】網本 和、原 和彦、伊橋 光二、金谷 さとみ、大和田 宏美、坂上 尚穂、小関 友記、伊藤 大亮、佐々木 広人、森永 雄、鈴木 裕治、荒牧 隼浩 授業内で担当教員からフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1 人間基盤力	2 連携協働力	3 専門実践力	4 学術探究力	5 課題解決力	科目ナンバリング RPMc01				
			●							
科目名	理学療法評価学				単位 認定者	原 和彦		評価 の 方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題 （小テスト）	20 %
						授業時間数	15 時間		授業内課題 （レポート等）	10 %
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	適切な理学療法が提供されるためには、正確な評価方法に関する知識と技術を身につける必要がある。本科目では、理学療法評価における検査・測定に関する知識を修得し、理学療法評価の目的と意義および評価方法と評価の流れについて学修する。									
到達目標	1. 理学療法評価の意義、目的について理解すること。 2. 各評価項目についての基本的な方法や解釈について説明・実施できるようになること。									
学修者への期待等	その人の自立生活再建のための治療介入を行う上での目標設定、効果検証、治療計画、目標の再修正などをダイナミックな環境で行い、かつ与えられた時間内で実施することを想定して、各評価項目の実施イメージを持つ基本的な学習態度があることを期待している。									
回	授業計画					準備学修				
1	評価の基礎、構成要素					指定教科書、第1章p18-28までを予習してください（30分程度）。				
2	評価の意義、目的					指定教科書、第1章p18-28までを予習してください（30分程度）。				
3	評価に必要な基本情報、評価の進め方					指定教科書、第2章p29-78までを予習してください（30分程度）、参考文献p7-18				
4	医療面接と情報収集					指定教科書、第2章p37-52までを予習してください（30分程度）				
5	症例に基づく評価の進め方① 検査項目列挙まで（検査の意義含む）					指定教科書、第8章p432-444までを予習してください（30分程度）、その他教科書、参考文献より資料抜粋する				
6	症例に基づく評価の進め方② 検査測定の流れ、判断・解釈まで									
7	症例に基づく評価の進め方③ 統合と解釈まで（問題点抽出を含む）									
8	症例に基づく評価の進め方④ 治療プログラム立案まで（ゴール設定含む）									
教科書	「PT・OTビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学」 羊土社									
参考文献	「理学療法評価学第3版」 標準理学療法学 医学書院									
備考	授業中または次回講義時に適宜授業内で課題を課し、解説を行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	RPMc02				
			●							
科目名	基礎理学療法評価学実習				単位認定者	坂上 尚穂		評価の方法	試験（実技）	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		試験（筆記）	40 %
						授業時間数	40 時間		授業内課題 （小テスト）	10 %
					授業形態	実習	授業回数		20 回	
授業の概要	本科目では、臨床現場で求められる、安全かつ正確で迅速な検査・測定について、実習を通して学修する。理学療法の臨床において最も一般的である関節可動域検査と、徒手筋力検査の目的や意義、方法に関する基礎知識を修得するとともに、その基本技術を身につけ、判断解釈についても学ぶ。									
到達目標	1. 検査・測定の目的・意義を説明でき、検査・測定を実践できるようになる。 2. 検査・測定の実践の中で丁寧な対処（声がけ・触れ方・動かし方）ができるようになる。									
学修者への期待等	基本的な検査・測定の技法を修得するために、自主的に練習する必要がある。理学療法にとって必須の検査であり、3年次の臨床実習の際に、最低限のことが実施できるよう、予習・復習を学生同士で行うこと。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	形態測定① 四肢長				「リハビリテーション基礎評価学」 該当箇所を予習し、計測方法を覚えて授業に臨んでください（予習・復習 各1時間程度）				坂上 尚穂 小関 友記	
2	形態測定② 四肢周径								坂上 尚穂 小関 友記	
3	関節可動域検査① 総論				「リハビリテーション基礎評価学」 P 237を読んで運動の方向、基本軸、移動軸、参考可動域を覚えて授業に臨んでください（予習・復習 各1時間程度）				坂上 尚穂 小関 友記	
4	関節可動域検査② 股関節								坂上 尚穂 小関 友記	
5	関節可動域検査③ 膝関節、足関節								坂上 尚穂 小関 友記	
6	関節可動域検査④ 肩関節								坂上 尚穂 小関 友記	
7	関節可動域検査⑤ 肩甲帯、肘関節、前腕								坂上 尚穂 小関 友記	
8	関節可動域検査⑥ 手関節、手指								坂上 尚穂 小関 友記	
9	関節可動域検査⑦ 頸部								坂上 尚穂 小関 友記	
10	関節可動域検査⑧ 体幹								坂上 尚穂 小関 友記	
11	徒手筋力検査① 総論				「新・徒手筋力検査法」の該当箇所を予習し、各検査の運動の方向、主動作筋とその起始停止、支配神経、神経レベルを覚えて授業に臨んでください（予習・復習 各1時間程度）				佐々木 広人 伊藤 大亮	
12	徒手筋力検査② 股関節								佐々木 広人 伊藤 大亮	
13	徒手筋力検査③ 膝関節、足関節								佐々木 広人 伊藤 大亮	
14	徒手筋力検査④ 肩甲骨								佐々木 広人 伊藤 大亮	
15	徒手筋力検査⑤ 肩関節								佐々木 広人 伊藤 大亮	

回	授業計画	準備学修	担当
16	徒手筋力検査⑥ 肘関節、前腕	「新・徒手筋力検査法」の該当箇所を予習し、各検査の運動の方向、主動作筋とその起始停止、支配神経、神経レベルを覚えて授業に臨んでください (予習・復習 各1時間程度)	佐々木 広人 伊藤 大亮
17	徒手筋力検査⑦ 手関節		佐々木 広人 伊藤 大亮
18	徒手筋力検査⑧ 手指、母指		佐々木 広人 伊藤 大亮
19	徒手筋力検査⑨ 頭頸部、体幹		佐々木 広人 伊藤 大亮
20	徒手筋力検査⑩ 顔面		佐々木 広人 伊藤 大亮
教科書	「PT・OTビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学」羊土社 「新・徒手筋力検査法」協同医書出版		
参考文献	「図解理学療法検査・測定ガイド 第2版」内山靖編、文光堂 「標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学 第2版」内山靖編、医学書院		
備考	A B 別 2 クラス 実技可能な服装で参加すること。 講義により、小テストや課題を課す場合がある。その場合は、次回講義時に返却・解説する。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

						科目ナンバリング				
						RPMc03				
学修成果	1	2	3	4	5					
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力					
			●							
科目名	運動器障害理学療法評価学実習				単位認定者	伊藤 大亮		評価の方法	試験(実技)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		試験(筆記)	40 %
						授業時間数	40 時間		授業内課題 (レポート等)	10 %
					授業形態	実習	授業回数		20 回	
授業の概要	本科目では、主として整形外科疾患の病態を把握するための検査手技や運動器障害に必要な理学療法の検査・測定をするための基本的な技術を修得する。また、運動器障害の病態、病態を捉えるための画像所見および評価、リスク管理の把握、運動器障害における理学療法評価について学修する。									
到達目標	1. 運動器障害に対する各種評価の意義、方法、結果の解釈ができるようになる。 2. 各運動器系の検査を実践できるようになる。									
学修者への期待等	・本講義に参加する際、各回の学修箇所をしっかりと予習して臨むこと。 ・講義内でのグループ学修を主体的に行い、評価の知識、技術の修得のために能動的な学修を期待する。 ・講義の理解度（到達度）を確認するため、講義中に小テストおよび実技確認テストを実施することがある。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	運動器障害における理学療法評価総論					配付資料の「総論」の予習復習（30分程度）			佐々木 広人	
2	疼痛の評価（運動器に関連した疼痛評価）					配付資料「疼痛評価」の予習復習（30分程度）			佐々木 広人	
3	筋力の評価					配付資料「筋力の評価」の予習復習（30分程度）			佐々木 広人	
4	持久力の評価					配付資料「持久力評価」の予習復習（30分程度）			佐々木 広人	
5	姿勢評価の意義、異常姿勢					配付資料「姿勢の評価」の予習復習（30分程度）			佐々木 広人	
6	アライメント評価 静的アライメント					配付資料の「アライメント評価」の予習復習（30分程度）			佐々木 広人	
7	アライメント評価 動的アライメント					配付資料の「アライメント評価」の予習復習（30分程度）			佐々木 広人	
8	アライメント評価の症例検討 グループワーク					グループワーク・発表準備（1時間）			佐々木 広人	
9	上肢運動器系の検査 肩関節					配付資料の「上肢運動器系の検査 肘関節」の予習復習（30分程度）			伊藤 大亮 大橋 孝子	
10	上肢運動器系の検査 肘関節					配付資料の「上肢運動器系の検査 手関節」の予習復習（30分程度）			伊藤 大亮 大橋 孝子	
11	上肢運動器系の検査 手関節					配付資料の「下肢運動器系の検査 股関節」の予習復習（30分程度）			伊藤 大亮 大橋 孝子	
12	下肢運動器系の検査 股関節					配付資料の「下肢運動器系の検査 股・膝関節」の予習復習（30分程度）			伊藤 大亮 大橋 孝子	
13	下肢運動器系の検査 股関節・膝関節					配付資料の「下肢運動器系の検査 膝関節」の予習復習（30分程度）			伊藤 大亮 大橋 孝子	
14	下肢運動器系の検査 膝関節					配付資料の「下肢運動器系の検査 足関節」の予習復習（30分程度）			伊藤 大亮 大橋 孝子	
15	下肢運動器系の検査 足関節					配付資料の「脊柱・骨盤の検査 腰部」の予習復習（30分程度）			伊藤 大亮 大橋 孝子	

回	授業計画	準備学修	担当
16	脊柱・骨盤の検査 頸部	配付資料の「脊柱・骨盤の検査 腰部」の予習復習（30分程度）	伊藤 大亮 大橋 孝子
17	脊柱・骨盤の検査 腰部	配付資料の「脊柱・骨盤の検査 仙腸関節」の予習復習（30分程度）	伊藤 大亮 大橋 孝子
18	脊柱・骨盤の検査 骨盤	配付資料「筋力測定」の予習復習（30分程度）	伊藤 大亮 大橋 孝子
19	医用画像を含む症例検討（臨床推論 評価）	配付資料の「まとめ」の予習復習（30分程度）	佐々木 広人
20	医用画像を含む症例検討（臨床推論 まとめ）	配付資料の「まとめ」の予習復習（30分程度）	佐々木 広人
教科書	「PT・OTビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学第2版」下田信明他編、羊土社 ※基礎理学療法評価学実習と同じ教科書を使用する。		
参考文献	「PT・OTのための測定評価6 整形外科的検査」伊藤俊一監修、三輪書店 「運動器リハビリテーションの機能評価Ⅰ・Ⅱ」David J. Magee、エルゼビア・ジャパン 「図解理学療法検査・測定ガイド」第2版 奈良勲、内山靖、文光堂 「理学療法評価学 障害別・関節別評価のポイントと実際」市橋則明、文光堂 「理学療法評価学」改訂第6版 松澤正、江口勝彦、金原出版株式会社		
備考	A B別2クラス 実技可能な服装で参加すること。 グループワーク課題においては発表内容をレポートにまとめ、提出を課すことがある。 その場合は、次回講義時に返却・解説する。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	RPMd10				
			●							
科目名	物理療法学				単位 認定者	網本 和		評価の方法	試験（筆記）	90 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2 年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内課題 （レポート等）	10 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
							授業回数		15 回	
授業の概要	理学療法において物理療法は、運動療法と同様に有効な治療法の一つである。本科目では、物理療法の基本知識である物理療法の原理、目的、生理的作用、適応、禁忌について学修する。物理療法の各機器と生理学的作用を理解することで、各疾患や障害に適した物理療法を選択し、正しく使用するための方法とその効果判定についても学修する。									
到達目標	・各物理療法の生理的効果・作用および禁忌を物理的特性に基づいて説明できるようになる。 ・理学療法対象者に対し、適応疾患と禁忌・効果を考慮し、適切な物理療法を選択できるようになる。									
学修者への期待等	使用するテキストには、適宜WEB動画が配置されているので予習時に見ておくことが望ましい。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	物理療法と温熱療法の概要				テキスト2ページから10ページ、30ページから44ページを予習すること（30分程度）				網本 和	
2	温熱療法（ホットパック・パラフィン浴）								網本 和	
3	電磁波療法の概要				テキスト45ページから62ページを予習すること（30分程度）				伊橋 光二	
4	超音波療法（超短波・極超短波・ダイアサーミー）								伊橋 光二	
5	光線療法（赤外線・紫外線・レーザー）				テキスト204～233を予習すること（30分程度）				網本 和	
6	寒冷療法（コールドパック・コールドバッグ・アイスクリッカー）				テキスト74ページ～89ページを予習すること（30分程度）				網本 和	
7	水治療法（過流浴・気泡浴）				テキスト90ページから105ページを予習すること（30分程度）				網本 和	
8	牽引療法				テキスト256ページから269ページを予習すること（30分程度）				網本 和	
9	電気刺激療法の概要				テキスト106ページから185ページを予習すること（30分程度）				伊橋 光二	
10	電気刺激療法①（TES・EMS・TENS）								伊橋 光二	
11	電気刺激療法②（干渉波・SSP・PHV・MCR・FES）								伊橋 光二	
12	骨折に対する物理療法				UNIPAに事前に資料を配布するので予習すること（30分程度）				網本 和	
13	LBPに対する物理療法								網本 和	
14	OAに対する物理療法								網本 和	
15	スポーツ外傷に対する物理療法								網本 和	
教科書	標準理学療法学「専門分野」物理療法学 第6版 医学書院									
参考文献										
備考	適宜授業内で振り返りの課題（授業内レポート）を課すので、その都度フィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

						科目ナンバリング				
						RPMd11				
学修成果	1	2	3	4	5					
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力					
			●	●						
科目名	物理療法学演習				単位 認定者	伊橋光二・小関友記		評価の 方法	試験（実技）	90 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2 年	開講時期	後期 <th>単位数</th> <td>1 単位</td> <td rowspan="3">授業内課題 （レポート等）</td> <td rowspan="3">10 %</td>	単位数	1 単位		授業内課題 （レポート等）	10 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	演習	授業回数			
授業の概要	本科目は、物理療法学で学修した知識をもとに、実際の物理療法機器の使用方法や治療の実際について学修する。また、症例基盤型学習（CBL：Case Based Learning）を実施し、実際の患者に対して実施することを想定した演習を行うことで、使用方法、注意事項を含め実践的な技術を身につけることを目指す。									
到達目標	・各物理療法の生理的効果・作用、実施上の注意点を踏まえ適切に実施できるようになる。 ・各物理療法の禁忌を踏まえリスク管理を行うことができるようになる。 ・患者さんに対する治療を実施する際の説明や患者に合わせた説明ができるようになる。									
学修者への期待等	・演習の各項目について事前に手引きを確認し、時間内に実施できるように準備する。 ・実施した物理療法に対する生体の反応を計測し、客観的に把握できるようになる。 ・実際に臨床で実践できるように授業以外の時間も利用して繰り返し練習すること。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	物理療法を実施する際の注意					配付資料（UNIPA）を予習する（30分程度）			網本 和	
2	温熱療法（ホットパック・パラフィン浴）の実践					各項目をグループごとに毎週順番に実施するので、手引きの該当部分を予習する（30分程度）			大橋孝子	
3	電磁波療法（超短波・極超短波）の実践								大橋孝子	
4	超音波療法（超短波・極超短波・ダイアサーミー）の実践								大橋孝子	
5	光線療法（赤外線・紫外線・レーザー）の実践								小関 友記	
6	寒冷療法（コールドパック・アイスクリッカー）の実践								小関 友記	
7	水治療法（過流浴・気泡浴）の実践								小関 友記	
8	牽引療法の実践								小関 友記	
9	電気刺激療法①（NMES・FES）の実践								伊橋 光二	
10	電気刺激療法②（TENS・SSP）の実践								大橋孝子	
11	電気刺激療法③（干渉波・PHV・MCR）の実践								大橋孝子	
12	骨折に対する物理療法の実践					物理療法学（前期）第12回を復習する（30分程度）			大橋孝子	
13	OAに対する物理療法の実践					物理療法学（前期）第13回を復習する（30分程度）			大橋孝子	
14	LBPに対する物理療法の実践					物理療法学（前期）第14回を復習する（30分程度）			小関 友記	
15	スポーツ外傷に対する物理療法の実践					物理療法学（前期）第15回を復習する（30分程度）			小関 友記	
教科書	標準理学療法学「専門分野」物理療法学 第6版 医学書院									
参考文献	演習の手引きを配付する（UNIPA）									
備考	A B 別 2 クラス 各物理療法の実践においては実施記録を作成する。作成した記録に対し適宜フィードバックを講義内にて実施する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	RPMd14				
			●							
科目名	日常生活活動学				単位認定者	金谷 さとみ		評価の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2 年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内課題 （小テスト）	30 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	本科目では、日常生活活動の概念と範囲を理解し、正常な日常生活活動を理解した上で、動作の獲得方法や介助・支援の方法について学ぶ。本講義では、FIM（Functional Independence Measure）やBI（Barthel Index）などの標準化されたADL評価や個々の評価、介助法やポジショニング、ADLを支援する機器としての福祉用具、歩行補助具、車いすの構造と周辺用具（クッション、移乗補助器具）などの基本的な知識について学修する。									
到達目標	1. 日常生活活動学（ADL）の概念や範囲、ADLと生活の質（QOL）の関係性を理解することができる。 2. 標準化された評価（FIMやBI）の採点基準を理解し、ある程度の助言下で利用することができる。 3. ADLを支援する機器や環境についての視野を広げることができる。									
学修者への期待等	・対象者の日常生活を改善する事は、生活の質を高める一つの手段である事を理解してほしい。 ・日常生活活動学は、他の科目と非常に関連性のある科目である。他科目との関連性を考慮した予習・復習を期待したい。									
回	授業計画					準備学修				
1	ADLの概念や範囲、ADLとQOLの関係性					教科書P14～P17を読んでまとめる（30分程度）				
2	ADLと障害（ICIDHとICF）					教科書P18～P21を読んでまとめる（30分程度）				
3	できるADL（BI）の評価 IADL評価とその重要性					教科書P22～P27を読んでまとめる（30分程度）				
4	しているADL（FIMセルフケア・排泄管理・移乗）の評価					教科書P22～P37のセルフケア・排泄管理・移乗の部分を読んでまとめる（30分程度）				
5	しているADL（FIM移動・コミュニケーション・社会的認知）の評価とその他ADL評価法					教科書P22～P37の移動・コミュニケーション・社会的認知の部分を読んでまとめる（30分程度）				
6	ADLの運動学的分析に必要なバイオメカニクス					事前資料を確認する（30分程度）				
7	姿勢の名称と姿勢分析のポイントと介入					事前資料を確認する（30分程度）				
8	ADLを支援する機器（食事・整容・更衣・入浴動作関連）					教科書P38～P95の該当部分を読んでまとめる（30分程度）				
9	ADLを支援する機器（トイレ・起居・移乗動作関連）					教科書P38～P95の該当部分を読んでまとめる（30分程度）				
10	歩行の重要性和歩行補助具の名称と役割					歩行補助具について調べる（30分程度）				
11	車いす（名称、分類、基本寸法、周辺用具）					車いすについて調べる（30分程度）				
12	福祉用具支給制度とその他支援機器（ECS、意思伝達装置、介護ロボットなど）					福祉用具支給制度とその他支援機器について調べる（30分程度）				
13	生活環境とADL、QOLの関係性					教科書P96～P297の該当部分を読んでまとめる（30分程度）				
14	生活環境と法的諸制度					教科書P96～P297の該当部分を読んでまとめる（30分程度）				
15	生活環境としての住宅と住宅改修					教科書P302～P330を読んでまとめる（30分程度）				
教科書	「PT・OTビジュアルテキストADL」 羊土社									
参考文献										
備考	授業内課題は、次回の授業時に返却・解説する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	RPMd15				
			●	●						
科目名	日常生活活動学実習				単位認定者	金谷さとみ・小関友記		評価の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		試験（実技）	30 %
						授業時間数	40 時間			
					授業形態	実習	授業回数		20 回	
授業の概要	ADLはリハビリテーション専門職にとって最も重要な概念であり、実践技術である。本科目は、日常生活活動学で学んだ知識を活かし、日常生活に関する理学療法の一連の流れ（ADL評価、治療や介助・支援方法）を理解し、より実践的な疾患別のADL介助やADL指導方法について学修する。寝返り動作や起き上がり動作などの基本動作を中心とした各動作の介助、指導方法について実践する。また、歩行補助具である杖・松葉杖・車いすにおける選び方や使用方法の実際を実践する。									
到達目標	1. 基本動作を中心とした各動作の介助・指導を行うことができる。 2. 日常生活に関する理学療法の一連の流れ（ADL評価、治療や介助・支援方法）を理解できる。									
学修者への期待等	・ 基本的介助誘導の講義では、動きやすい服装で参加してください。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	日常生活活動学の必要性				指定教科書の該当箇所をよく読み、予習する（30分程度）				金谷 さとみ	
2	寝返り・起き上がり動作の基本的介助・誘導				UNIPAに投稿された事前資料を予習する（30分程度）				森永 雄	
3	起立・移乗動作の基本的介助・誘導								森永 雄	
4	ベッド上移動・車いす移動の基本的介助・誘導								森永 雄	
5	歩行・階段動作の基本的介助・誘導（T-cane、Q-cane）								小関 友記 森永 雄	
6	歩行・階段動作の基本的介助・誘導（松葉杖）の基本的介助・誘導								小関 友記 森永 雄	
7	車いす上移動の基本的介助・誘導								森永 雄	
8	脳血管疾患におけるADL指導の実際（基本動作中心）				指定教科書の該当箇所をよく読み、予習する（30分程度）				小関 友記	
9	脳血管疾患におけるADL指導の実際（生活関連動作中心）				指定教科書の該当箇所をよく読み、予習する（30分程度）				小関 友記	
10	神経筋疾患におけるADL指導の実際				指定教科書の該当箇所をよく読み、予習する（30分程度）				坂上 尚穂	
11	神経難病におけるADL指導の実際				指定教科書の該当箇所をよく読み、予習する（30分程度）				坂上 尚穂	
12	呼吸器・循環器疾患におけるADL指導の実際				指定教科書の該当箇所をよく読み、予習する（30分程度）				荒牧 隼浩	
13	関節リウマチにおけるADL指導の実際				指定教科書の該当箇所をよく読み、予習する（30分程度）				鈴木 裕治	
14	人工股関節全置換術後におけるADL指導の実際				指定教科書の該当箇所をよく読み、予習する（30分程度）				荒牧 隼浩	
15	脊髄損傷（四肢麻痺）におけるADL指導の実際				指定教科書の該当箇所をよく読み、予習する（30分程度）				小関 友記	

回	授業計画	準備学修	担当
16	脊髄損傷（対麻痺）におけるADL指導の実際	指定教科書の該当箇所をよく読み、予習する（30分程度）	小関 友記
17	症例検討（整形外科疾患）	UNIPAに投稿された事前資料を予習する（30分程度）	小関 友記
18	グループワーク（整形外科疾患）		小関 友記
19	症例検討（脳血管疾患）	UNIPAに投稿された事前資料を予習する（30分程度）	小関 友記
20	グループワーク（脳血管疾患）		小関 友記
教科書	「PT・OTビジュアルテキストADL」 羊土社		
参考文献			
備考	A B別2クラス 【評価】試験（実技）30％は随時試験であり、「2-7回の基本的介助・誘導（森永）」から出題し、態度・技能・表現の3要素から採点を行う。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

リハビリテーション学部
作業療法学専攻
2 年生

■ 専門科目シラバス

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ROfb01				
			●							
科目名	精神医学演習				単位 認定者	三輪 真也		評価 の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位			
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	演習	授業回数		15 回	
授業の概要	精神医学で学修した内容をもとに、作業療法士の対象疾患について、疾患別の病因、病態、診断、治療などを系統的に学修する。精神障害は行為を制限し、生活の質（QOL）の低下をもたらすことから、疾病の診断・医学的治療や作業療法のみならず、生活支援も含む内容を学修する。									
到達目標	各疾患に罹患した患者の姿が具体的にイメージできること、患者が主観的にどのような体験をしているのか推測できること									
学修者への期待等	作業療法の現場に出ても戸惑うことのないように、実際の患者のイメージが持てるよう、集中して受講してください。									
回	授業計画					準備学修				
1	こころ（精神）とは何かを学修する（心の構造と環境への適応について復習し理解を深める）					教科書1章(精神医学とは)・2章(精神障害の成因と分類)を読む（1時間程度）				
2	神経症性障害、パーソナリティ障害、精神病の各病態における心の機能水準の違いを復習し、各病態の理解を深める。					教科書3章(精神機能の障害と精神症状)・4章(精神障害の診断と評価)を読む（1時間程度）				
3	統合失調症の病態・経過・治療について概観し、理解を深める。					教科書9章(統合失調症およびその関連障害)を読む（1時間程度）				
4	統合失調症患者の具体像が理解できるよう、客観的所見を中心に、自験例を含めて解説する。					教科書9章(統合失調症およびその関連障害)を読む（1時間程度）				
5	統合失調症患者の具体像が理解できるよう、主観的体験を中心に、自験例を含めて解説する。					教科書9章(統合失調症およびその関連障害)を読む（1時間程度）				
6	気分障害について概観し、理解を深める。					教科書10章(気分(感情)障害)を読む（1時間程度）				
7	気分障害患者の具体像が理解できるよう、自験例を含めて解説する。					教科書10章(気分(感情)障害)を読む（1時間程度）				
8	器質性精神障害全般について概観し、理解を深める。					教科書5章(脳器質性精神障害)・6章(症状性精神障害)を読む（1時間程度）				
9	認知症を呈する脳疾患について概観し、理解を深める。					教科書5章(脳器質性精神障害)・6章(症状性精神障害)を読む（1時間程度）				
10	認知症患者の具体像が理解できるよう、客観的所見を中心に、自験例を含めて解説する。					教科書5章(脳器質性精神障害)・6章(症状性精神障害)を読む（1時間程度）				
11	認知症患者の具体像が理解できるよう、主観的体験を中心に、自験例を含めて解説する。					教科書5章(脳器質性精神障害)・6章(症状性精神障害)を読む（1時間程度）				
12	発達特性に関する理解を深め、注意欠如多動症や自閉スペクトラム症を理解する。					教科書14章(精神遅滞[知的障害])・15章(心理的発達の障害)を読む（1時間程度）				
13	特異な発達特性を有する患者の具体像を理解できるよう、客観的所見を中心に、自験例を含めて解説する。					教科書14章(精神遅滞[知的障害])・15章(心理的発達の障害)を読む（1時間程度）				
14	特異な発達特性を有する患者の具体像を理解できるよう、主観的体験を中心に、自験例を含めて解説する。					教科書14章(精神遅滞[知的障害])・15章(心理的発達の障害)を読む（1時間程度）				
15	補足、まとめ					第14回に指定のあった教科書範囲を読む（1時間程度）				
教科書	『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学』 奈良 勲 著、医学書院									
参考文献	講義の中で適宜紹介する。									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReMa02				
	●	●	●	●						
科目名	トランスレーショナルセミナーⅡ				単位認定者	酒井 弘美		評価の方法	授業内課題 (レポート等)	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	2年	開講時期	通年	単位数	1 単位		授業内課題 (発表)	20 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	演習	授業回数		15 回	
授業の概要	トランスレーショナルセミナーⅠ～トランスレーショナルセミナーⅣは、主体的・能動的な学修能力を形成しながら学びの充実度を高め、大学生活において重要な、学生間・学年間のつながりを築くための科目である。 トランスレーショナルセミナーⅡでは、良好な人間関係を構築する姿勢や態度を養い、学生、社会人、医療従事者として求められるコミュニケーションスキルの修得を目指す。また、グループワークなどを通じて、作業療法に関する様々なテーマについて学修する。									
到達目標	1. 相手の考えを受容し、認めることができる 2. 相手の意図していることを汲み取ることができる 3. 相手に合わせて自分の意見を適切に伝えることができる 4. 社会人として求められる必要なコミュニケーションを実践できる 5. 医療従事者として必要なコミュニケーションを実践できる 6. 学生間、学年間でお互いに助け合い、円滑に議論を進めることができる									
学修者への期待等	自分と他者の考えやその表現方法の違いなどについて、できるだけ理解しようと心がけながら参加してほしい。									
回	授業計画					準備学修				
1	【1～2年生合同】作業療法を学ぶ意義					特になし。				
2	【1～2年生合同】作業療法を学ぶということ ディスカッション					課題がある場合は、事前に教員から提示する。 (30分程度)				
3	作業療法とは何か 作業療法の種類①グループワーク					課題がある場合は、事前に教員から提示する。 (30分程度)				
4	作業療法とは何か 作業療法の種類②発表					課題がある場合は、事前に教員から提示する。 (30分程度)				
5	理想とする作業療法像は何か①グループワーク					課題がある場合は、事前に教員から提示する。 (30分程度)				
6	理想とする作業療法像は何か②発表					課題がある場合は、事前に教員から提示する。 (30分程度)				
7	コミュニケーションとは何か					課題がある場合は、事前に教員から提示する。 (30分程度)				
8	コミュニケーション能力①(自己統制と他者受容、傾聴力)					課題がある場合は、事前に教員から提示する。 (30分程度)				
9	コミュニケーション能力②(読解力と要約力)					課題がある場合は、事前に教員から提示する。 (30分程度)				
10	コミュニケーション能力③(伝える力)					課題がある場合は、事前に教員から提示する。 (30分程度)				
11	社会人としてのコミュニケーション能力①(報告、連絡、相談)					課題がある場合は、事前に教員から提示する。 (30分程度)				
12	社会人としてのコミュニケーション能力②(挨拶、電話の掛け方)					課題がある場合は、事前に教員から提示する。 (30分程度)				
13	社会人としてのコミュニケーション能力③(メールの対応)					課題がある場合は、事前に教員から提示する。 (30分程度)				
14	医療従事者としてのコミュニケーション能力①(言語コミュニケーション、非言語コミュニケーション)					課題がある場合は、事前に教員から提示する。 (30分程度)				
15	医療従事者としてのコミュニケーション能力②(ミラーリング、ペーシング、質問の仕方)					課題がある場合は、事前に教員から提示する。 (30分程度)				
教科書	「わたし」を伝えるコミュニケーションワークブック 湯口 恭子 晃洋書房									
参考文献	適宜、紹介する。									
備考	【担当教員】外里、酒井、齋藤、須藤、戸田、熊谷、高橋 授業内課題の発表については授業内で講評を行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ROMc01				
			●							
科目名	作業療法評価学				単位 認定者	酒井 弘美		評価の方法	試験（筆記）	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位			
						授業時間数	15 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	作業療法（Occupational Therapy;OT）にとって評価は重要とされている。対象者の障害や予後予測を踏まえた上で、対象者の生活課題を明らかにするための評価の実践が行えるよう、評価の目的と概要について学ぶ。また、各領域で実施する、医用画像を含む情報収集、面接、観察、効果判定、記録・報告など一連の流れと手法について理解する。									
到達目標	1. 作業療法評価の意義や目的を説明できる 2. 作業療法評価の進め方について説明できる 3. 面接、観察、検査・測定それぞれの要点について説明できる									
学修者への期待等	作業療法評価の学修にあたり、各回に予習・復習を行うことで内容を十分理解し、作業療法評価の演習授業につながるよう、積極的に授業に取り組むことを期待する。									
回	授業計画				準備学修					
1	作業療法評価の意義、目的について				1年次に学修した作業療法概論の授業資料を再確認し、作業療法について再確認しておくこと（60分程度）					
2	作業療法評価のプロセス				前回の授業内容を復習しておくこと（30分程度）					
3	面接評価、作業プロフィール				前回の授業内容の復習とともに、教科書の面接の項目、また事前に提示する資料を読んでおくこと（60分程度）					
4	観察評価（動作分析、活動分析、作業遂行分析）				前回の授業内容の復習とともに、教科書の観察の項目、また事前に提示する資料を読んでおくこと（60分程度）					
5	検査・測定（医用画像評価含む）				前回の授業内容の復習とともに、教科書の検査・測定の項目、また事前に提示する資料を読んでおくこと（60分程度）					
6	クリニカルリーズニング（臨床的推論）				前回の授業内容の復習とともに、教科書の臨床推論の項目、また事前に提示する資料を読んでおくこと					
7	生活行為向上マネジメント（MTDLP）				前回の授業内容の復習とともに、教科書の面接の項目、また事前に提示する資料を読んでおくこと（60分程度）					
8	評価記録の作成				前回の授業内容の復習とともに、教科書の記録の項目を読んでおくこと（60分程度）					
教科書	「PT・OTビジュアルテキスト、リハビリテーション評価学」 羊土社									
参考文献	適宜紹介する									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ROMc02				
			●							
科目名	身体障害作業療法評価学演習Ⅰ				単位 認定者	酒井弘美 戸田祐子		評価の方法	授業内課題 （技術）	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	○T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題 （レポート等）	50 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	
							授業回数		15 回	
授業の概要	対象者の身体機能障害を評価するために必要な基礎的な知識と実践的な技術を学修する。バイタルサインの測定に加え、身体障害作業療法の臨床で広く用いられる、形態計測や関節可動域測定、徒手筋力検査、感覚検査、筋緊張検査、反射検査等について、評価の意義や目的、方法、記録、結果の解釈について学修、修得する。また、評価手技の実習を通して、対象者が安心・安楽に評価を受けるためのコミュニケーションについても学ぶ。									
到達目標	1. 各評価の目的・実施方法が説明できるようになる 2. 各評価を基本手順で実施できるようになる									
学修者への期待等	対象者の身体機能における課題と強みを知るために正確な評価は欠かせません。評価の目的を知ったうえで授業に臨んでください。授業開始前に事前学習について質問しますので準備し臨みましょう。また、復習も行い評価の技能の習得を心がけてください。この授業は実技になりますので、動きやすい服装で参加ください。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	全身確認、バイタル測定：呼吸・血圧・意識障害					教科書第3章 P79～95を読んで授業に臨むこと（30分程度）			酒井 弘美 齋藤 佑樹	
2	形態計測：四肢長、周径、体格指標					教科書第5章 P162～176を読んで授業に臨むこと（30分程度）			戸田 祐子 高橋 慧	
3	関節可動域測定①：上肢					教科書第5章 P218～222、P226～232、P237を読んで授業に臨むこと（30分程度）			戸田 祐子 高橋 慧	
4	関節可動域測定②：下肢					教科書第5章 P233～240を読んで授業に臨むこと（30分程度）			戸田 祐子 高橋 慧	
5	関節可動域測定③：体幹					教科書第5章 P233～225、P237、P240を読んで授業に臨むこと（30分程度）			戸田 祐子 高橋 慧	
6	関節可動域測定④：まとめ					これまでの復習をして授業に臨むこと（30分程度）			戸田 祐子 高橋 慧	
7	筋力検査①：上肢					教科書第5章 P242～P254、P260～269を読んで授業に臨むこと（30分程度）			戸田 祐子 高橋 慧	
8	筋力検査②：下肢					教科書第5章 P269～278を読んで授業に臨むこと（30分程度）			戸田 祐子 高橋 慧	
9	筋力検査③：体幹					教科書第5章 P255～259を読んで授業に臨むこと（30分程度）			戸田 祐子 高橋 慧	
10	筋力検査④：まとめ					これまでの復習をして授業に臨むこと（30分程度）			戸田 祐子 高橋 慧	
11	感覚検査①：表在感覚					教科書第5章 P177～187を読んで授業に臨むこと（30分程度）			戸田 祐子 高橋 慧	
12	感覚検査②：深部感覚					教科書第5章 P187～194を読んで授業に臨むこと（30分程度）			戸田 祐子 高橋 慧	
13	筋緊張検査					教科書第5章 P213～217を読んで授業に臨むこと（30分程度）			戸田 祐子 高橋 慧	
14	深部腱反射					教科書第5章 P203～212を読んで授業に臨むこと（30分程度）			戸田 祐子 高橋 慧	
15	姿勢反射					教科書第5章 P279～307を読んで授業に臨むこと（30分程度）			戸田 祐子 高橋 慧	
教科書	「PT・OTビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学 第2版」潮見泰蔵、下田信明 編集 羊土社 「新・徒手筋力検査法」Dale Avers 著 Marybeth Brown 著 津山直一 訳 中村耕三 訳 協同医書出版									
参考文献										
備考	授業内で実技（技術）確認テストを行い、フィードバックします。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果						科目ナンバリング	
						ROMc03	
12345							
人間基盤力連携協働力専門実践力学術探究力課題解決力							
						●	
</							

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ROMc04				
			●							
科目名	精神障害作業療法評価学演習				単位認定者	平山和美 須藤あゆみ		評価の方法	授業内課題（発表）	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	OT	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題（レポート等）	50 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	演習	授業回数		15 回	
授業の概要	精神障害領域の作業療法評価で用いる面接・観察・検査の各手法を適切かつ統合的に活用するための知識、技術、態度を学修する。また、各種評価法の実施結果から得られた情報を記述し、その要約を発表することを通し、情報収集から分析、統合に必要な思考力と問題解決能力を高める。									
到達目標	1. 各評価の目的・実施方法が説明できるようになる 2. 各評価を基本手順で実施できるようになる									
学修者への期待等	・この科目はグループ学習が多いため、各自積極的な参加を期待する。									
回						準備学修			担当	
1	オリエンテーション 精神障害作業療法の評価の全体像					講義内容を復習すること（30分程度）			平山 和美	
2	自己理解①：エゴグラム					授業内課題を次回まで提出すること（30分程度）			須藤 あゆみ 熊谷 竜太	
3	自己理解②：職業適応検査					授業内課題を次回まで提出すること（30分程度）			須藤 あゆみ 熊谷 竜太	
4	パーソナルスペースの測定					授業内課題を次回まで提出すること（30分程度）			須藤 あゆみ 熊谷 竜太	
5	パーソナルスペースの分析					授業内課題を次回まで提出すること（30分程度）			須藤 あゆみ 熊谷 竜太	
6	情報収集の種類と概要					授業内課題を次回まで提出すること（30分程度）			須藤 あゆみ 熊谷 竜太	
7	面接 質問項目の作成					UNIPAの資料に目を通しておくこと（30分程度）			須藤 あゆみ 熊谷 竜太	
8	面接 実施と振り返り					UNIPAの資料に目を通しておくこと（30分程度）			須藤 あゆみ 熊谷 竜太	
9	生活機能 精神障害者ケアマネジメント、ISDA、SMSF					授業内課題を次回まで提出すること			須藤 あゆみ 熊谷 竜太	
10	生活機能 LASMI、REHAB					UNIPAの資料に目を通しておくこと（30分程度）			須藤 あゆみ 熊谷 竜太	
11	精神機能、知能検査について（GAF、BPRS、WAIS）					UNIPAの資料に目を通しておくこと（30分程度）			須藤 あゆみ 熊谷 竜太	
12	観察評価の種類と概要					UNIPAの資料に目を通しておくこと（30分程度）			須藤 あゆみ 熊谷 竜太	
13	作業遂行機能 ～作品作りの場面から～					観察した場면을記録にまとめること（30分程度）			須藤 あゆみ 熊谷 竜太	
14	作業遂行機能 ～スポーツ場面から～								須藤 あゆみ 熊谷 竜太	
15	社会生活技能								須藤 あゆみ 熊谷 竜太	
教科書	「精神障害と作業療法 病を生きる、病と生きる 精神認知系作業療法の理論と実践 新版」三輪書店									
参考文献	「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学」医学書院									
備考	回収した成果物は後日フィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ROMc05				
			●							
科目名	高次脳機能障害作業療法評価学演習				単位認定者	齋藤 佑樹		評価の方法	授業内課題（技術）	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	O T	必修	2 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題（レポート等）	50 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	演習	授業回数		15 回	
授業の概要	失語、失認、注意障害、半側空間無視、失行、遂行機能障害等の高次脳機能障害を持つ対象者に対する作業療法評価について、演習を通して適切な評価が行えるよう学修する。高次脳機能障害は、自動性・意図性により症状が変化する場合が多いため、評価時の声掛けの方法や観察の視点、解釈の方法等についても実践的な知識と態度を修得する。									
到達目標	1. 各評価の目的・実施方法が説明できるようになる 2. 各評価を基本手順で実施できるようになる									
学修者への期待等	難易度の高い内容を多く含みます。毎回の十分な予習復習と積極的な参加を期待します。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	高次脳機能の評価と治療の流れ（医用画像評価を含む）				授業内容をノートに整理し 復習してください（1時間程度）				齋藤 佑樹 戸田 祐子	
2	意識、見当識の評価（スクリーニング評価）								齋藤・戸田	
3	失語に対する評価								齋藤・戸田	
4	失認に対する評価								齋藤・戸田	
5	注意障害に対する評価（TMT、PASAT、CAT）								齋藤・戸田	
6	注意障害に対する評価結果の解釈								齋藤・戸田	
7	半側空間無視に対する評価（BIT）								齋藤・戸田	
8	半側空間無視に対する評価結果の解釈								齋藤・戸田	
9	失行、行為の障害に対する評価（SPTA）								齋藤・戸田	
10	失行、行為の障害に対する評価結果の解釈								齋藤・戸田	
11	遂行機能障害に対する評価（BADS）								齋藤・戸田	
12	遂行機能障害に対する評価結果の解釈								齋藤・戸田	
13	記憶障害に対する評価（リバーミード行動記憶検査）								齋藤・戸田	
14	記憶障害に対する評価の結果の解釈								齋藤・戸田	
15	知能障害に対する評価								齋藤・戸田	
教科書	石川朗 責任編集：15レクチャーシリーズ作業療法テキスト、高次脳機能障害・実習									
参考文献	適宜紹介します									
備考	ICT活用用教育（UNIPA上で資料提示、課題資料回収を行う）。回収した成果物は後日フィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ROMf05				
		●	●		●					
科目名	生活環境論				単位認定者	外里 富佐江		評価の方法	試験 (レポート)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	O T	必修	2 年	開講時期	後期	単位数	1 単位			
						授業時間数	15 時間			
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	障害者、高齢者が住み慣れた自宅や地域社会において自立した生活を継続することは、対象者のQOL維持・向上の上で重要である。作業療法は、対象者が抱える心身の障害だけでなく、地域や職場・学校環境、住環境を考慮した支援が必要である。本科目では、対象者への適切な支援のため、住環境整備に関する基礎知識を学修する。									
到達目標	1. 福祉のまちづくりに必要な生活環境整備について説明できる 2. 対象者のQOL維持・向上に寄与する住環境の要素について説明できる									
学修者への期待等	生活環境について障害者、高齢者の地域生活を調べ、どのような環境や支援、制度があるのか、グループワークにより調査し発表し討議する。									
回	授業計画					準備学修				
1	オリエンテーション 生活環境の概念					教科書 p 1-14を読んでおくこと。(約30分) グループワークで提示された課題について調べる				
2	生活と福祉の施策をめぐる動向と現状					教科書 p 127-135を読み、生活と福祉の施策について調べておくこと。(約30分)グループワークで提示された課題について調べる				
3	地域における生活環境整備① ～障害者、高齢者の住みよい街づくり～					教科書 p 16-27を読んでおくこと。(約30分) グループワークで提示された課題について調べる				
4	地域における生活環境整備② ～ケアマネジメントにおける生活環境整備～					教科書 p 30-79を読んでおくこと。(約30分) グループワークで提示された課題について調べる				
5	住環境の整備① ～介助・移動（移乗）を前提とした居住環境～					教科書 p 81-100を読んでおくこと。(約30分) グループワークで提示された課題について調べる				
6	住環境の整備② ～ADL自立者を前提にする場合～					教科書 p 101-126を読んでおくこと。(約30分) グループワークで提示された課題について調べる				
7	住環境の整備③ ～高齢者・障害者配慮住宅～					発表による討議質問を回収する				
8	福祉用具・社会生活用具等による生活支援					発表による討議質問への回答を発表する				
教科書	「生活環境学」リハビリテーションテキスト 白田滋 編 メディカルビュー社									
参考文献	随時紹介する。									
備考	老人介護支援制度や障害者の支援制度、社会情勢について、最新情報を得ておくこと。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

リハビリテーション学部

- ナンバリング
- 教員一覧
- 実務経験を有する教員一覧
- オフィスアワー
- 成績評価

ナンバリングについて

ナンバリングとは、授業科目に適切な番号等を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示するものです。

各授業科目には、以下の法則にて符号を付しています。

教育課程の体系性を理解し、主体的な学修を行うために、活用してください。

①学部学科等区分

学部学科等名称（英語名称）	符号
リハビリテーション学部リハビリテーション学科 (Faculty of Rehabilitation Science, Department of Rehabilitation Science)	Re
リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法学専攻 (Faculty of Rehabilitation Science, Department of Rehabilitation Science, Division of Physical Therapy)	RP
リハビリテーション学部リハビリテーション学科作業療法学専攻 (Faculty of Rehabilitation Science, Department of Rehabilitation Science, Division of Occupational Therapy)	RO

②科目区分（大区分）

科目区分名称（英語名称）	符号
教養教育科目 (Liberal Arts subjects)	L
専門基礎科目 (Foundations of Major subjects)	F
専門科目 (Major subjects)	M

③科目区分（小区分）

科目区分に上から順にa,b,c…とアルファベット小文字を付し、符号とする。

④授業科目

科目区分ごとの授業科目に上から順に01, 02, 03…と数字を付し、符号とする。

【ナンバリング例】

例1) リハビリテーション学部リハビリテーション学科

「解剖学Ⅰ」（理学療法学専攻、作業療法学専攻の共通科目）の場合、①Re②F③a④01

→ ナンバリングは「ReFa01」

例2) リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法学専攻

「理学療法学概論」の場合、①RP②M③a④01

→ ナンバリングは「RPMa01」

例3) リハビリテーション学部リハビリテーション学科作業療法学専攻

「作業療法学概論」の場合、①RO②M③a④01

→ ナンバリングは「ROMa01」

ナンバリング一覧

リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法専攻 RP

	科目区分	授業科目の名称	ナンバリング
教 養 科 目 L	言語・情報系 a	日本語表現法	ReLa01
		英語Ⅰ	ReLa02
		英語Ⅱ	ReLa03
		英語Ⅲ	ReLa04
		情報処理Ⅰ	ReLa05
		情報処理Ⅱ	ReLa06
		ICT活用技術	ReLa07
	人文科学系 b	哲学	ReLb01
		生命倫理学	ReLb02
		心理学	ReLb03
		教育心理学	ReLb04
		宗教と民族	ReLb05
	社会科学系 c	人間関係論	ReLb06
		法学入門	ReLc01
		日本国憲法	ReLc02
		経済と政策	ReLc03
		教育学概論	ReLc04
	自然科学系 d	社会学	ReLc05
		社会保障論	ReLc06
		物理学	ReLd01
		生物学	ReLd02
		自然環境と災害	ReLd03
		統計学入門	ReLd04
		健康スポーツⅠ	ReLd05
専 門 基 礎 科 目 F	人体の構造と機能 及び心身の発達 a	健康スポーツⅡ	ReLd06
		解剖学Ⅰ	ReFa01
		解剖学Ⅱ	ReFa02
		解剖学演習	ReFa03
		解剖学実習	ReFa04
		生理学Ⅰ	ReFa05
		生理学Ⅱ	ReFa06
		生理学実習	ReFa07
		運動学総論	ReFa08
		運動学演習Ⅰ	ReFa09
		運動学演習Ⅱ	ReFa010
		運動学実習	ReFa011
		機能解剖学実習	ReFa012
		臨床運動学	ReFa013
	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進 b	人間発達学	ReFa014
		薬理学	ReFb01
		病理学	ReFb02
		小児科学	ReFb03
		老年学	ReFb04
		内科学	ReFb05
		神経学	ReFb06
		整形外科学	ReFb07
		精神医学	ReFb08
		臨床心理学	ReFb09
	保健医療福祉と リハビリテーションの理念 c	栄養学	ReFb10
		救急救命学	ReFb11
		公衆衛生学	ReFb12
		言語聴覚療法概論	ReFb13
		臨床検査・画像診断学	ReFb14
		リハビリテーション概論	ReFc01
		チームアプローチ入門	ReFc02
		保健医療福祉連携論	ReFc03

	科目区分	授業科目の名称	ナンバリング
専 門 科 目 M	基礎理学療法学 a	理学療法学概論	RPMa01
		トランスレーショナルセミナーⅠ	ReMa01
		トランスレーショナルセミナーⅡ	ReMa02
		トランスレーショナルセミナーⅢ	ReMa03
		トランスレーショナルセミナーⅣ	ReMa04
		理学療法研究法Ⅰ	RPMa02
		理学療法研究法Ⅱ	RPMa03
	理学療法管理学b	理学療法管理学	RPMb01
	理学療法評価学 c	理学療法評価学	RPMc01
		基礎理学療法評価学実習	RPMc02
		運動器障害理学療法評価学実習	RPMc03
		神経障害理学療法評価学実習	RPMc04
		内部障害理学療法評価学実習	RPMc05
	理学療法治療学 d	理学療法評価学総合実習	RPMc06
		運動器障害理学療法学	RPMd01
		運動器障害理学療法学演習	RPMd02
		神経障害理学療法学	RPMd03
		神経障害理学療法学演習	RPMd04
		高次脳機能障害学	RPMd05
		内部障害理学療法学	RPMd06
		内部障害理学療法学演習	RPMd07
		神経筋疾患理学療法学	RPMd08
		小児理学療法学	RPMd09
		物理療法学	RPMd10
		物理療法学演習	RPMd11
		義肢装具学	RPMd12
		義肢装具学演習	RPMd13
		日常生活活動学	RPMd14
		日常生活活動学実習	RPMd15
		予防理学療法学	RPMd16
		スポーツ理学療法	RPMd17
		疼痛理学療法	RPMd18
		先端理学療法	RPMd19
	臨床実習 e	臨床実習Ⅰ（体験実習）	RPMe01
		臨床実習Ⅱ（評価実習）	RPMe02
		臨床実習Ⅲ（総合実習）	RPMe03
		臨床実習Ⅳ（総合実習）	RPMe04
		地域リハビリテーション実習	RPMe05
	地域理学療法学 f	地域理学療法学	RPMf01
		地域理学療法学演習	RPMf02
		生活環境論	RPMf03
	特別演習 g	理学療法学総合演習Ⅰ	RPMg01
		理学療法学総合演習Ⅱ	RPMg02

ナンバリング一覧

リハビリテーション学部リハビリテーション学科作業療法学専攻 RO

科目区分			授業科目の名称	ナンバリング
教 養 科 目 L	言語・情報系 a		日本語表現法	ReLa01
			英語Ⅰ	ReLa02
			英語Ⅱ	ReLa03
			英語Ⅲ	ReLa04
			情報処理Ⅰ	ReLa05
			情報処理Ⅱ	ReLa06
			ICT活用技術	ReLa07
	人文科学系 b		哲学	ReLb01
			生命倫理学	ReLb02
			心理学	ReLb03
			教育心理学	ReLb04
			宗教と民族	ReLb05
	社会科学系 c		人間関係論	ReLb06
			法学入門	ReLc01
			日本国憲法	ReLc02
			経済と政策	ReLc03
			教育学概論	ReLc04
専 門 基 礎 科 目 F	自然科学系 d		社会学	ReLc05
			社会保障論	ReLc06
			物理学	ReLd01
			生物学	ReLd02
			自然環境と災害	ReLd03
	人体の構造と機能 及び心身の発達 a		統計学入門	ReLd04
			健康スポーツⅠ	ReLd05
			健康スポーツⅡ	ReLd06
			解剖学Ⅰ	ReFa01
			解剖学Ⅱ	ReFa02
			解剖学演習	ReFa03
			解剖学実習	ReFa04
			生理学Ⅰ	ReFa05
			生理学Ⅱ	ReFa06
			生理学実習	ReFa07
			運動学総論	ReFa08
			運動学演習Ⅰ	ReFa09
			運動学演習Ⅱ	ReFa010
			運動学実習	ReFa011
	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進 b		機能解剖学実習	ReFa012
			臨床運動学	ReFa013
			人間発達学	ReFa014
			薬理学	ReFb01
			病理学	ReFb02
			小児科学	ReFb03
			老年学	ReFb04
			内科学	ReFb05
			神経学	ReFb06
			整形外科学	ReFb07
			精神医学	ReFb08
			精神医学演習	ROFb01
			臨床心理学	ReFb09
			栄養学	ReFb10
	保健医療福祉と リハビリテーションの理念 c		救急救命学	ReFb11
			公衆衛生学	ReFb12
			言語聴覚療法概論	ReFb13
			臨床検査・画像診断学	ReFb14
			リハビリテーション概論	ReFc01
			チームアプローチ入門	ReFc02
			保健医療福祉連携論	ReFc03

科目区分			授業科目の名称	ナンバリング
専 門 科 目 M	基礎作業療法学 a		作業療法学概論	ROMa01
			基礎作業学	ROMa02
			基礎作業学演習Ⅰ	ROMa03
			基礎作業学演習Ⅱ	ROMa04
			トランスレーショナルセミナーⅠ	ReMa01
			トランスレーショナルセミナーⅡ	ReMa02
			トランスレーショナルセミナーⅢ	ReMa03
			トランスレーショナルセミナーⅣ	ReMa04
			作業療法研究法Ⅰ	ROMa05
			作業療法研究法Ⅱ	ROMa06
	作業療法管理学b		作業療法管理学	ROMb01
	作業療法評価学 c		作業療法評価学	ROMc01
			身体障害作業療法評価学演習Ⅰ	ROMc02
			身体障害作業療法評価学演習Ⅱ	ROMc03
			精神障害作業療法評価学演習	ROMc04
	作業療法治療学 d		高次脳機能障害作業療法評価学演習	ROMc05
			作業療法理論	ROMd01
			身体障害作業療法Ⅰ	ROMd02
			身体障害作業療法Ⅱ	ROMd03
			身体障害作業療法演習	ROMd04
			精神障害作業療法	ROMd05
			精神障害作業療法演習	ROMd06
			高齢期作業療法	ROMd07
			高齢期作業療法演習	ROMd08
			発達障害作業療法	ROMd09
			高次脳機能障害作業療法	ROMd10
			日常生活活動学	ROMd11
			義肢装具学	ROMd12
			福祉レクリエーション論	ROMd13
			先端作業療法	ROMd14
	臨床実習 e		臨床実習Ⅰ（体験実習）	ROMe01
			臨床実習Ⅱ（評価実習）	ROMe02
			臨床実習Ⅲ（地域実習）	ROMe03
			臨床実習Ⅳ（総合実習）	ROMe04
			臨床実習Ⅴ（総合実習）	ROMe05
	地域作業療法学 f		地域生活支援論	ROMf01
			地域作業療法学	ROMf02
			職業リハビリテーション論Ⅰ	ROMf03
			職業リハビリテーション論Ⅱ	ROMf04
	特別演習 g		生活環境論	ROMf05
			福祉住環境論	ROMf06
			作業療法学総合演習Ⅰ	ROMg01
			作業療法学総合演習Ⅱ	ROMg02

教員一覧

	氏名	電話番号	E-mail
1	あみもと かず 網本 和	022-308-2071 (代表)	k_amimoto@seiyogakuin.ac.jp
2	はら かずひこ 原 和彦		k_hara@seiyogakuin.ac.jp
3	いはし こうじ 伊橋 光二		k_ihashi@seiyogakuin.ac.jp
4	かねや さとみ 金谷 さとみ		s_kaneya@seiyogakuin.ac.jp
5	とざと ふさえ 外里 富佐江		f_tozato@seiyogakuin.ac.jp
6	ひらやま かずみ 平山 和美		k_hirayama@seiyogakuin.ac.jp
7	さかい ひろみ 酒井 弘美		h_sakai@seiyogakuin.ac.jp
8	さいとう ゆうき 齋藤 佑樹		yu_saitou@seiyogakuin.ac.jp
9	おおわだ ひろみ 大和田 宏美		h_oowada@seiyogakuin.ac.jp
10	やまだ ゆうこ 山田 裕子		y_yamada@seiyogakuin.ac.jp
11	おおはし たかこ 大橋 孝子		t_oohashi@seiyogakuin.ac.jp
12	さかがみ ひさお 坂上 尚穂		h_sakagami@seiyogakuin.ac.jp
13	いとう だいすけ 伊藤 大亮		d_itou@seiyogakuin.ac.jp
14	すとう あゆみ 須藤 あゆみ		a_sutou@seiyogakuin.ac.jp
15	とだ ゆうこ 戸田 祐子		y_toda@seiyogakuin.ac.jp
16	こせき ともり 小関 友記		tm_koseki@seiyogakuin.ac.jp
17	ささき ひろと 佐々木 広人		ht_sasaki@seiyogakuin.ac.jp
18	もりなが ゆう 森永 雄		y_morinaga@seiyogakuin.ac.jp
19	すずき ゆうじ 鈴木 裕治		y_suzuki@seiyogakuin.ac.jp
20	あらまき よしひろ 荒牧 隼浩		y_aramaki@seiyogakuin.ac.jp
21	くまがい りゅうた 熊谷 竜太		r_kumagai@seiyogakuin.ac.jp
22	たかはし さとし 高橋 慧		s_takahashi@seiyogakuin.ac.jp
23	こまつ よしのり 小松 佳路		ys_komatsu@seiyogakuin.ac.jp

実務経験を有する教員一覧

【リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻】

科目名称	履修年次	単位数	教員氏名	実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性
解剖学Ⅰ	1年	2	大和田 宏美	理学療法士としての経験や研究活動を通して、人体の解剖学について理学療法学・作業療法学に必要な知識を教授し、今後学修していく様々な疾患に繋げることができるような授業を展開する。
運動学総論	1年	1	原 和彦	医療福祉関連施設（大学病院、一般病院）での理学療法士としての実務経験を活かし、学生が身体運動の仕組みについて理解を深め、臨床現場に繋げることができるような授業を展開する。
運動学演習Ⅰ	1年	1	原 和彦 坂上 尚穂	原…医療福祉関連施設（大学病院、一般病院）での理学療法士としての運動疾患、中枢疾患の臨床実践と研究を継続してきた経験を生かし、治療的介入を行う上で基礎となる演習を行う。 坂上…理学療法士としての経験が豊富で本科目を教授するに十分な実務経験を有する。
運動学実習	2年	1	原 和彦 森永 雄	原…理学療法士として医療福祉関連施設（大学病院、一般病院）に計19年間勤務している。その大学関連病院での運動疾患、中枢疾患の日々の効果検証などの臨床研究を継続してきた経験を生かして、理学療法を行う上で必要となる運動学を指導する。 森永…理学療法士として医療福祉関連施設（大学病院、一般病院、老人保健施設、通所施設）に計8年間勤務した経験を活かし、運動学や測定機器を用いた運動学研究を指導する。
臨床運動学	2年	2	網本 和 原 和彦	原・網本…医療福祉関連施設（大学病院、一般病院）での理学療法士としての運動疾患、中枢疾患の臨床実践と研究を継続してきた経験を生かし、治療的介入を行う上で必要となる臨床運動学について指導する。
高次脳機能障害学	3年	1	網本 和	理学療法士としての実務経験や研究業績から、高次脳機能障害について教授するとともに、高次脳機能障害の理学療法学について臨床現場に繋げることができるような授業を展開する。
神経筋疾患理学療法学	3年	2	網本 和 大和田 宏美	網本…理学療法士としての実務経験から、自身が経験してきた難病である神経筋疾患患者の理学療法について教授する。 大和田…理学療法士としての実務経験や研究活動から、神経筋疾患患者の理学療法について理解を深められるような授業を展開する。
義肢装具学	3年	2	原 和彦	医療福祉関連施設（大学病院、一般病院）での理学療法士としての実務経験を活かし、学生が義肢装具について理解を深め、臨床現場に繋げることができるような授業を展開する。
義肢装具学演習	3年	1	原 和彦	医療福祉関連施設（大学病院、一般病院）での理学療法士としての実務経験を活かし、学生が義肢装具について理解を深め、臨床現場に繋げることができるような授業を展開する。
合計		13	実務経験を有する教員が担当する科目の単位	
		124	設置基準上の標準単位数	

【リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻】

科目名称	履修年次	単位数	教員氏名	実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性
解剖学Ⅰ	1年	2	大和田 宏美	理学療法士としての経験や研究活動を通して、人体の解剖学について理学療法学・作業療法学に必要な知識を教授し、今後学修していく様々な疾患に繋げることができるような授業を展開する。
運動学総論	1年	1	原 和彦	医療福祉関連施設（大学病院、一般病院）での理学療法士としての実務経験を活かし、学生が身体運動の仕組みについて理解を深め、臨床現場に繋げることができるような授業を展開する。
運動学演習Ⅰ	1年	1	原 和彦 坂上 尚穂	原…医療福祉関連施設（大学病院、一般病院）での理学療法士としての運動疾患、中枢疾患の臨床実践と研究を継続してきた経験を生かし、治療的介入を行う上で基礎となる演習を行う。 坂上…理学療法士としての経験が豊富で本科目を教授するに十分な実務経験を有する。
運動学実習	2年	1	原 和彦 森永 雄	原…理学療法士として医療福祉関連施設（大学病院、一般病院）に計19年間勤務している。その大学関連病院での運動疾患、中枢疾患の日々の効果検証などの臨床研究を継続してきた経験を生かして、理学療法を行う上で必要となる運動学を指導する。 森永…理学療法士として医療福祉関連施設（大学病院、一般病院、老人保健施設、通所施設）に計8年間勤務した経験を活かし、運動学や測定機器を用いた運動学研究を指導する。
臨床運動学	2年	2	網本 和 原 和彦	原・網本…医療福祉関連施設（大学病院、一般病院）での理学療法士としての運動疾患、中枢疾患の臨床実践と研究を継続してきた経験を生かし、治療的介入を行う上で必要となる臨床運動学について指導する。
作業療法管理学	4年	2	齋藤 佑樹	総合病院に14年間勤務した経験の中で、リハビリテーション科の係長として9年、回復期リハビリテーション病棟の作業療法部門責任者として7年の経験がある。また、管理・運営に特化した教科書の編集も行っている。以上の経験を活かし、作業療法管理学を担当する。
作業療法理論	3年	2	齋藤 佑樹	総合病院に14年間勤務した経験の中で、人間作業モデルやカナダ作業遂行モデルなど、作業療法領域の広範囲理論を臨床実践に活用してきた。また、作業療法理論を解説している教科書や専門書を多数編集・執筆している。以上の経験を活かし、作業療法理論を担当する。
日常生活活動学	3年	2	齋藤 佑樹	総合病院に14年間勤務した経験の中で、対象者の日常生活活動能力の向上に特化した病棟である「回復期リハビリテーション病棟」に約10年間勤務してきた。また、日常生活活動に焦点を当てた目標設定を行うアプリケーションの開発も行っている。以上の経験を踏まえ、日常生活活動学を担当する。
合計		13	実務経験を有する教員が担当する科目の単位	
		124	設置基準上の標準単位数	

2025(令和7)年度 オフィスアワー

オフィスアワーとは、教員が学生の皆さんとのコミュニケーションを充実させ、個別に相談を受けるために研究室に在室する時間を設ける制度のことです。

相談を希望する教員のオフィスアワーの時間帯は、掲示などによりお知らせします。指定時間に教員が研究室で待機していますが、臨時の会議や出張などにより不在の場合もありますので、電話・メールなどで事前に連絡をとることをおすすめします。

非常勤の先生には、非常勤講師控室（1階事務室隣にあります）または授業後の教室で相談をすることができます。

成績評価

成績評価基準は次のとおりです。

判定	成績評価	点数	GP
合格 (単位認定)	秀 (AA)	90点以上	4
	優 (A)	80点以上90点未満	3
	良 (B)	70点以上80点未満	2
	可 (C)	60点以上70点未満	1
不合格 (単位認定不可)	不可 (D)	60点未満 (※)	0
	評価不能 (E)	(1) 履修規程第6条第5項により、受験資格を有しない者 (2) 資格取得に係る実習で、各学科が関係法令を踏まえて授業科目ごとに定める時間数を満たさない者	0

(※) 再試験で合格の場合の成績評価は可 (C)、GP は1ポイントとなります。